

1504

①

~~15078~~ 2

南方諸國資源綜覽

昭和十七年五月

Proj. No.	140
S. A. No.	15033
Sack No.	44
Item No.	1A.

文庫外保存
五
671

企 畫 院

凡 例

- 一、本資料は南方地域の重要資源の生産に關して大東亞戰爭勃發以前の數字を檢討し之が整理、集成を試みたものである。
- 一、南方地域の範圍を比律賓、印度支那(佛印)、泰、馬來、北都ボルネオ(舊英領北ボルネオ、サラワク、ブルネイ)、東印度(舊蘭印全域)、ビルマ、印度、セイロン、濠洲、ニュージーランド及ニューカレドニアの十二地域とした。
- 一、調査資源は重要なもの八十八品目を選んだ。
- 一、鑛產物中原鑛石に就ては資料の關係で或は鑛石の數量を採り或は含有金屬純分の數量を採つた。特に其の旨註記のないものは原鑛石其物の數量である。
- 一、合計の部は十二地域合計と、印度、セイロンを除いた他の十地域の計と更に印度、セイロン、濠洲、ニュージーランド及ニューカレドニアを除いたその他の七地域の計との三通りを掲げて、資源分布上より觀たる上記三區劃の地位を窺ふに便ならしめた。
- 一、一九四〇年の生産數字は一般に出揃ひ難い爲、判明せる分は備考欄の左下に記して一應集計外に置いた。
- 一、合計に於て、一部地域に付同一年度の數字なき場合は、其の年度に最も近接した年度の數字を以て之に代へた。例へばマンガニシの部に於て一九三九年度の合計を出す場合、濠洲のみは三九年度の數字不詳の爲、三八年度の數字を以て之に代へたる如きである。
- 一、該當數字なき場合は實線を用ひ、不詳の場合は點線を用ひて、之を表示した。
- 一、統計年度が兩年に互るものは便宜上前年度の生産數字とした。例へば一九三九/四〇年は三九年度となしたるが如きである。
- 一、尙、備考欄は單に主要生産地其他の事項に關して簡単な記述をなしたに過ぎない。
- 一、本資料編纂に當つて使用せる主なる文獻は左の如くである。

(1) 洋 書

International Yearbook of Agricultural Statistics, Rome.
 Engineering and Mining Journal, New York.
 The Mineral Industry, New York.
 The Mineral Industry of the British Empire and Foreign Countries, London.
 Indisch Verslag (Netherland Indian Report), Batavia.
 Statesman's Year-Book, London.
 Statistical Year-Book of the League of Nations, Geneva.
 Statistical Year-Book of the Kingdom of Siam, Bangkok.
 Year-Book of the American Bureau of Metal Statistics, New York.
 Wool Production and Trade, London.
 Annuaire Statistique de l'Indochine, Hanoi.
 Indian Year-Book, Calcutta.
 The Exportcrops of the Netherlands Indies, Batavia.
 Philippine Mining Year-Book, Manila.

本書記載數字利用の場合は、その旨必ず通知の上、本書による
 旨を明記し且つ當該資料二部寄[●]ありたし

企 畫 院

Minerals Yearbook, Washington.
 New Zealand Official Yearbook, Wellington.
 Official Yearbook of the Commonwealth of Australia, Canberra.
 Monthly Statistics of the Production of Certain Selected Industries of India, Calcutta.
 Statistical Abstract for British India, London.
 Statistisches Jahrbuch für das Deutsche Reich, Berlin.
 Statistische Zusammenstellungen über Aluminium, Blei, Kupfer, Nickel, Quecksilber, Silber, Zink und Zin (Metal Statistics), Frankfurt a. M.
 Statistics of the Iron and Steel Industries, London.
 Tin, London.
 The Ceylon Blue Book, Colombo.
 Annual General Report on the Economic, Social and General Conditions of the Island, Colombo.
 Industry Year-Book and Directory (Indian), Calcutta.
 The Cattle Wealth of India, Cawnpore.
 Agriculture and Live-Stock in India, Delhi.
 World Trade in Agricultural Products, Rome.
 Compendium of New Zealand Statistics, Wellington.

(2) 次の官衙の刊行文献

外務省南洋局
 陸軍省主計課別班
 拓務省
 南洋廳

臺灣總督府
 情報局
 企畫院
 其の他

(3) 次の民間諸機關の刊行文献

東亞研究所
 滿鐵東亞經濟調査局
 南洋經濟研究所
 三菱經濟研究所
 南洋協會
 南洋栽培協會
 海外鑛業協會
 比律賓協會
 日印協會
 臺灣拓殖株式會社
 南洋拓殖株式會社
 野村合名海外事業部
 三菱商事株式會社
 三井物産株式會社

淺野物産株式會社
 兼松商店
 東洋棉花株式會社
 日本石油株式會社
 日産農林工業株式會社
 三菱重工業株式會社
 日本發送電株式會社
 日本ボルトランドセメント同業會
 星製藥株式會社
 東山農事株式會社
 スベル・カレドニ-鑛業株式會社
 國際日本協會
 日本水産株式會社

(以上)

昭和十七年五月

總裁官房調査課

南方諸國資源綜覽目次 (八十八品目)

(分類)	(番號)	(頁)	(分類)	(番號)	(頁)
I 鉄類			(6) ダイヤモンド	28	32
(1) 鉄鑛	1	5	(7) 磷鑛石及磷灰石	29	33
(2) 鉄鉄	2	6	IV 燃料及電力		
(3) 鋼塊	3	7	(1) 石炭	30	34
(4) 鋼材	4	8	(2) 石油(原油)	31	35
II 非鉄金屬			(3) 揮發油	32	36
(1) マンガン鑛	5	9	(4) 航空揮發油	33	37
(2) クロム鑛	6	10	(5) 燈油	34	38
(3) ニッケル鑛	7	11	(6) 燃料油	35	39
(4) ポーキサイト	8	12	(7) 機械油	36	40
(5) タングステン鑛	9	13	(8) 電力(發電量)	37	41
(6) モリブデン鑛	10	14	V 纖維		
(7) コバルト	11	15	(1) 羊毛	38	42
(8) アンチモン鑛	12	16	(2) 棉花	39	43
(9) 錫鑛	13	17	(3) 黄麻	40	44
(10) 錫	14	18	(4) マニラ麻	41	45
(11) 銅鑛	15	19	(5) カボック	42	46
(12) 銅	16	20	(6) 綿糸	43	47
(13) 鉛鑛	17	21	VI 生ゴム、皮革及木材		
(14) 鉛	18	22	(1) 生ゴム	44	48
(15) 亜鉛鑛	19	23	(2) 牛皮	45	49
(16) 亜鉛	20	24	(3) 水牛皮	46	50
(17) 白金及白金屬	21	25	(4) 用材	47	51
(18) 水銀	22	26	(5) チーク材	48	52
III 非金屬鑛物			VII 工業及化學原料		
(1) 螢石	23	27	(1) セメント	49	53
(2) 硫黄	24	28	(2) アルコール	50	54
(3) 黒鉛	25	29	(3) 棉實	51	55
(4) 石棉	26	30	(4) ヒマシ	52	56
(5) 雲母	27	31			

(分類)	(番號)	(頁)
(5) ヒマシ油	53	57
(6) コブラ	54	58
(7) 椰子油(ココナツト油)	55	59
(8) パーム油	56	60
(9) パーム核油	57	61
(10) 牛 脂	58	62
(11) タンニン材料	59	63
(12) キナ皮	60	64
(13) デリス	61	65

VIII 食料及嗜好品

(1) 米(白米)	62	66
(2) 小 麥	63	67
(3) 小麦粉	64	68
(4) 馬鈴薯	65	69
(5) トウモロコシ	66	70
(6) タピオカ	67	71
(7) 大 豆	68	72
(8) 落花生	69	73
(9) 胡 麻	70	74

(以上)

(分類)	(番號)	(頁)
(10) 食 塩	71	75
(11) 砂 糖	72	76
(12) 肉 類	73	77
(13) 牛 乳	74	78
(14) 煉 乳	75	79
(15) バター	76	80
(16) 胡 椒	77	81
(17) 珈 琲	78	82
(18) 煙 草	79	83
(19) 鮮魚(漁獲高)	80	84
(20) 魚肉罐詰	81	85
(21) 肉類罐詰	82	86
(22) 果實罐詰	83	87

IX 家 畜

(1) 牛	84	88
(2) 馬	85	89
(3) 豚	86	90
(4) 羊	87	91
(5) 水 牛	88	92

鉄 鑛 石

分類	鉄 鑛 I (1)	獨 : Eisenerz 英 : Iron Ore 佛 : Minerai de fer 蘭 : Ijzererts		單位 千 噸
		年 次	生 産 高	
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	601 012 1,167 893	ルソン島のブラカン州アツガート、カマリネスノルテ州ララップ及バラカレ地方、マリンドケ島のモグボグ、サマール島のベルナニ及バランギカが現在産出を見る主要地である。此の中カマリネスノルテ州の鑛山が最大の出産高を示し、サマール、ブラカン、マリンドケ之に次ぐ、尙未開發鑛床としてミンダナオ島のスリガオの雄大なる鑛床がある。 1940年 = 1,236(千噸)
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	83 130 138 100	①紅河流域の鉄鑛地帯—ハヤト、モリナム、クバヌ、タンマ、リナム、タツコアン、カオバン、ハイイ、エンバイ、ソソロツク、イダオンヌ、ケバオ、タイゲン ②安南鉄鑛床群(安南北端 Than Hoa より中央南部 Tourane に到る地帯)—イエンクウ、ドンケヌ、ヌイバン、カンビン、タンホア ③カンボジア丘陵鉄鑛地帯—著名なるものブノレダック鑛山 1940年 = 288(千噸)
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	バンコック北方ロッブリ鑛山、其の他は主として北泰奥地、南泰、馬來半島部に散在—クラビコーレク、チェンマイ、レルヤ、ナコンシリタマラート、ナコンサワン等に埋藏される。
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1,586 1,642 1,945 1,724	ケルバウ山脈(中央山脈)の東側地帯—ケランタン州のテマンガン、トレンガヌ州のズングン及ケママン、ジョホール州のバトババ、パハン州に散在してゐる。全部邦人企業によつて開發される。同山脈西側地帯—ケダー、メラ、ネグリセムピラン諸州(但し未採掘) 1940年 = 2,300(千噸)
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	ラボック河下流地方、カランに埋藏されると。
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	スマトラ—東海岸州ベンターレン州以外の各州に散在(特にランボロ州のランガル地帯)、ボルネオ—南東州コッタワリンギン及タナ・ラウトに賦存、セレベス—中央湖水地方、南部地方セブク島。
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	26 18 27 24	下ビルマ—テナセリム管區のアムハースト及マグイ地方に賦存 上ビルマ—マンダレー管區、シャン州及ザガイン管區のミーチナ地方、主としてボードウィン鑛山の鉛、銅、亜鉛等の硫化鑛を還元するに用ひらる。
8	印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	2,667 2,883 2,788 2,746	シンダプーム、ケオンジャールボナイ、マニルバーンジ、ボードワンが主産地であつて良質の赤鉄鑛を産し、酸化鉄含有量 60% 以上のもの多く世界一の豊鑛と稱せられる。
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	
10	澳 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1,001 2,287 2,617 2,268	ニューサウスウェイルズ州(タラワンダ、カデア、クーンビンクパーク)タキーンズランド州(チラゴ)、タスマニア州(ブルーノール附近)南オーストラリア州(アイアントップ)クイーンズランド(ドーキ)、この中南オーストラリア州のアイアントップ鑛床は生産の中心であつて富鑛として知られて居る。又西オーストラリア州のヤンピサウズ鑛床が著名である。
11	ニ ュ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	0.6 1.2 1.6 1.1	ネルソン地方、ゴールドン灣に臨むバラバラ及オネカカ、タラトツキ地方のニュープリマウスに埋藏せらる。砂鉄埋藏量は相當巨額なれども未だ完全なる調査は行はれず、但パチー(Patch)附近に於ける埋藏量は五千萬噸以上と推定せらる。磁氣分離は容易であつて、鉄分含有量は平均 50—60% であると。
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	0 36 84 60	1940年 = 450(千噸)
計	A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	7,031 7,814 8,768 7,816	計 4,148 計 2,246
	B 印 度 及 セイロン (8 及 9) を 除 く		5,026 5,980 5,070	計 2,702 計 8,277 計 2,741
	C 印 度 以 下 (8—12) を 除 く			
註	記			

分類	銑 鉄 I (2)	獨 : Roheisen 英 : Pig Iron 佛 : Fonte crue, Fonte brute 蘭 : Rew ijzer		單位 千 噸	
		國 名	年 次		生産高
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	殆ど全部鑛物の儘輸出されてゐた、小規模鑛物工場以外製鐵設備はない。
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	生産の殆ど全部が従來鑛石の儘輸出されてゐた。
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	マレー半島及其附近に製鐵用の石炭を産せざる關係上一部木炭鉄に使用し得る程度であつて大部分原鑛の儘輸出される。
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	民間に小型熔鉄炉を有する鑛物工場があるに過ぎない。
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	製鐵設備はない。
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1,655 1,588 (a)1,800 1,679	—	ジラムシエドプール、ヴィザガバタム、ネガバタムに於けるタタ製鋼株式会社工場、バンブール及クルチの印度鉄鋼株式会社工場、ナブリア(ピラバ附近)のベンガル製鋼所が主要なるものである。
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	
10	濠 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	968 942 (a)1,100 1,002	—	工場は大部分ニューサウスウェールズ及ビクトリアにあつて、ニューサウスウェールズのニューカツスル製鋼所が主要なるものである。
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	1921年にオネカカに鑛鑛炉が建設されたが1935年以降稼行を中止、更に新たな製鐵所建設計畫が1940年半年に完成したが戦争の爲延期されてゐる、建設完了は1942年以後となる見込であり、年産能力約10萬噸の豫定である。
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	ヌーベルカレドニー鑛業会社が鑛石の儘輸出する。
計	A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	2,618 2,525 2,900 2,681	計 968 計 942 計 1,100 計 1,002	計 計 B 印度及セイロン (8及9)を除く C 印度以下(8-12) を除く
註 記	(a) 推定				

分類	銑 鉄 I (3)	獨 : Stahlblock, Gussblock, Rohstahl 英 : Steel Ingots (& Castings) 佛 : Lingot d'acier 蘭 : Staalblok		單位 千 噸	
		國 名	年 次		生産高
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	産出の鉄鑛石は殆ど全部其の儘輸出されてゐた。
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	鑛石の儘鉄鑛の大部分が輸出されてゐた。
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	シンガポールに官營シンガポール港務所及鉄道工場業に小規模鑛物製鋼設備があるに過ぎない。
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	製鉄鋼設備はない。
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	910 952 1,067 976	—	鑛鋼を含む。ジラムシエドプール、ヴィザガバタム、ネガバタムのタタ製鋼株式会社工場バンブール及クルチの印度鉄鋼株式会社工場、ナブリア(ピラバ附近)のベンガル製鋼所が主要なる生産者である。
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	
10	濠 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1,115 1,170 1,270 1,188	—	工場は大部分ニューサウスウェールズ及ビクトリアにある。ニューサウスウェールズのニューカツスル製鋼所が最大なるものである。
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	—	ヌーベルカレドニー鑛業会社が鑛石の儘輸出する。
計	A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	2,025 2,131 2,337 2,164	計 1,115 計 1,170 計 1,270 計 1,188	計 計 B 印度及セイロン (8及9)を除く C 印度以下(8-12) を除く
註 記					

分類	鉄類 I (4)	獨 : Walzwerk-Fertigerzeug- nisse. 佛 : Acier laminé	英 : Rolled Steel Products, Rolled finished steel 蘭 : Gewalste Staalprodukten	単位 千 噸
國名	年次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	産出の鉄鋼石は殆ど全部鋼石の儘輸出されてゐた。	
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	鋼石の儘大部分が輸出されてゐた。	
3 泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
4 馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	製鉄鋼設備はない。	
5 北 部 ボルネオ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
6 東 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
7 ビルマ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	生産設備はない。	
8 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	456 518 577 515	ジラムシエドプール、ヴィザガバタム、ネガバタムのタタ製鋼株式会社工場、バンブール及クルチの印度製鋼株式会社工場、ナブリア(ヒラバ附近)のベンガル製鋼所が主なる生産者である。	
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
10 濠 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	682 851 921 818	工場は大部分ニューサウスウェールズ及ビクトリアにあつて、ニューサウスウェールズのニューカッスル製鋼所が最大なるものである。	
11 ニュージ ラ ン ド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
12 ニュー カレドニア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	ヌーベルカレドニー製鋼会社が鋼石の儘輸出する。	
計 A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	1,188 1,364 1,498 1,333	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く
註 記				

分類	非鉄金属 II (1)	獨 : Manganerz 佛 : Minerai de Manganèse	英 : Manganese Ore 蘭 : Mangaanerts	単位 千 噸
國名	年次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	12.2 49.4 30.4 30.3	プスアング島、ボホール島、シキホール島—以上三島の鋼床は有望鋼床と認められてゐる。其の他ルソン島のイロコスノル州、ブルゴス市附近のプタネダラ海岸地方及カマリネス州等有名である。現在、プスアング及ボホール島で産出の大半を占めてゐる。平均品位 = 45—50% 1940年 = 52.2(千噸)	
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	5.3 2.2 2.4 3.3	東京のカオバン地方(リーナム)と安南のヴァン地方のマンガン含有鉄鋼床から産出される、未開発のものに東京のピアウアクがある。	
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	埋蔵—セロメレーン形で、コクラム(チヨンブリ)に発見される、鋼石は 40乃至 50% の脱酸マンガンを含む—企業化可能と云はれる。	
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	33.3 32.5 32.0 32.6	ケラントン州タンドウ鋼山とトレンガス州ケママンのマチヤンサタフン鋼山とは邦人企業によつて開発されてゐる、品質は印度のマンガン鋼に劣る。平均品位 = 30%	
5 北 部 ボルネオ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	北方のタリビタン附近に埋蔵されてゐるといふ。	
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	11.1 9.7 12.1 11.0	中部ジャバのチジョランヌ、チヨグジャカルタ、ブレアンゲルに産す、ボルネオのベンガロン附近で曾て 1930 年に 400 噸の産出を見た。平均品位 = 50—55% 1940年 = 11.5(千噸)	
7 ビルマ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1,068.5 983.5 (b) 950.0 1,000.7	中央州は全産額の約 6 割を占む、マドラス州及ボンベイ州之に次ぐ、其他ビハル、オリッサ州、マイソール藩王国、中央印度である、印度は全産額に占るマンガン鋼の埋蔵を認めるがその中心はダルワールである。平均品位 = 47—52%	
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
10 濠 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.1 1.2 0.6 0.6	ニューサウスウェールズ州及タインズランド州にて産出する。	
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	(a) 0.1 0.5 0.3	ボンベイ(Bombay)及ヒュニユア(Hunua)鋼山にて目下採行される、賦存地としてはオタウ、ワイロワ、ブルワ、マンガバイ、オトンガワイ、ヘケ島、タイエリマウス、テイキオラ島等である。	
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	本島はマンガン鋼の賦存ありて、その品位は 40—50% と云はれる。	
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	1,131.6 1,078.0 1,027.0 1,078.8	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く
註 記	(a) 5 噸の生産 (b) 推定			

分類		非鉄金属 II (2)	獨 : Chromerz 佛 : Minerai de Chrome	英 : Chrome Ore 蘭 : Chromerz	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	79.5	クロム鑛床東部、カマリネス・スール(ルソン島)に始りサマール島、ホモニホン島、ダイナガツト島に到り、ミンダナオ島のスリガオ州に終る、鑛床西部—イロコスノルテ州に起り、ザンパレス州、ルバング群島、ミンドロ島北部パナイの西部を通り、ミンダナオ島の中央北部に終る、以上の中顯著なるもの—サンパレス州のマシノロツクは世界一と稱せられるクロム鑛床(品位 29—36%)同州サンタクルス(品位 45—51%)カマリネス・スール州ラゴノイ附近(平均品位50%)等である。 1940年=186.0(千噸)		
	13 (1938)	40.4			
	14 (1939)	132.2			
	以上年平均	84.0			
	以上年平均	84.0			
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	—	タンホア附近に重要なクロム鑛床あり、曾つて 1924—1931 年に約 4 千噸の探掘を見たがその後中止状態最近邦人企業によつて事業繼續される、品位 50—52%と云はる、タンホア附近の賦存地—アラダン、セザームクレマンス、ヴェルケン、ユメート。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
3 泰	昭 12 (1937)	—	スダツト上流地方に埋藏發見される。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
4 馬 來	昭 12 (1937)	—	南東ボルネオ州、セレベス湖水地方(マリリ、ウス、チエレカンの諸川及ラタウ海岸附近の第二次鑛床中に賦存)又北部チモールのアタブ附近に賦存する。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
5 北 部 部 ボルネオ	昭 12 (1937)	—	バルチスタン、マイソール、シグブーム等に産出し、就中バルチスタンの埋藏及産出が最も多い。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
6 東 印 度	昭 12 (1937)	—	ニユーサウスウェルズ州より産出する。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	—	チバギ鑛山の探掘量が全産出の大半を占む、その他—アルファ鑛山、シャグラン鑛山、ダモクレス鑛山、ウエ鑛山、本島クロム鑛の品位=50—54%。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
8 印 度	昭 11 (1936)	50.3	計 128.0 計 79.5 B 印度及セロイン 93.6 C 印度以下(8—12) 40.4 12 (1937) 63.3 (8及9)を除く 185.2 を除く 132.2 13 (1938) 44.8 135.3 84.0 以上年平均 52.8		
	12 (1937)	63.3			
	13 (1938)	44.8			
	以上年平均	52.8			
	以上年平均	52.8			
9 セイロン	昭 12 (1937)	—	計 12.8 計 1.2 B 印度及セイロン 13.2 C 印度以下(8—12) 1.5 13 (1938) — (8及9)を除く 11.0 を除く 1.7 14 (1939) — 12.6 1.7 以上年平均 —		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
10 漢 洲	昭 11 (1936)	0.4	現在カレドニツケル會社の獨占經營—その鑛區、チヲ、ナケテイ、クアウア、ファイオウ、平均品位=4.5%、最高 8—10%、1939 年ニツケル原鑛産出中 5 萬噸は鑛の儘輸出、残り 30 萬噸は品位 77—78% の「マツト」84%にまで荒精練された。		
	12 (1937)	0.5			
	13 (1938)	1.0			
	以上年平均	0.6			
	以上年平均	0.6			
11 ニュージードラ ン ド	昭 12 (1937)	—	計 12.8 計 1.2 B 印度及セイロン 13.2 C 印度以下(8—12) 1.5 13 (1938) — (8及9)を除く 11.0 を除く 1.7 14 (1939) — 12.6 1.7 以上年平均 —		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
12 ニューカレドニア	昭 12 (1937)	48.0	計 12.8 計 1.2 B 印度及セイロン 13.2 C 印度以下(8—12) 1.5 13 (1938) 62.2 (8及9)を除く 11.0 を除く 1.7 14 (1939) 53.0 12.6 1.7 以上年平均 50.7		
	13 (1938)	62.2			
	14 (1939)	53.0			
	以上年平均	50.7			
	以上年平均	50.7			
計 A 全 域	昭 12 (1937)	191.3	(a) 鑛石探掘高より推定		
	13 (1938)	138.4			
	14 (1939)	280.0			
	年 平 均	188.1			
	年 平 均	188.1			

分類		非鉄金属 II (3)	獨 : Nickelerz 佛 : Minerai de nickel	英 : Nickel Ore 蘭 : Nikkelerz	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	—	セレベス—マリリ、ボマラに産す(平均品位=3.3—3.4%)又同じくマタノ及トウテイの兩湖水附近、ボルネオ—バツサルロイの奥地コカラに於て獨逸技師の下に探掘されてゐた。(品位=2.5—4.5%) 1940年=1.8(千噸)(a)		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	—	北ジャン州ナムツのボードウィン鑛山の混合鑛の焙練中にニツケル・スパイスとして産出される、ニツケル・スパイス中のニツケル純分 31.32%		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
3 泰	昭 12 (1937)	—	計 12.8 計 1.2 B 印度及セイロン 13.2 C 印度以下(8—12) 1.5 13 (1938) — (8及9)を除く 11.0 を除く 1.7 14 (1939) — 12.6 1.7 以上年平均 —		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
4 馬 來	昭 12 (1937)	—	計 12.8 計 1.2 B 印度及セイロン 13.2 C 印度以下(8—12) 1.5 13 (1938) — (8及9)を除く 11.0 を除く 1.7 14 (1939) — 12.6 1.7 以上年平均 —		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
5 北 部 部 ボルネオ	昭 12 (1937)	—	計 12.8 計 1.2 B 印度及セイロン 13.2 C 印度以下(8—12) 1.5 13 (1938) — (8及9)を除く 11.0 を除く 1.7 14 (1939) — 12.6 1.7 以上年平均 —		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
6 東 印 度	昭 12 (1937)	—	計 12.8 計 1.2 B 印度及セイロン 13.2 C 印度以下(8—12) 1.5 13 (1938) — (8及9)を除く 11.0 を除く 1.7 14 (1939) — 12.6 1.7 以上年平均 —		
	13 (1938)	0.5			
	14 (1939)	(a) 0.8			
	以上年平均	0.7			
	以上年平均	0.7			
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	1.2	計 12.8 計 1.2 B 印度及セイロン 13.2 C 印度以下(8—12) 1.5 13 (1938) 1.0 (8及9)を除く 11.0 を除く 1.7 14 (1939) 0.0 12.6 1.7 以上年平均 1.0		
	13 (1938)	1.0			
	14 (1939)	0.0			
	以上年平均	1.0			
	以上年平均	1.0			
8 印 度	昭 12 (1937)	—	計 12.8 計 1.2 B 印度及セイロン 13.2 C 印度以下(8—12) 1.5 13 (1938) — (8及9)を除く 11.0 を除く 1.7 14 (1939) — 12.6 1.7 以上年平均 —		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
9 セイロン	昭 12 (1937)	—	計 12.8 計 1.2 B 印度及セイロン 13.2 C 印度以下(8—12) 1.5 13 (1938) — (8及9)を除く 11.0 を除く 1.7 14 (1939) — 12.6 1.7 以上年平均 —		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
10 漢 洲	昭 12 (1937)	—	計 12.8 計 1.2 B 印度及セイロン 13.2 C 印度以下(8—12) 1.5 13 (1938) — (8及9)を除く 11.0 を除く 1.7 14 (1939) — 12.6 1.7 以上年平均 —		
	13 (1938)	0.02			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	0.02			
	以上年平均	0.02			
11 ニュージードラ ン ド	昭 12 (1937)	—	計 12.8 計 1.2 B 印度及セイロン 13.2 C 印度以下(8—12) 1.5 13 (1938) — (8及9)を除く 11.0 を除く 1.7 14 (1939) — 12.6 1.7 以上年平均 —		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	以上年平均	—			
12 ニューカレドニア	昭 12 (1937)	11.6	計 12.8 計 1.2 B 印度及セイロン 13.2 C 印度以下(8—12) 1.5 13 (1938) 11.7 (8及9)を除く 11.0 を除く 1.7 14 (1939) 9.3 12.6 1.7 以上年平均 10.9		
	13 (1938)	11.7			
	14 (1939)	9.3			
	以上年平均	10.9			
	以上年平均	10.9			
計 A 全 域	昭 12 (1937)	12.8	(a) 鑛石探掘高より推定		
	13 (1938)	13.2			
	14 (1939)	11.0			
	年 平 均	12.6			
	年 平 均	12.6			

分類	非鉄金属 II (4)	獨 : Bauxit 佛 : Bauxite	英 : Bauxite 蘭 : Bauxiet	単位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.08 7.00 0.16 2.40	ランソン及マオケーの地方に主として産し、其の他ダイファ(東京ハイ ジョン州)、チソンデオル(安南クアンナム省)にある。現在(1938年以 降)ランソン産区は採掘中止中でダイファ産区のみ採掘中である。	
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	19.3 56.0 93.7 56.3	ジョーホール州が主産地である、特にバトバハの邦人企業による採掘は その大半を占め、其の他ブキツトバシール、ブリキアチー、マラツカ等 である。	
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	199.0 245.4 280.7 225.0	ピンタン島とバタン島がその産地である。その他コヤン島、アングート 島、パンカ島、カリモン島にその埋蔵が発見されてゐる。 1940年=275.2(千噸)	
7 ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
8 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	3.7 15.4 15.0 11.4	半島部及アッサム州の紅土冠層に産するが、ボーキサイト含有量の最 も豊富なのは中央州殊にカトニ及バラガット地方の丘陵(含有量 50 % 以上)其他の埋蔵地はマンドラ、セオニ、カラハンデー、サルグジャ、マ ハバレシワール、ボーバンスバルニ丘陵、マドラスの一部、ジャンム及ブ ーテン、概ね露天掘可能である。	
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
10 濠 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.8 7.9 1.8 3.5	ニューサウスウェルズ州及ヴィクトリア州に産す。	
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	248.6 318.4 341.4 298.6	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く
註 記	(a) 推定			

分類	非鉄金属 II (5)	獨 : Wolframers 佛 : Minerai de tungstène	英 : Tungsten Ore 蘭 : Tuagsten-, Wolfram-erts	単位 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	648 720 650 673	東京のピアウア地方—主産地をなす、クオバンの西方ディアクアク山 塊に約 37 鑛区がある、其の他東京のテレーズ及ビンドウオン安南の トゥールチャン、以上主として錫と混合して産する。	
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	921 251 200 224	コースムイ(設備を改良すればより多量を産し得ると云ふ)とコータオ島 ロック(カンチャナブリー)にて生産の大半を占め、20 縣 に於て埋蔵、現 在 9 縣のみ實際産出してゐる。	
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1,234 1,074 1,000 1,103	ケダ州のクバンボスー及シントク、トレンガヌ州のズンゴン、ケママン、 ペラ州のアムパン、クラマトブライ、セランゴール州のクアラランブ ル附近ウルランガーが主産地である、イポー附近鑛山は既に掘り盡され た。馬來のタングステン鑛は錫との混合鑛でない(好条件をなす)。	
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	シンケツブ島、ピリトニ島に 錫鑛と共に第一次鑛床中に存在、1930 年 80 噸を産出、その後更に微少の産出を見るのみである、これは錫の限 産に影響されたものである。	
7 ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	5,924 11,410 (a)11,800 9,711	錫とウォルフラムを含む石英鑛脈は南シヤン諸州のイエンガン(Yeng an)及マウマン(Mawmang)の兩州からチョウセ、セメイシヤン兩地方、カ レニ地方、サトニ、アムハースト、タボイ及マグイ等を通つて間歇的に 存在し、その距離 750 哩を超えてゐる、その産出は近年著しく増加し、 支那の産出量(約 1 萬 4 千噸)に肉迫してゐる。	
8 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— 13 10 12		
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
10 濠 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	866 1,185 1,150 1,070	タスマニヤ(アーバーフォイル鑛区)、キング島のグラシイ、濠洲中部地 方のハチエスクリーク及 Wauchope、クインズランドの Cairns 附近等 に産する。	
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	28 45 41 38	グレンホルチー (Glenorchy) 及マツクレース(Macrae's)鑛山より、灰重石 が金と結合して生産せられる。	
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	8,924 14,695 14,860 12,831	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く
註 記	(a) 推定			

分類	非鉄金屬	獨 : Molybdänerz	英 : Molybden Ore	單位	噸
	II (6)	佛 : Minerai de molybdène	蘭 : Molybdeenerts		
國名	年次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1 比律賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	バタンガス州ロポー山附近、カマリネス・スール、マリンドケ島に發見されるがその企業的價值は未知數である。		
2 印度支那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	南部地方にモリブデン鑛脈が發見される。		
3 泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —			
4 馬來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —			
5 北ボルネオ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —			
6 東印度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	スマトラ島のバダン高地チンブルン、アチエー、バタン島北岸タンヂョンバビ附近、カリムン島のスンゲイバラシ、西ボルネオ州グヌナムバルのランダツタ山等にその賦存を見る。		
7 ビルマ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	... (a)0.7 ... 0.7	テナセリム、ベグマタイト近くで發見さる、タボイ地方ではソンシン鑛山、ワゴンノース鑛山、シンガンドン附近のカダシ、タウン及ウイドネス鑛山、ジンバ鑛山から産出される。		
8 印度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —			
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —			
10 濠洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	10 36 30 25	タインズランド州のチラゴ地方、その他では、ビクトリア州及ニューサウスウェルズ州に産出する、精鑛の品位約 50%。		
11 ニューゼーランド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —			
12 ニューカレドニア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	ニッケル鑛脈及鐵鑛脈中に含まれる。鑛石はコバルトの一酸化物、含有量 4—5%、全島到る所發見される。曾て 1901—2 年頃年産 244—500 噸の鑛石を産出した、最近不詳。		
計 A 全域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年平均	10 37 30 26	計 B 印度及セイロン (8 及 9) を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く	— 0.7 — 0.7
註記	(a) 探掘鑛石量、純分不明				

分類	非鉄金屬	獨 : Kobalt	英 : Cobalt	單位	噸
	II (7)	佛 : Cobalt	蘭 : Kobalt		
國名	年次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1 比律賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
2 印度支那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
4 馬來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
5 北ボルネオ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
6 東印度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	ボルネオ東南端、蛇紋岩の殘留鑛床にあると云はれる。		
7 ビルマ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	298 238 229 255	ボードウィン鑛山、鉛、銀、ニッケルと共に産する。ニッケルスライス中に約 7% のコバルトを含む。又タゴイ地方のヘンザ附近にもマンガシと結合せる不純なるコバルトが發見されたといふ。		
8 印度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
10 濠洲	昭 7 (1932) 8 (1933) 9 (1934) 以上年平均	3 6 8 6	1935 年以降の生産不詳、但し 1936 年以降輸出コバルト精鑛は次の如くである。(含有純分量不明) 1936 年 = 2 噸 37 年 = 23 ♪ 38 年 = 25 ♪		
11 ニューゼーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
12 ニューカレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	ニッケル鑛脈及鐵鑛脈中に含まれる。鑛石はコバルトの一酸化物、含有量 4—5%、全島到る所發見される。曾て 1901—2 年頃年産 244—500 噸の鑛石を産出した、最近不詳。		
計 A 全域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年平均	306 246 237 261	計 B 印度及セイロン (8 及 9) を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く	298 238 229 255
註記					

分類		非鉄金属 II (8)	獨 : Antimoners 佛 : Minerai d'antimoine	英 : Antimony Ore 蘭 : Antimoniumerts	單位	噸
國名	年次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比律賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	バタンガス州地方に發見されると言ふ。			
2 印度支那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	6 104 24 45	東京のカンエン、モンカイ、ホンデー北部、バオラク(ナンピアン鑛山)等多数の小鑛山がある、發展の可能性ありと云はれる。安南ではザイン地方、因みに 1936 年= 47 噸の生産があつた。			
3 泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	輝安鑛として、シンゴラ、マエホンソーン、チエンマイ、ランパーン等に埋藏される。			
4 馬來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —				
5 北ボルネオ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	30 5 — 18	産地はサラワクである。			
6 東印度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	ボイツンゾルタ附近、スラサン島、西ボルネオとサラワク國境附近等に見せられるが、量も少量であり、凡て未開發である。			
7 ビルマ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	30 90 (a)90 67	アスマート地區 Thabyn 村附近モンスー州のサキン鑛床及トーンベン州のボードウイン鑛山に於て採取せられる。特にボードウイン鑛山の混合鑛を處理するナムツ精鍊所に於てはアンチモン含有鉛が規則正しく採取せられる、そのアンチモン含有は 17.59%であつたと(1938年)。			
8 印度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —				
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —				
10 濠洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	179 576 585 447	ヒースコート附近に於て産出する。			
11 ニューゼーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— 1 — 1				
12 ニューカレドニア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —				
計 A 全域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年平均	245 617 780 578	計 245 B 印度及セイロン (8及9)を除く	計 66 41 194 130		
註記	(a) 鑛石生産高ヨリ推定					

分類		非鉄金属 II (9)	獨 : Zinnerz 佛 : Minerai d'étain	英 : Tin Ore 蘭 : Tinerts	單位	千 噸
國名	年次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比律賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	ベラワン島に發見されたと云ふが現在の所問題とするに足りない。			
2 印度支那 (a)	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1.6 1.6 1.5 1.6	東京のピアウアク地方及同近隣タンチュック地方とラオスのナムパターマ地方の南北兩地がその産地である。主としてタングステンと混合して居る。1940年= 1.6(千噸)			
3 泰 (a)	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	15.8 14.7 17.0 15.8	産地はブケット、ナコンシリタマラート、ソクラー、ヤラー及ラチヤブリの五地帯で、その中ブケット地帯は全産額の 70 %を産出し、次いでナコンシリタマラート地帯は全産額の約 25 %を占めて居る。1940年= 20.0(千噸)			
4 馬來 (a)	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	77.2 49.3 54.9 58.5	ベラ州イボー附近に全産額の約 60 %を産出し、次いでセラゴール州クアラルンプール附近は約 30 %、其の他はパン州クアンタン西北方スンガイレムピン、ネグリセムピラン州が産地である。1940年= 86.8(千噸)			
5 北ボルネオ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
6 東印度 (a)	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	39.1 27.3 31.3 32.6	産地はパンカ、ピリトン、シンケツブの諸島、内パンカ島は全産額の約 60 %を、ピリトン島は約 30 %を占める。シンケツブ島は海中錫の産出で名あり、陸上錫と半々の産出を示して居る。1940年= 45.0(千噸)			
7 ビルマ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	4.6 4.4 5.5 4.8	マレー錫鑛地帯の一部を成すテナセリム地方即ちマダイ、タボイの兩州がその産地である。1940年= 5.3(千噸)			
8 印度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
10 濠洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	3.3 3.3 3.4 3.3	主要産地は、ニューサウスウェルズ州、タスマニア州及タインスランド州である。其他、ヴィクトリア、西オーストラリア、北領土にも夫々産出する。主要鑛山—ニューサウスウェルズ州のティンガ、エマヴィル、タスマニア州のマウント・ビショップ、アバフオイル、プリセイス、タインスランド州のハーバートン、スタンソープ、チラゴ、ガンガルヒルズ等である。1940年= 3.6(千噸)			
11 ニューゼーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	錫鑛は砂錫として又鑛鑛として、ポートピガサス(Port Pegasus)に於て發見され、少しく採行せられて居る。其の他各地に於て少量宛發見せられて居る。			
12 ニューカレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
計 A 全域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年平均	141.6 94.6 113.6 116.6	計 141.6 B 印度及セイロン (8及9)を除く	計 198.3 91.3 110.2 113.3		
註記	(a) は國際錫鑛協定下の生産高である。その標準生産高(1938年7月1日—1941年末)は馬來= 77,335 印度支那= 8,000 泰= 18,000 東印度= 39,033(單位=噸)、此の期間は以上夫々の割合數字に對して限産率を設定するわけである。實際の生産能力は印度支那及泰に於ては標準生産高以下であり馬來及東印度は夫れ以上である。					

錫

分類		非鉄金属 II (a)	獨 : Zinn 佛 : Etain	英 : Tin 蘭 : Tin	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地——其ノ他備考		
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	—	錫鑛の大部分はシンガポールに輸出されブルーブラニーの海峽貿易會社の手に依つて精鍊される。尙海防に於て雲南錫を精鍊し、佛印、米國、香港、和蘭等に輸出してゐた。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	2.3	精鍊設備なく原鑛の儘マレーのピナンに大部分輸出されてゐた。		
	13 (1938)	2.3			
	14 (1939)	1.9			
	以上年平均	2.2			
3 泰	昭 12 (1937)	—	ベナンに Eastern Smelting Co. シンガポールに Strait Trading Co. あり、年産能力6萬噸程度、外にシンガポールに Ban Hon Hing 其の他二三の華商小規模精鍊工場がある。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
4 馬 來	昭 12 (1937)	95.4	精鍊所はバンカ島 Muntok, Blinjoe, Pankoelpinang に在つてビリトン、シンケツプの兩島にては高度のコンセントレートを爲してゐる。		
	13 (1938)	63.7			
	14 (1939)	81.5			
	以上年平均	80.2			
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937)	—	全部鑛石の儘海峽植民地へ輸出される。但し精選鑛の生産高は次の如くである。 1937年 = 4.7(千噸) 1938年 = 4.5(噸) 1939年 = 5.4(噸)		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
6 東 印 度	昭 12 (1937)	14.1	主産地ニユーサウスウエールズ州では精鍊を爲すもタスマニア州及クイーンランド州に於ては精選鑛するのみである。		
	13 (1938)	7.6			
	14 (1939)	14.7			
	以上年平均	12.1			
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	—	錫石としてステイワード島のベガサス港附近に産出するも取るに足らぬ程度である。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
8 印 度	昭 12 (1937)	—	計 114.8 B 印度及セイロン 76.9 C 印度以下(8—12) 73.6 / (8及9)を除く 97.7		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
9 セイロン	昭 12 (1937)	—	計 111.8 B 印度及セイロン 76.9 C 印度以下(8—12) 73.6 / (8及9)を除く 98.1 / (8及9)を除く 94.5		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
10 澳 洲	昭 12 (1937)	3.0	各地に於て發見せられ、殊にグレートバリアー(Great Barrier)及カウアウ(Kawau)に於ては採行せられた事もあつたが目下休止中である。但近年再び調査を開始した。(鑛區としては32の鑛山ありと)		
	13 (1938)	3.3			
	14 (1939)	3.4			
	以上年平均	3.2			
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937)	—	北部の Diabot, Kumac. 南部 Dumbes の地方は錫の埋蔵多く高品位のものは 35% に及ぶものがあり、Kumac には邦人所有の扇井鑛山が有るが品位は 8.5% 位のものである。現在は Diabot 會社が採行するのみである。本島錫鑛の平均品位 = 10—15%、最高 30% のものもあると云はれて居る。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937)	—	計 25.3 B 印度及セイロン 27.0 C 印度以下(8—12) 29.0 / (8及9)を除く 27.3		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
計 A 全 域	昭 12 (1937)	114.8	(a)純分量推定		
	13 (1938)	76.9			
	14 (1939)	101.5			
	年 平 均	97.7			

銅 鑛 (含有純分量)

分類		非鉄金属 II (a)	獨 : Kupfererz 佛 : Minerai de cuivre	英 : Copper ore 蘭 : Kopererts	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地——其ノ他備考		
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	2.0	ルソン島マウンテン州のレバントコンソリデイトド會社及同アルベイ州ラブラブ島のファイキスバゴールドマイニング會社が全産出の大半を占め、其他ではパナイ島ルソン島のバラカレ地方及バギオ地方。鑛床は群島中到處に見うけらる——多く金との混鑛として發見される。1941年には14.0(千噸)に達せる見込である。1940年=6.1(千噸)(a)		
	13 (1938)	3.5			
	14 (1939)	5.5			
	以上年平均	3.7			
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	—	東京に11鑛區、安南に3鑛區、ラオスに23鑛區あるが、孰れも未採掘又は試掘のみで放棄され、資源價値低いと考へられる。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
3 泰	昭 12 (1937)	—	埋蔵地方はバンナスター(ヤラ)、コーカテム(ロツブリ)、チエンタク(ナコンラチャシマ)である。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
4 馬 來	昭 12 (1937)	—	バハン州のスンゲイ、レムピンに産す、但し 1936年 = 20噸の産出を見たのみである。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937)	—	鑛區としてはスマトラ島のタバヌリ州、パレンバン及ランボン州に夫々若干の鑛區あり、ジャバではマデイオン州及チェリボン州に鑛區あり、その外西ボルネオ州、セレベスの北部、更にチモールも銅を産するが、以上殆ど凡て未開發で少量産出を見たのは主としてジャバのマデイオン州の鑛區からのみである。		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
6 東 印 度	昭 12 (1937)	0.05	北シヤン州ナムツのボードウイン鑛山に銀、亜鉛及ニッケルとの混合鑛として産出する。		
	13 (1938)	0.09			
	14 (1939)	0.09			
	以上年平均	0.08			
7 ビ ル マ	昭 11 (1936)	4.1	チヨタナクアール、ラジブターナ、ヒマラヤ山脈の外側、シツキム、クル、ガルワル及シンダプーム但現生採行に成功せるはシンダプーム地方の銅山のみである。		
	12 (1937)	3.8			
	13 (1938)	3.6			
	以上年平均	3.8			
8 印 度	昭 11 (1936)	7.6	南洋に於て現在採行し或は最近まで採行してゐる主要産銅地はクワイーンランド州のクロンカリー地方及マウント・モルガン、南オーストラリア州のワラルー及ムンタ、西オーストラリア州のウエストピルバラ(West Pilbara)及タスマニア州のマウントライエル等である。		
	12 (1937)	7.3			
	13 (1938)	5.6			
	以上年平均	6.8			
9 セイロン	昭 12 (1937)	—	計 25.3 B 印度及セイロン 27.0 C 印度以下(8—12) 29.0 / (8及9)を除く 27.3		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
10 澳 洲	昭 12 (1937)	19.4	計 5.9 B 印度及セイロン 7.2 C 印度以下(8—12) 9.2 / (8及9)を除く 7.6		
	13 (1938)	19.6			
	14 (1939)	19.8			
	以上年平均	19.7			
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937)	—	計 25.3 B 印度及セイロン 27.0 C 印度以下(8—12) 29.0 / (8及9)を除く 27.3		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937)	—	(a)純分量推定		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
計 A 全 域	昭 12 (1937)	32.5	(a)純分量推定		
	13 (1938)	32.6			
	14 (1939)	34.6			
	年 平 均	34.1			

銅

分類	非鉄金属 II (四)	獨 : Kupfer 佛 : Cuivre	英 : Copper 蘭 : Koper	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	精錬所はなく選礦して賣却して居る。主要なる選礦所はレバントコンソリデイトで他は金礦處理よりの副産物として産出せられる。因みに精選礦の産出高は次の如くである。1937年=2.2 1939年=6.0 1938年=3.8 1940年=7.9 (單位千噸)	
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	バンドンの陸軍工廠、スラバヤの海軍工廠及プラート機械工場に2—3噸程度の電気炉精鋼設備があるに過ぎない。スマトラ西海岸州ムアラシボング礦業会社が1938年69噸の精練銅を産出した。	
7 ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	3.3 2.5 3.3 3.0	数字はマツト中の銅純分量、ビルマコーポレーション所有ボードウィン嶺山(北シャンステート)Namtu 精練所にて matt として産出される。	
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	6.9 5.4 6.8 6.4	Singhbun 地方の銅山より産出する。モウバンダーに精練工場がある、モザボニ銅山等よりの礦石を精練する。 1940年=6.9 (千噸)	
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
10 濠 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	17.7 17.4 20.3 18.4	主産地たるタスマニア州のライエル嶺山に於けるマウントライエルマイニングアンドレールウェイ會社及クインズランドのマウントモルガン會社では選礦のみを爲し、ニューサウスウェルズのポートケンブラに於て精練する。	
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	27.9 25.3 30.3 27.8	計 21.0 B 印度及セイロン (8 及 9)を除く 21.4	計 8.3 C 印度以下(8—12) を除く 3.0
註 記				

鉛 鑛 (含有純分量)

分類	非鉄金属 II (三)	獨 : Bleierz 佛 : Minerai de plomb	英 : Lead Ore 蘭 : Looderts	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	0.02 0.21 (a)0.01 0.08	現在鉛鑛を直接産出する嶺山なく、鉛は金の副産物として産出せられるもので、1940年六つの金山から1,041 噸の鉛鑛塊を産出した。 1940年=0.3(千噸)(a)	
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.03 0.03	鉛は亜鉛の副産物としてカン・エン精練所から産出される。鑛床は印度支那鑛業冶金會社のショーディエン、ランヒットの外に東京地方ではガンソン、ランソン安南ではダイン州のモ・ホア等である。	
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	探掘可能と思はれる鑛床はカンチャナブリ、チエンマイ、ランバンに發見される。カンチャナブリのタムボルノンバイには鑛床があるものと豫想されてゐる。	
4 馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.002 0.002	硫化鉛がバハン州に少量産出する。	
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	鉛鑛はスマトラ、ジャバ、ボルネオ、セレベス、ロンボック各島嶼に産するが、其の量僅少で今尙稼行するに到らぬ。	
7 ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	91.5 88.0 78.6 86.0	トウンベイン州のボウドウィン嶺山(ビルマ、コーポレーションリミテツト)から産出される、此の地方に鉛、亜鉛及銀の世界的にも有數な三大嶺脈即ち、シナマン、シヤン、メインサの三嶺床が横はつてゐる。 1940年=76.2(千噸)	
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
10 濠 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	246.5 275.0 252.4 258.0	ニューサウスウェルズ州のブローケンヒル嶺山、クインズランド州のマウントイサ嶺山が主なもので、品質及供給力に於て世界有數である。 1940年=254.0(千噸)	
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	北部の Mécétrix 嶺山から亜鉛 3.9% 鉛 19.4% のものを探掘し濠洲へ輸出する。	
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	388.0 363.2 331.0 344.1	計 338.0 B 印度及セイロン (8 及 9)を除く 344.1	計 91.5 C 印度以下(8—12) を除く 86.1
註 記	(a) 原鑛量より推定			

分類	非鉄金属 II (14)	獨 : Blei 佛 : Plomb		英 : Lead 蘭 : Lood		単位 千 噸	
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	鉛鑛が金の副産物として産出せられる。1940年に六金山にて1,041 噸の産出である。産出會社はサン、マウリシオ、ユナイテッドバラカレ外四金山會社である。但し精鍊鉛は産出しない。			
2	印 度 支 那	昭 12 (1936) 13 (1937) 14 (1938) 以上年平均	0.012 0.008 0.010 0.010	鉛の産額は微々たるもので、印度支那鑛業冶金會社カイエン工場の亞鉛精鍊の副産物として、年平均 12 噸前後生産される程度である。			
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	パタニ州ヤラーに鉛と錫と結合して存在するが、これを分離せず熔解し白蠟として少量産出を見る程度である。			
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	鉛鑛は各地に産するが、其の量は僅少で採行に到らぬ状況である。			
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	77.7 80.2 77.2 78.4	Burma Corporation Ltd. 所有 Bawdwin 鑛山 (北シヤンステート) の Nam-tu 精鍊所に於て精鍊される。			
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
10	濠 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	232.2 226.2 252.4 236.9	主産地ニューサウスウェールズ州のブロークンヒルの鑛石は、大部分ポートビリの精鍊所で精鍊される。			
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	北部のMécérix 鑛山で産出されるが、鑛石の僅濠洲向輸出される。			
計	A 全 域	昭 12 (1937)	309.9	計	309.9	計	77.7
		13 (1938)	306.4	B 印 度 及 セイロン	306.4	C 印 度 以 下 (8—12)	80.2
		14 (1939)	329.6	(8 及 9) を 除 く	329.6	を 除 く	77.2
		年 平 均	315.3		315.3		78.4

註 記

分類	非鉄金属 II (15)	獨 : Zinkerz 佛 : Minerai de zinc		英 : Zinc Ore 蘭 : Zinkerts		単位 千 噸	
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	鑛床としてマリンドケ島マズパテのミラグロス、セブのコムボステラ附近のアタスビンダ等があるが、そしてマリンドケが最も古く且採鑛の歴史をも有してゐるが未だ開發に到らない。			
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	4.2 4.0 5.2 4.5	現在採掘中の鑛山は東京北部中央の明江一帯であつて、トランダ、ランヒット、シヨデーイエン、シヨードン、エンリン等の鑛山である。主として印度支那鑛業冶金會社の手に依る。1925年には年産約5萬噸(原鑛量—純分約1萬2千噸)を記録、埋藏は貧弱でないから發展は期待される。1940年=6.1(千噸)			
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	カンチャナブリのタムボルノンバイには鑛床があるものと豫想されてゐる。			
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	スンパワ島のタリワン郡には金の含有量の多い亞鉛鑛の變種があるが、不規則な且極めて貧鑛である。			
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	36.7 30.7 29.6 32.3	トウンベイン州のボウドウイン鑛山より鉛鑛石と共に産出される。鉛鑛と共にシナマン、シヤン、メインサの三大鑛床に埋藏される。			
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
10	濠 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	165.5 177.0 185.0 175.8	ニューサウスウェールズ州のブロークンヒル、タスマニヤ州のマウント・リード及ローズベリー、タインスランド州のクロンカーリー等がその産地である。			
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	北部のMécérix 鑛山から亞鉛 39%鉛 19.4%のものを採掘し濠洲向に輸出する。1930年迄の生産は下記の如し、それ以降不詳 1928年=0.1 1929年=0.4 1930年=1.0(千噸)(數字は含有鉛分なり)			
計	A 全 域	昭 12 (1937)	206.4	計	206.4	計	40.9
		13 (1938)	211.7	B 印 度 及 セイロン	211.7	C 印 度 以 下 (8—12)	34.7
		14 (1939)	219.8	(8 及 9) を 除 く	219.8	を 除 く	34.8
		年 平 均	212.6		212.6		36.8

註 記 (a) 此處では American Bureau of Metal Statistics 推定による實收可能純分量の數字を採つた。他書の含有純分量の數字と多少相違する。即ち幾分、量は低く測定されてゐる。

分類	非鉄金属 II (16)	獨 : Zink 佛 : Zinc	英 : Zinc, Spelter 蘭 : Zink	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	4.2 4.5 5.4 4.7	印度支那鑛業冶金會社のカンエン冶金工場で生産される。主要鑛山は東京のシヨディエンである。	
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	亜鉛鑛は存在するも未探掘。鑛床はカンチャナブリ州ビルマ國境近くにある。	
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
9 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	單獨で産出を見ること稀で、普通には銅、鉛、鐵等と結合し亜鉛と硫黄の化合せる閃亜鉛鑛として鑛賦を爲してゐる。スンパワ島のタリワン郡には金の含有多い不規則な貴鑛がある。	
7 ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	ビルマコーボレーションのボードウィン鑛山(北シャンステート)に於て品位 53% に選鑛するのみである。 精選鑛産出高—1937年=73.5 1938年=60.7 1939年=59.3(千噸)	
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
9 セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
10 澳 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	70.9 70.9 72.4 71.4	ニューサウスウエールズのブローケンヒル、タインスランドのマウント・イサ及タスマニヤのローズベリーの鑛石は、タスマニヤのリスドンにある、エレクトロリテイタ・ジンクコーボレーションで大部分精鍊される。 1940年=71.7(千噸)	
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	北部 Mécérix の鑛山より探掘され鑛石の儘澳洲向輸出される。	
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	75.1 75.4 77.8 76.1	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く
註 記				

分類	非鉄金属 II (17)	獨 : Platin und platinverwandte Metallen 佛 : Platine et métaux alliés	英 : Platinum and allied metals 蘭 : Platina en Platinametalen	單位 匁
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	ルソン島北部マリキナ河の砂鑛中、アグサン谿谷、又ヌエヴァ・エシハ州のベニアランダ附近に發見されると云はれる。	
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	ボルネオ—チャンバカ、ダノンパスン、ダノンラワク、マルタブラ等のダイヤモンド及金の洗滌場で僅かに發見される(住民は之をマスクテイと稱す)。ハルマヘラ島南方パチャン島。スマトラ—アツチエ、スポンギー及タヌバリ附近、何れも貴鑛である。	
7 ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	最近産出はないけれどもチウドウィン地方、ミチイナ地方カサ地方から金、イリドスミンを伴つて存在する。	
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
9 セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
10 澳 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	19.7 9.8 8.8 12.6	ニューサウスウエールズのパークス附近ファイフィールド、ヴィクトリアのギブスランド及タスマニヤ州にて産出、主としてオスミリヂウムである。	
11 ニュージ ラ ン ド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.902 1.711 0.081 0.881	サウスランド地方の砂礫層中に金と結合して發見せられる。(数字は粗白金のもの)	
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	21.4 9.3 8.8 13.5	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く
註 記				

水 銀

非鉄金属 分類 II (10)		獨 : Quecksilber, Merkur 佛 : Mercure	英 : Quicksilver, Mercury 蘭 : Kwik (-silver)	單位 冠
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	ベンゲットに発見されると言はれる。	
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	東京—ハギヤンの北及西北 25 軒の地點に辰砂の鑛賦が発見される。	
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
5 北 部 ボルネオ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	クチンからサラワク川を遡ること約 80 軒のテゴラ及ガデンの二鑛山に平均 0.3 % 品位の水銀鑛が存在すると云ふ。	
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	スマトラ—ソンボン山附近西海岸州ブキツトボン附近リンケン川沿、ジャンピ州ムリブン川沿、スンゲー、サラワク川の砂礫地、ボルネオ—西部州サムバス川上流、シヤカム川上流、マンドール川、ミル川支流、スキリ川沿、等に賦在するといふ。但し以上未開發。	
7 ビルマ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	辰砂はシャン州及テナセリムに産出すると云はれるが現在その存在は疑問とされる。	
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
10 澳 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	322 ... 118 218	キルキバン地方より少量産出する。クインズランド水銀會社の採掘になる。	
11 ニュージ ランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	... 610 345 478	各地に水銀原鑛辰砂が存在するがノースオークランドが最も多い。現在グイブに於て採掘されてゐる。1939 年末現在までニュージランドから 39 冠が輸出された。埋藏量總額は鑛床廣範圍に涉り、且水銀含有量不規則なる爲判定し難い。	
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	1938 年末鑛區面積 36 ヘクタール、但し未開發。	
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	932 723 458 696	計 B 印度及セイロン (8 及 9)を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く
註 記				

螢 石

非金属礦物 分類 III (1)		獨 : Fluorapat, Fluorit 佛 : Fluorine	英 : Fluorspar, Fluorite 蘭 : Fluorspaath	單位 冠
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
3 泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
4 馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	イポー附近 (クラマツトプライ會社の鑛山のシーライトの中に混じて発見される)に埋藏約 5 萬冠と云はる。曾つて 20 冠を英國に輸出したことがある。	
5 北 部 ボルネオ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
6 東 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
7 ビルマ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
8 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
10 澳 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	849 1,465 3,283 1,866	クインズランド州及ニューサウスウェルズ州が主産地。その他、南オーストラリア州及ヴィクトリア州にも産する。	
11 ニュージ ランド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
12 ニュー カレドニア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —		
計 A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	849 1,465 3,283 1,866	計 B 印度及セイロン (8 及 9)を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く
註 記				

分類	非金屬礦物 III …… (2)	獨 : Schwefel 佛 : Soufre		英 : Sulphur 蘭 : Zwavel		單位 噸	
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1	比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —				
2	印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —				
3	泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —				
4	馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —				
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —				
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	12,200 16,003 17,811 15,171	各活火山に噴出。ジャバ—ブレアンゲル州のカワブテイ、ガルンゲン、テレガボダス、トレアス湖、マラン州のウリラン、ガルーのパバンダヤン、プスキ州のイジエン。スマトラ—タバヌリ州のソリツタマラビ。セレベス—マハムロ噴火山、ソプタン等に産出する。 1940年=16,920(噸)			
7	ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —	天然硫黄の鑛床及硫化水素含有水泉はバコック地方キンの北に存在するが、此等の鑛床は表面的であつて經濟的價値がないと云はれる。			
8	印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —				
9	セ イ ロ ン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —				
10	澳 洲 (a)	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	80,927 86,985 88,922 35,351	澳洲の硫黄は黄鐵鑛其他から製造する。ニューギニア、アントレカストウ群島の島嶼に發見され。又ウッドラーリ島東方カナツク島に産出する。			
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —	北島の温泉地方、乃ちロトルア、タウポー湖及ホワイト島に於て産出せられ、各地に於て肥料として處理せられる。但經濟的に採掘し得る程度の埋藏量あるや否やは疑問であるといふ。			
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —				
計	A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	42,427 49,185 54,925 50,532	計 B 印 度 及 セイロン (8 及 9) を 除 く	42,427 49,185 54,925 50,532	計 C 印 度 以 下 (8—12) を 除 く	12,200 12,200 16,003 15,171
註 記	(a) 推定						

分類	非金屬礦物 III …… (3)	獨 : Graphit 佛 : Graphite		英 : Graphite 蘭 : Potlood, grafiet		單位 噸	
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —				
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	鑛脈は東京地方紅河及クレール河流域にある。1920年まで印度支那黒鉛會社に依つて産出を見てゐたが現在閉鎖されてゐる。			
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —				
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —				
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —				
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	スマトラ島パダン高地、ピナンガン附近のスンゲークムルー、ベンダハラ島、アルー島、リンガ島の南西部及東部ボルネオ州の西部ツングウ・パルー附近のモンデーパルー等が主産地である。			
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	不純な商業的價値の無い黒鉛はヘンザダ及カサの兩地方のアラカンヨマ岩石中普遍的に小断片として存在してゐる。又タベイチン附近にも産出さるが質量とも不足なものである。			
8	印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	394 567 465 475	各地より極めて少量づつの生産がある。			
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	17,659 11,972 22,816 17,482	セイロンは良質黒鉛の産地としてマダカスカルと對立する世界有数の地位を占め、其の鑛床は極めて多い。(約80ヶ所の採掘所がある)			
10	澳 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	28 14 10 16				
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —				
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —				
計	A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	18,240 12,447 23,291 17,973	計 B 印 度 及 セイロン (8 及 9) を 除 く	14 10 10 16	計 C 印 度 以 下 (8—12) を 除 く	— — — —
註 記	(a) 黒鉛石・粗黒鉛の生産高を示す。						

分類	非金属礦物 III (4)	獨 : Asbest 佛 : Amiante	英 : Asbestos 蘭 : Asbest	單位 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —		
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	5 5 ... 5	東京ソントイ及ホアピン地方で僅か産出するのみ。	
3 泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —	ナン及ウトラデトを横ぎる長い超基性岩の區域に産する。品質は悪く細長い紐状の纖維質をなしてゐる。深く掘下れば幾分良質のものが存在するかも知れぬと云ふ。	
4 馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —		
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —		
6 東 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —	セレベスのボリ湖、バダマラン群島タンジョンブルー、リナ附近の蛇紋石中に薄い脈が見されてゐるに過ぎない。	
7 ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —	サゲイン地方に存在すると云はれるが生産はない。	
8 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	57 102 90 83		
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —		
10 澳 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	240 300 176 239	西オーストラリア州(1938年 123 噸) 南オーストラリア州(1938年 49 噸)	
11 ニュージ ラ ン ド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —	アツバータカカ礦區(Upper Takaka)に於て目下探鑛中である。	
12 ニュー カレドニア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —		
計 A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	302 407 271 327	計 245 B 印度及セイロン (8及9)を除く 181 244	計 5 5 ... 5
註 記				

分類	非金属礦物 III (5)	獨 : Glimmer 佛 : Mica	英 : Mica 蘭 : Mica	單位 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	セレベス東方のバンガイ島及ベラン島東岸に於て原住民が採掘してゐるが、彼等の裝飾に用ひるに過ぎない。	
7 ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	少量の雲母はカナ地方タベイチン附近のエンヤウで得られる。尚ミチイナ地方のインダウ河からも産出すると云はれる。	
8 印 度 (a)	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	15,106 8,896 10,228 11,410	ビハール州 Hazaribagh Gayo Monghyr マドラス州 Nellore ラジプターナ地方 Ajmere and Merwara 採掘は概ね露天掘である。	
9 セイロン (a)	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	2 0 1 2		
10 澳 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	21 85 66 57		
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — 1 1		
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	15,192 8,963 10,296 11,470	計 85 B 印度及セイロン (8及9)を除く 66 58	計 5 C 印度以下(8—12) を除く 5
註 記	(a) 印度及セイロンの数字は輸出数字。			

分類		非金屬礦物 III …… (6)	獨 : Diamant 佛 : Diamant	英 : Diamond 蘭 : Diamant	單位 メトリック・カラット	
國名	年次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比律賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —				
2 印度支那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —				
3 泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —	産出の可能性はあると云はれるが未だ発見されない。			
4 馬來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —				
5 北ボルネオ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —				
6 東印度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	981 1,618 2,367 1,655	東南ボルネオ州のバンジャルマシン東方マルタプーラを去る十軒の地點にあるチュムバカを中心とする地方、及西部ボルネオ州メルバイン河の上流の上部ランダタ地方に産し、支那人及原住民が採集してゐる。1935年には4千カラットを産した。1940年=3,588 (メトリック・カラット)			
7 ビルマ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —				
8 印度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	1,457 1,178 1,729 1,455	バナン藩王國がその産地である。			
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —				
10 濠洲 (ナウル、オー シヤン島)	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	650 200 800 383	ニューサウスウェールズ州テインガー地方のコープトンで産出される。			
11 ニュージ ランド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —				
12 ニュー カレドニア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —				
計 A 全域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年平均	3,088 2,359 3,647 3,493	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	1,631 1,181 1,918 2,038	計 C 印度以下(8—12) を除く	981 981 1,618 1,655
註 記	カラット = 0.207 瓦、メトリック・カラット = 0.200 瓦					

分類	非金屬礦物 III …… (7)	獨 : Naturphosphat (od. Phosphorit) und Apatit 佛 : Phosphorite et Apatite	英 : Phosphate rock & Apatite 蘭 : Phosphaat en Apatiet	單位 千 磅		
國名	年次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比律賓	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	1.3 0.5 0.8 0.9				
2 印度支那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	20.3 37.3 35.7 31.1	重要礦藏—老開地方(河内—昆明公路より數哩の紅河々岸)に埋藏され品位40%位の優秀品である。 1940年 = 24.3 (千噸)			
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
4 馬來 (クリスマス島)	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	154.4 162.4 175.6 164.1	政治的に海峽植民地に所屬せるクリスマス島の生産數字である。			
5 北ボルネオ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
6 東印度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	26.2 33.1 18.8 26.0	ジャバのチェリボン州タロモン山、ニューギニアのスカウテン群島の北西部アヤウイ、ミアスカイルー島、セレベスのボントイン郡サレイエル南方カビア島がその産地である。尚スマトラ西海岸のバンダン地方、西部ジャバのボーアカルタ地方に埋藏の調査が行はれてゐた。 1940年 = 34.0 (千噸)			
7 ビルマ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
8 印度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.13 0.17 0.02 0.11				
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
10 濠洲 (ナウル、オー シヤン島)	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1,024.5 1,185.1 1,244.2 1,151.3	殆ど全部ナウル及オーシヤン島の産出である。参考茲に濠洲及ナウル島の産出を示せば下記の如くである。(残りはオーシヤン島の産出) 濠洲 { 1936年 0.18(千噸) } (ニューサウス) { 37年 0.02() } (ウェルズ州) { 38年 0.24() } ナウル島 { 1936年 556.2(千噸) } { 37年 699.9() } { 38年 854.5() }			
11 ニュージ ランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	0.3 5.0 9.1 4.8	1940年 = 22.0 (千噸)			
計 A 全域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年平均	1,226.7 1,423.7 1,484.2 1,378.3	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	1,226.5 1,423.7 1,484.2 1,378.2	計 C 印度以下(8—12) を除く	201.7 233.6 230.9 222.1
註 記						

分類		燃料及電力 IV (1)	獨 : Steinkohle 佛 : Houille	英 : Coal 蘭 : Steenkool	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	26	群島の各地に多少の石炭はあるが何れも規模小さく炭質も劣り、現在の所多くを期待し得ないと云ふ。比較的見るべき炭田は、パタン島、セブ島、ボロロ島のブルデウス炭田、ミンダナオ島のシブゲイ炭田及ミンドロ島のブララカオ炭田である。以上の中パタン及セブ炭田が最も重要視されてゐる。		
	13 (1938)	40			
	14 (1939)	56			
	以上年平均	41			
	2 印 度 支 那	昭 12 (1937)			
13 (1938)	2,348				
14 (1939)	2,548				
以上年平均	2,401				
3 泰	昭 12 (1937)	—	1920年ブーケット州炭田の開発を見たが、炭質素悪の爲 1927年廢坑された。		
13 (1938)	—				
14 (1939)	—				
以上年平均	—				
4 馬 來	昭 12 (1937)	688			
13 (1938)	486				
14 (1939)	448				
以上年平均	524				
5 北 部 部 爾 ネ オ	昭 11 (1936)	1	實際は1千噸以下である。主たる炭坑はシリムボボンである。1930年迄年平均約5-6萬噸を産したが輸送の関係で閉鎖した。其他の炭田はサラワクのサドン河炭田及ブルネイのブルークトン炭田である。		
12 (1937)	1				
13 (1938)	1				
14 (1939)	1				
以上年平均	1				
6 東 印 度	昭 12 (1937)	1,373	主要炭田はスマトラのオムビリン炭田、ランボン及ベンクーレン州のブキツト、スモールの炭田、又パレンバン州のレマタン炭田特にブキツト、アセム炭坑、ボルネオではマルタプーラ、アールラウト及クティ河の諸炭田、ジャバではバンタム州のバジャ及ボジョンマニツクの兩炭田である。1940年=2,009(千噸)		
	13 (1938)	1,457			
	14 (1939)	1,666			
	以上年平均	1,499			
	7 比 爾 マ	昭 12 (1937)			
13 (1938)	—				
14 (1939)	—				
以上年平均	—				
8 印 度	昭 12 (1937)	25,488	各州に互に産出。就中ニューサウスウェルズ州のニューカツスル、シドニーを中心とする炭田が最も産出多く、同州の年産約1千萬噸に及ぶ。次にタインズランド州の約100萬噸、西オーストラリア州の約60萬噸、略同産出高を示すヴィクトリア州の南部ギブスランド地方及オトウエー地方があり、其他ではタスマニア州が10萬噸以上を産す。		
13 (1938)	28,798				
14 (1939)	25,681				
以上年平均	26,639				
9 セイロン	昭 12 (1937)	—			
13 (1938)	—				
14 (1939)	—				
以上年平均	—				
10 濠 洲	昭 12 (1937)	12,268	モアンズー、ヌメアとヴォーの間の地帯に賦存する。		
13 (1938)	11,868				
14 (1939)	13,751				
以上年平均	12,629				
11 ニュージ ー ラ ン ド	昭 12 (1937)	986			
13 (1938)	904				
14 (1939)	1,061				
以上年平均	1,014				
12 ニュー ー カレドニア	昭 12 (1937)	—	計 10,215.2 計 9,886.3 A 全 域 10,498.2 10,118.6 14 (1939) 11,141.3 10,786.7 年 平 均 10,618.6 B 印度及セイロン 10,264.7 C 印度以下(8-12) 10,786.7 (8及9)を除く 10,264.2		
13 (1938)	—				
14 (1939)	—				
以上年平均	—				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	43,038			
13 (1938)	45,932				
14 (1939)	45,312				
年 平 均	44,748				
註 記					

分類		燃料及電力 IV (2)	獨 : Erdöl, Rohes Öl 佛 : Pétrole brut	英 : Crude Petroleum(or oil) 蘭 : Petroleum, aardolie (Ruwe aardolie)	單位 千 升
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	—	セリア油田は英領ボルネオ油田一日の産油量の約80% 2,213 升を産出する。ミリ油田一日の産油量 553 升を産出する。ミリ、セリア兩油田の産油は何れもミツキスドベイスにてボーメ約 82 度フアニス用燃料油として優秀なものとして云はれてゐる。1940年=1,120.3(千升)		
	13 (1938)	—			
	14 (1939)	—			
	以上年平均	—			
	2 印 度 支 那	昭 12 (1937)			
13 (1938)	—				
14 (1939)	—				
以上年平均	—				
3 泰	昭 12 (1937)	—	エナソジャン油田は産量豊富で同國第一の油田であり全産油額の 44.5% を占めシグウ油田 43.8% エナソヤクト油田 9.1% である。上記の三油田産油額は精製産油額の 97.4% である。他にインドウ、ミンブ、タガイソ、パダンピン油田等がある。尚エナソヤクト、シグウ油田は地位の関係上同一油田として取扱はれてゐる。1940年=1,268.7(千升)		
13 (1938)	—				
14 (1939)	—				
以上年平均	—				
4 馬 來	昭 12 (1937)	—			
13 (1938)	—				
14 (1939)	—				
以上年平均	—				
5 北 部 部 爾 ネ オ	昭 12 (1937)	852.1	埋藏地帯はタインズランドの廣大な地方ウエ西オーストラリアのキムバレー地方、但企業価値を見ずと。上質のオイルシエールの鑛床がある。		
13 (1938)	982.8				
14 (1939)	1,014.1				
以上年平均	950.0				
6 東 印 度	昭 12 (1937)	7,843.0			
13 (1938)	7,989.9				
14 (1939)	8,584.6				
以上年平均	8,139.2				
7 比 爾 マ	昭 12 (1937)	1,191.2	試掘計畫はあつたが行はれてゐない。		
13 (1938)	1,145.9				
14 (1939)	1,188.0				
以上年平均	1,175.0				
8 印 度	昭 12 (1937)	328.3			
13 (1938)	370.1				
14 (1939)	351.2				
以上年平均	353.9				
9 セイロン	昭 12 (1937)	—	原油の重量を容量に換算する比率は(1噸=1.08 升)なる平均値によつた。		
13 (1938)	—				
14 (1939)	—				
以上年平均	—				
10 濠 洲	昭 11 (1936)	0.016			
12 (1937)	0.042				
13 (1938)	0.027				
以上年平均	0.028				
11 ニュージ ー ラ ン ド	昭 12 (1937)	0.0	計 10,215.2 計 9,886.3 A 全 域 10,498.2 10,118.6 13 (1938) 10,498.2 10,786.7 14 (1939) 11,141.3 10,786.7 年 平 均 10,618.6 B 印度及セイロン 10,264.7 C 印度以下(8-12) 10,786.7 (8及9)を除く 10,264.2		
13 (1938)	0.5				
14 (1939)	0.4				
以上年平均	0.5				
12 ニュー ー カレドニア	昭 12 (1937)	—			
13 (1938)	—				
14 (1939)	—				
以上年平均	—				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	10,215.2	計 9,886.9 計 9,886.3 A 全 域 10,191.1 10,118.6 13 (1938) 10,498.2 10,786.7 14 (1939) 11,141.3 10,786.7 年 平 均 10,618.6 B 印度及セイロン 10,264.7 C 印度以下(8-12) 10,786.7 (8及9)を除く 10,264.2		
13 (1938)	10,498.2				
14 (1939)	11,141.3				
年 平 均	10,618.6				
註 記	原油の重量を容量に換算する比率は(1噸=1.08 升)なる平均値によつた。				

燃料及電力		獨	英	單位
分類	IV (3)	獨 : Benzina, Naphta	英 : Gasoline, Petrol, Benzine, Naphtha, Motor gasoline	千 升
		佛 : Essence de pétrole, Naphte de pétrole	蘭 : Benzine, gasoline	
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
3 泰	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
4 馬 來	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
5 北 部 ボルネオ (b)	昭 11 (1936)	56.1	ミリ及セリア油田の原油をルトンにあるサラワクオイルフィールド會社の製油所で荒引し輸出される。	
	12 (1937)	61.1		
	13 (1938)	91.3		
	以上年平均	69.1		
6 東 印 度 (b)	昭 12 (1937)	2,480.3	蘭領ボルネオ、在バリックバパン、バタフセ會社製油所一日原油處理能力 8,565 升、ダブス式分解蒸溜能力一日 1,177 升である。在ジャバ島、オノタロモ及在チエボウ、バタフセ會社の兩製油所一日原油處理能力は各々 398 升と 220 升、又チエボウ製油所のダブス式分解蒸溜能力一日 96 升である。在カブアン、コロニアル會社製油所は規模少く一日原油處理能力 95 升と云はれてゐる。スマトラ島、在パンカラシ、プランタン、バタフセ會社製油所一日原油處理能力 2,862 升、在ブラジウ、バタフセ會社製油所一日原油處理能力 7,155 升、ダブス式分解蒸溜能力一日 398 升、在スエングラシ、コロニアル會社製油所一日原油處理能力 7,155 升、チエボウ及タンク式分解蒸溜能力 2,862 升である。セラム島、在プーラ、バタフセ會社製油所で荒引されてバリックバパンの同社製油所に送られる。1940年=2,984.0(千升)	
	13 (1938)	2,498.8		
	14 (1939)	2,834.8		
	以上年平均	2,604.6		
7 ビルマ (a)(b)	昭 11 (1936)	311.2	シリアムにあるビルマ石油會社製油所一日原油處理能力は 3,180 升、ダブス式分解蒸溜能力一日 477 升である。ラングーンにあるブリテイシユ、ビルマ石油會社製油所一日原油處理能力 398 升、クロス式分解蒸溜能力一日 315 升である。又インドビルマ石油會社製油所一日原油處理能力 557 升、分解設備不明であるが、一日分解蒸溜能力 150 升である。	
	12 (1937)	262.8		
	13 (1938)	248.1		
	以上年平均	272.3		
8 印 度	昭 12 (1937)	70.7	印度—チクボイにあるアツサム石油會社製油所一日原油處理能力は 954 升、ダブス式分解蒸溜能力 334 升である。ラウルピンチにあるアトツク石油會社製油所一日原油處理能力は 686 升、ダブス式分解蒸溜能力一日 398 升である。パーレン島—シツラ島にあるバーレン會社製油所一日原油處理能力は 5,168 升、ダブス式分解蒸溜能力一日 1,908 升である。	
	13 (1938)	89.1		
	14 (1939)	93.0		
	以上年平均	84.3		
9 セイロン	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
10 瀛 洲	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
11 ニュー ジーランド	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
計 A 全 域	昭 12 (1937)	2,874.7	計	2,804.0
	13 (1938)	2,922.2	B 印度及セイロン	2,833.1
	14 (1939)	3,262.1	C 印度以下(8—12)	3,169.1
	年 平 均	3,030.3	(8及9)を除く	2,946.0
				を 除 く

註 記 (a)其他天然揮發油の産額は次の通である (b)航空揮發油を除く1936年=19.1(千升) 1937年=27.5(千升) 1938年=22.6(千升) 重量を容量に換算する比率は次の如くした。1 噸=1.31升

燃料及電力		獨	英	單位
分類	IV (4)	獨 : Flugzeugbenzin	英 : Aviation gasoline (spirit)	千 升
		佛 : Essence de Pétrole d'aviation	蘭 : Vliegbenzin	
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
3 泰	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
4 馬 來	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
5 北 部 ボルネオ	昭 11 (1936)	21.9		
	12 (1937)	25.8		
	13 (1938)	41.7		
	以上年平均	29.8		
6 東 印 度	昭 12 (1937)	416.7	1940年=495.4(千升)	
	13 (1938)	541.9		
	14 (1939)	561.6		
	以上年平均	506.7		
7 ビルマ	昭 11 (1936)	11.7		
	12 (1937)	13.0		
	13 (1938)	15.0		
	以上年平均	13.2		
8 印 度	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
9 セイロン	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
10 瀛 洲	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
11 ニュー ジーランド	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937)	—		
	13 (1938)	—		
	14 (1939)	—		
	以上年平均	—		
計 A 全 域	昭 12 (1937)	455.5	計	455.5
	13 (1938)	598.6	B 印度及セイロン	598.6
	14 (1939)	618.3	C 印度以下(8—12)	618.3
	年 平 均	549.7	(8及9)を除く	549.7
			を 除 く	549.7

註 記 重量を容量に換算する比率は次の如くした。1 噸=1.342 升

分類		燃料及電力		獨 : Leuchtöl, Kerosin 佛 : Kérosène		英 : Kerosene 蘭 : Kerosine		單位 千 斤			
國 名	年 次	生産高		主要生産地—其の他備考							
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
3 泰	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
4 馬 來	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
5 北 部 ボルネオ	昭 11 (1936)	37.5		1940年 = 1,215.1(千斤)							
	12 (1937)	55.7									
	13 (1938)	81.1									
	以上年平均	58.1									
	以上年平均	58.1									
6 東 印 度	昭 12 (1937)	1,319.0									
	13 (1938)	1,126.8									
	14 (1939)	1,255.0									
	以上年平均	1,233.6									
	以上年平均	1,233.6									
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	653.4									
	13 (1938)	655.8									
	14 (1939)	677.6									
	以上年平均	662.3									
	以上年平均	662.3									
8 印 度	昭 12 (1937)	163.4									
	13 (1938)	168.2									
	14 (1939)	125.8									
	以上年平均	152.5									
	以上年平均	152.5									
9 セ イ ロ ン	昭 12 (1927)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
10 濠 洲	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
11 ニュージ ランド	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
計 A 全 域	昭 12 (1937)	2,191.5		計		2,028.1		計		2,028.1	
	13 (1938)	2,031.9		B 印度及セイロン		1,863.7		C 印度以下(8-12)		1,863.7	
	14 (1939)	2,139.5		(8及9)を除く		2,013.7		を除く		2,013.7	
	年 平 均	2,106.5		(8及9)を除く		1,954.0		を除く		1,954.0	
	年 平 均	2,106.5									

註 記 重量を容量に換算する比率は次の如くした。1 噸 = 1.21 斤

分類		燃料及電力		獨 : Heizöl, Schweröl, Gasöl 佛 : Huile lourde		英 : Fuel oil, Heavy oil 蘭 : Vloeibare brandstof		單位 千 斤			
國 名	年 次	生産高		主要生産地—其の他備考							
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
3 泰	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
4 馬 來	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
5 北 部 ボルネオ	昭 10 (1935)	649.5									
	11 (1936)	631.3									
	12 (1937)	726.5									
	以上年平均	669.1									
	以上年平均	669.1									
6 東 印 度	昭 12 (1937)	2,896.1									
	13 (1938)	2,988.2									
	14 (1939)	3,105.6									
	以上年平均	2,996.6									
	以上年平均	2,996.6									
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	25.7									
	13 (1938)	32.1									
	14 (1939)	27.8									
	以上年平均	28.5									
	以上年平均	28.5									
8 印 度	昭 11 (1936)	24.6									
	12 (1937)	8.6									
	13 (1938)	36.4									
	以上年平均	23.2									
	以上年平均	23.2									
9 セ イ ロ ン	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
10 濠 洲	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
11 ニュージ ランド	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937)	—									
	13 (1938)	—									
	14 (1939)	—									
	以上年平均	—									
	以上年平均	—									
計 A 全 域	昭 12 (1937)	3,656.9		計		3,648.3		計		3,648.3	
	13 (1938)	3,783.2		B 印度及セイロン		3,746.8		C 印度以下(8-12)		3,746.8	
	14 (1939)	3,896.8		(8及9)を除く		3,859.9		を除く		3,859.9	
	年 平 均	3,717.4		(8及9)を除く		3,694.2		を除く		3,694.2	
	年 平 均	3,717.4									

註 記 重量を容量に換算する比率は次の如くした。1 噸 = 1.07 斤

分 類	燃料及電力 IV.....(7)	獨 : Maschinenöl, Schmieröl 佛 : Huile de machine, Huile de graissage		英 : Lubricating oil, Machine oil 蘭 : Smeersolie		單位 千 斤
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	35.1 27.1 31.5 31.2	1940年 = 36.5(千斤)		
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	32.4 29.2 35.6 32.4			
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	8.6 8.6			
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
10	濠 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —			
計	A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	76.1 64.9 75.7 72.2	計 B 印 度 及 セ イ ロ ン (8 及 9) を 除 く	計 C 印 度 以 下 (8—12) を 除 く	67.5 56.8 67.1 63.6

註 記 重量を容量に換算する比率は次の如くした。1 噸 = 1.08 斤

分 類	燃料及電力 V.....(8)	獨 : Elektrische Kraft (od. Leistung) 佛 : Puissance (Energie) électrique		英 : Electric Power 蘭 : Electricische Kracht		單位 千KWH
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1	比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	116,000 181,000 145,000 130,667	マニラの公營發電所の發電量を示す。1938年現在の發電設備は約5萬KW、水火力の比率は火力75%水力25%。發電所總數300餘、主要電氣事業者はマニラ電氣會社の獨占的と云はれる程他は小さい。		
2	印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	... 152,740 ... 152,740	1937年の發電設備は10萬5千KW、發電所數は89、水火力の比率は火力98%水力2%。主要事業者は印度支那電氣(ハノイ、ハイフォン)、印度支那水道電氣(サイゴン、フロンベン)植民地電氣電力、印度支那合同電氣の五社である。尙電氣供給事業者の發電量は36年—68百萬KWh、37年—75百萬KWh、38年—82百萬KWh。		
3	泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均 48,586 43,536	全部火力。1941年發電設備4萬KW官營の外に事業者としてタイ電氣會社がある。發電所は49中事業用47、自家用2である。尙左記38年の數字は消費量を示す。		
4	馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	447,000 521,000 375,000 447,667	發電力の比率は火力75%水力25%、1937年發電設備は16萬KW、發電所數180、發電設備の官公營對私營の比は67對100。主要電力會社はマラ川水力電氣及マラツの電氣會社である。		
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	サラワクのクチンに公營のディーゼル及汽力に依る835KWの發電設備あり、又サンボカンに英領ボルネオ商會社(B. B. T.)經營の400-KW火力發電設備がある。尙各地の小都邑に小規模の火力發電所がある由である。		
6	東 印 度	昭 13 (1938) 14 (1939) 15 (1940) 以上年平均	... 830,500 931,800 880,650	1939年發電設備は44萬KW、發電力の比率は水力火力半々であるが發電量の比は水力60%火力40%である。發電所數は730で主要發電所はジャバのバイデンツルグ及バンドン地方に在り、主要事業者は蘭印電氣、蘭印ガス、バンドン及近郊合同電氣の三社で、全供給量の9割を占める。		
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均 30,400 30,400	發電力の比は火力60%水力40%、主要發電所はワソグーンにあり出力6,610KW、ビルマの水力開發の遅々たるは水力資源の遠いこと及工業不振に依る。1939年の發電設備は3萬1千KWと云はれる。		
8	印 度	昭 14 (1939) 15 (1940) 16 (1941) 以上年平均 3,600,000 3,600,000	發電力の比は火力70%水力30%と云はれ、發電設備の能力は約100萬KW。最近の水力發電狀況は、ボンベイ州では水力總計18萬KW、マドラス州のバイカラ發電所は4萬1千KWに増加し、マイソル州では4萬2千KWの發電所を建設中である。		
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	... 27,325 ... 27,325	1938年發電設備は1萬9千KW、大部分官營で従前は全部火力であつた。發電所中最大のはコロンボに在り政廳の經營である。1938年政廳はコロンボ地方に2萬5千KWの水力發電を計畫し、工事に着手したと云はれる。		
10	濠 洲	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	3,527,003 3,908,775 4,053,469 3,930,049	1937年の發電設備は122萬KWで大部分火力である。最近水力の開發も行はれ、例へばニューサウスウェルズのスノウリッチはビクトリアのキエワ(4萬KW)タスマニアのタラレー水力發電所(4萬7千KW)の完成等がある。尙西部に於ても官營に依る電氣開發計畫が立てられてゐる。尙既存の發電所數は約875である。		
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1,141,958 1,252,562 1,413,518 1,269,346	1940年發電量は15萬KWh餘。發電の大部分は官營、配電は地方の電氣局が行つてゐる。發電の比率は水力98%火力2%で發電所數は約40、中主なるものは北島ではアラゴニ(6萬KW)ワイカレモアナ(3萬2千KW)、南島ではコレリツ湖の國營發電所(3萬4千KW)である。		
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	ヌメア市に現在ルニケル會社が發電設備の餘剰電力を市に販賣する状態で、他はゴロのヌベルカレドニー會社等が自家發電を爲すのみである。		
計	A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	10,807,234 10,840,928 10,819,532 10,512,880	計 B 印 度 及 セ イ ロ ン (8 及 9) を 除 く	計 C 印 度 以 下 (8—12) を 除 く	6,679,909 7,218,003 7,192,207 6,885,055

註 記

分類	種 類	獨 : Wolle 佛 : Laine	英 : Woll 蘭 : Wol	單位 千 噸		
	V (1)					
國 名	年 次	生産高	主要生産地——其の他備考			
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
3 泰	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
4 馬 來	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
5 北 部 ボルネオ	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
6 東 印 度	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
8 印 度	昭 11 (1936)	45.3	パンジャブ及フロンティア地方のヒザール、ヘロゼボール、ラホール、ジャングル其他が主産地なり。			
	12 (1937)	45.3				
	13 (1938)	45.0				
	以上年平均	45.2				
9 セイロン	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
10 濠 洲	昭 12 (1937)	—	メリノ種羊毛は全産毛量の 83 % を占め雑種羊毛は僅か 17 % である。 1940年 = 441.6(千噸)			
	13 (1938)	497.5				
	14 (1939)	498.6				
	以上年平均	468.1				
11 ニュー ジラード	昭 12 (1937)	134.5	メリノ種羊毛は僅か全産毛量の 2 % に過ぎず 98 % は雑種羊毛である。 1940年 = 140.4(千噸)			
	13 (1938)	138.1				
	14 (1939)	145.0				
	以上年平均	139.2				
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	617.3	計	572.0	計	—
	13 (1938)	620.6	B 印度及セイロン	575.6	C 印度以下(8-12)	—
	14 (1939)	688.6	(8及9)を除く	643.6	を除く	—
	年 平 均	652.5	(8及9)を除く	607.3	を除く	—
注 記	濠洲及ニュージラードの頭當り剪毛量は8-10封度、平均8.5封度。印度、東亞各地域一頭當り剪毛量3-4封度。主要生産地は羊の主要飼育地と同じ。					

分類	種 類	獨 : Baumwolle, Entkörnte Baumwolle 佛 : Coton (égrené)	英 : Cotton, ginned (or seed- ed) Cotton 蘭 : Katoen	單位 千 噸		
	V (2)					
國 名	年 次	生産高	主要生産地——其の他備考			
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	0.5	イロコスノルテに最も多く、その他ミナミスオリエンタール、イロコス地方に栽培せられる。品種はバタングスホワイト、カバズブラウの二種スールの各のみが適してゐると云はれる。			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	0.5				
2 印 度 支 那	昭 11 (1936)	1.3	赤土地帯が好適地であり、即ちカンボジア、メコン河堤防地帯に栽培せられる。			
	12 (1937)	1.2				
	13 (1938)	1.1				
	以上年平均	1.2				
3 泰	昭 12 (1937)	1.9	北部地方(チェンマイ、チェンセン、スワンカロータ、ピサノロック、ランパン、ランブン)、東部地方(コラート、ウボン、コンケン)中部地方(ナコンパトム)の各地に栽培せられ、作付面積比率は東北部 67%、北部 21%、中部 8% である。			
	13 (1938)	1.2				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	1.6				
4 馬 來	昭 12 (1937)	—	棉作に適してゐないと云はれる。			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
5 北 部 ボルネオ	昭 12 (1937)	—	現在の所氣候的に棉作は不適とされてゐる。			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
6 東 印 度	昭 11 (1936)	(a)1.3	東部ジャバ(セマラン、ジャベラ、レンパンの各地方)、スマトラ(パレンバン、ジャンビー、ランボン、東海岸州の各地方)、ニューギニア(モミ、サルミの地方)に主として栽培せられる。セレベス島ラサイール地方にも曾て栽培行はれた。			
	12 (1937)	(a)1.9				
	13 (1938)	(a)2.1				
	以上年平均	1.8				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	27.2	上ビルマに限られサガイン、下チンドウイン、メイテイラ、ミンギセン、タエタヨーに栽培される。			
	13 (1938)	19.3				
	14 (1939)	17.8				
	以上年平均	21.3				
8 印 度	昭 12 (1937)	1,038.2	作付面積及比率は次の通りである。ベラール州 20%、ハイデラバード州 18%、パンジャブ州 15%、マドラス州 11%、中央土侯國 5%、ボンベイ州 3% である。 1940年 = 1,010(千噸)			
	13 (1938)	915.3				
	14 (1939)	907.2				
	以上年平均	953.6				
9 セイロン	昭 10 (1935)	0.1				
	11 (1936)	0.1				
	12 (1937)	0.1				
	以上年平均	0.1				
10 濠 洲	昭 12 (1937)	2.8	ニューサウスウェルズ海岸地帯、東及北部タインスランド、ノーザンテリトリー、西オーストラリアのキムバレ地方に栽培され氣候地質は棉作に好適と云はれる。			
	13 (1938)	2.9				
	14 (1939)	3.1				
	以上年平均	2.8				
11 ニュー ジラード	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937)	—	前大戦迄は良質の棉花が採集されたが、現在は野生の棉花(南米棉に似る)があるだけである。			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	1,073.3	計	35.0	計	32.7
	13 (1938)	942.5	B 印度及セイロン	27.1	C 印度以下(8-12)	24.2
	14 (1939)	932.6	(8及9)を除く	25.8	を除く	22.2
	年 平 均	982.9		29.2		26.4
注 記	實棉より 33 % の繰綿が得らる。 (a)輸出高。					

分類	種 類 V.....(3)	獨 : Jute 佛 : Jute	英 : Jute (獨 : Jut)	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地——其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	現在生産なきもマニラに於ける試作より見出將來有望と認められる。	
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	0.3 0.3 0.2 0.3	安南、東京地方に分散的に農作物に附随して作られる。	
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	現在生産しない、過去に於ける研究の結果に依れば不適當と認められる。	
5 北 部 ボルネオ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	邦部ボルネオは、1940年より試作、1941年0.8千噸の生産あり。サン ダカン附近に栽培される。(但し邦人企業)	
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — 1.6	ジャバ島及ヒローニア——モミ、サルミ地方に栽培される。(ニューギ ニアの邦人企業)	
7 ビルマ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	現在生産なきも將來イラワジ河、サルウイナ河の三角洲には黄麻栽培の 可能性がある。	
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1,870.0 1,237.0 1,748.0 1,518.3	ベンガル州ガンジス河、グラーマプトラ河の三角洲地帯、アッサム州及オリ ッサ州に限定されてゐる。カルカッタ及其附近で黄麻袋製造され、 1939年に766.2千噸輸出されてゐる。	
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
10 淡 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
11 ニュージ ランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	1,671.9 1,238.9 1,749.9 1,520.2	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く
註 記	東印度 1939年は外領を含まず			

分類	種 類 V.....(4)	獨 : Manilahanf 佛 : Chanvre de Manille	英 : Manila hemp 蘭 : Manilla Hennep	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地——其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	200.6 164.9 171.0 178.8	マニラ州を主とし其の他レイテ、アルバイ、ソルソゴ、サマール、カ マリネススール、スリガホの各地方が主なる生産地である。	
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
5 北 部 ボルネオ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— 1.1 2.0 1.6	イラワジ河附近に主に栽培される。 1940年=4.9(千噸)	
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	4.8 4.8 5.3 5.0	ジャバ島のケデリ、スラガルタ、ジョクジャガルタ、マラン地方に産し、 スマトラ島では東海岸州、アチエー地方に栽培される。	
7 ビルマ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
10 淡 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
11 ニュージ ランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —		
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	206.5 170.8 178.3 185.4	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く
註 記	東印度 1939年は外領を含まず			

分類	種 織	獨	英	佛	關	單位	種
	V (5)	Kapok	Kapok	Kapok	Kapok		
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考				
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1,500.0 1,452.0 1,480.0 1,477.3	セブ島及ネグロス島に主として栽培される。				
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	... 3,500 ... 3,500	カンボヂヤの南部地方に主として栽培される。				
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
4 馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	323.0 330.0 336.0 329.7	到る所の農家に、小規模に栽培される。				
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	北ボルネオの各地方に於て原住民に栽培される。従來其儘海外に輸出されてゐたので何等栽培上の進歩の状態が見えない。				
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	3,077.0 2,885.0 2,475.0 2,812.3	ジャバ島のスマラン、ベカロンガン、ボイテンゾルグ、パタビヤ、ケデリ、ブスキ、スラカルタ、ブリタルの諸地方、及セレベス島メナド地方が主たる栽培地である。				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
9 セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
10 濠 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	8,407.0 8,173.0 7,791.0 8,119.3	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	8,407.0 8,173.0 7,791.0 8,119.3	計 C 印度以下(8—12) を除く	8,407.0 8,173.0 7,791.0 8,119.3	
註 記	カボツク(種付)より29%の纖維が得らる。カボツク果實(英44%、種子32%、纖維16.8% 其他7.9%)						

分類	種 織	獨	英	佛	關	單位	種
	V (6)	Baumwollengarn, Baumwollenzwirn	Cotton yarn and thread	Fide de coton	Katoengaren		
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考				
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均 3.0 2.0	左の綿布換算 16,500 千平方碼。主要工場はマニラに在る比島紡績會社及 Koronadal Valley に在る National Development Co. であり、その設備は比島紡績 10,000 錠、National Development Co. 20,192 錠である。				
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均 10.5 10.5	同綿布換算 87,000 千平方碼。主要工場はナムンデイに在るトンキン紡績工場一箇所である。その錠数 130,000 を數え南方地域に於ける最大のものである。				
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均 0.5 0.5	同綿布換算 4,500 千平方碼。主要工場は泰國防省直轄工場のみでパンコックに在り 10,000 錠の設備を有する。尙 15,000 増錠計畫中である。				
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均 1.1 1.1	同綿布換算 9,000 千平方碼。主要工場は Tegal に在る Java Textiel Mij. のみで 15,000 錠の設備を有してゐる。				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均 1.6 1.6	同綿布換算 13,500 千平方碼。主要工場は Myingyan に在る Steel Bros. である。同工場は 12,800 錠を有してゐる。				
8 印 度 (a)	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	504.4 566.9 ... 535.7	同綿布換算 4,638,052 千平方碼。1937 年 4,638,052 千平方碼、1938 年 5,312,980 千平方碼				
9 セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均					
10 濠 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均 14.5 14.5	同綿布換算 120,000 千平方碼。主要工場は R.G. Dun & Co. Bond Mill, Bradford Mill Ltd. (シドニー) 及 Davies Coop Co. Ltd. (メルボルン、他に 2-3 あるも不詳) である。濠洲及ニュージーランドの工場数は 12、錠数は 180,000 錠である。				
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均					
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	534.6 597.1 597.1 565.9	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	30.2 30.2 30.2 30.2	計 C 印度以下(8—12) を除く	15.7 15.7 15.7 15.7	
註 記	生産高は据付錠数より推定したる綿糸生産可能量である。(a) 印度綿糸より綿布換算率は次ぎの通りである；400 封度 = 1,600 平方碼。						

分類		生ゴム、皮 草及木材 VI (1)		獨 : Kautschuk 佛 : Caoutchouc	英 : Rubber (crude) 蘭 : Ruwe rubber, caoutchouc	単位 千 磅
國 名	年 次	生産高	主要生産地——其の他備考			
1 比 律 賓	昭 11 (1936)	0.7	ザムボアンガ地方及ダバオ地方が産地である。			
	12 (1937)	0.7				
	13 (1938)	0.8				
	以上年平均	0.7				
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	45.1	赤土地帯の交趾支那が特に多く、栽培面積約 10 萬ヘクタールで、カンボ ジアのそれは 2 萬 7 千ヘクタールである。			
	13 (1938)	57.9				
	14 (1939)	69.0				
	以上年平均	57.3				
3 泰	昭 12 (1937)	47.3	大部分半島南部地方タウソン西部、パタニー州ハートヤイ、南部に産 し、特にヤラー、ソックラー、ナラーティワートの諸縣に多い。			
	13 (1938)	51.0				
	14 (1939)	53.5				
	以上年平均	50.6				
4 馬 來	昭 12 (1937)	509.3	ジョホール州 28%、ペラ州 22%、セランゴール州 13%、ネグリセム ピラン州 10%、ケダー州 9%、海峽植民地 10%、パハン州 6% の 割に産出する(パーセント数字は全産額に對するその土地の産出比率を 示す)。1940年=549.3(千磅)			
	13 (1938)	365.4				
	14 (1939)	365.9				
	以上年平均	413.5				
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937)	40.0	北ボルネオ——タワオ、ザンダカン附近及西海岸、中部地帯 サラワタ——クチン及シブ地方。			
	13 (1938)	28.0				
	14 (1939)	36.0				
	以上年平均	34.7				
6 東 印 度	昭 12 (1937)	453.5	西部ジャバ、東部ジャバ、スマトラでは東海岸、アチエー、ジャンビー、ベン ターレン、パレンバン、諸州及パンカ島、ピリトン島、西部ボルネオのボ ンチアナタ附近、アンパワン地方スケラツアラン地方、カバス河沿岸の 各地方。南東部ボルネオ産額の9割は原住民による。セレベスのメナド附 近及ニューギニアは計畫中である。1940年=528.2 1941年=652.9(千磅)			
	13 (1938)	324.6				
	14 (1939)	378.3				
	以上年平均	385.5				
7 ビ ル マ	昭 11 (1936)	9.5	半島部地方にベグ管區(ハンタワディ縣、インセイム縣)、テナセリム 管區(マダイ、アマースト、タトーン)の諸縣より産す。			
	12 (1937)	11.4				
	13 (1938)	10.6				
	以上年平均	10.5				
8 印 度	昭 11 (1936)	13.8	トラヴァンコール藩王國が特に多く全産額の約 78% を占め、マドラス 州 11%、コーチン藩王國 8%、Coorg 2%、マイソール 1% の割に 産出する			
	12 (1937)	14.6				
	13 (1938)	14.0				
	以上年平均	14.1				
9 セ イ ロ ン	昭 12 (1937)	70.8	西部州、南部州、中央州及サバラガムワ州に栽培される。			
	13 (1938)	51.9				
	14 (1939)	61.2				
	以上年平均	61.3				
10 濠 洲	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	1,192.7	計	1,107.3	計	1,107.3
	13 (1938)	904.2	B 印度及セイロン	848.3	C 印度以下(8—12)	888.3
	14 (1939)	989.3	(8 及 9)を除く	914.1	を除く	914.1
	年 平 均	1,028.2		952.8		952.8
	註 記	上記生ゴムの生産高は國際生産制限協定下の數量である。(但し比律賓を除く)				

分類		生ゴム、皮 草及木材 VI (2)		獨 : Ochsenhaut 佛 : Peau de bovin	英 : Cow-hide 蘭 : Runderleer	単位 磅
國 名	年 次	生産高	主要生産地——其の他備考			
1 比 律 賓	昭 10 (1935)	767.0				
	11 (1936)	792.0				
	12 (1937)	827.0				
	以上年平均	795.3				
2 印 度 支 那	昭 9 (1934)	367.0				
	10 (1935)	493.0				
	11 (1936)	456.0				
	以上年平均	438.7				
3 泰	昭 10 (1935)	(a) 1,715.0				
	11 (1936)	(a) 1,900.0				
	12 (1937)	(a) 2,400.0				
	以上年平均	(a) 2,005.0				
4 馬 來	昭 12 (1937)	(a) 427.0				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	(a) 111.0				
	以上年平均	(a) 269.0				
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 10 (1935)	—				
	11 (1936)	—				
	12 (1937)	—				
	以上年平均	—				
6 東 印 度	昭 12 (1937)	4,586.0	1940年=4,298.5(磅)			
	13 (1938)	3,773.0				
	14 (1939)	4,183.0				
	以上年平均	4,180.7				
7 ビ ル マ	昭 10 (1935)	—				
	11 (1936)	—				
	12 (1937)	—				
	以上年平均	—				
8 印 度	昭 9 (1934)	(a) 19,271.0				
	10 (1935)	(a) 19,462.0				
	11 (1936)	(a) 19,417.0				
	以上年平均	(a) 19,383.3				
9 セ イ ロ ン	昭 10 (1935)	—				
	11 (1936)	—				
	12 (1937)	—				
	以上年平均	—				
10 濠 洲	昭 10 (1935)	15,289.0				
	11 (1936)	17,384.0				
	12 (1937)	19,137.0				
	以上年平均	17,270.0				
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937)	2,580.0	1940年=2,999(磅)			
	13 (1938)	2,980.0				
	14 (1939)	2,972.0				
	以上年平均	2,844.0				
12 ニュー カレドニア	昭 10 (1935)	—				
	11 (1936)	—				
	12 (1937)	—				
	以上年平均	—				
計 A 全 域	昭 10 (1935)	45,319.0	計	25,857.0	計	7,988.0
	11 (1936)	47,542.0	B 印度及セイロン	28,125.0	C 印度以下(8—12)	8,161.0
	12 (1937)	49,830.0	(8 及 9)を除く	30,413.0	を除く	8,696.0
	年 平 均	47,186.0		27,802.7		7,688.7
	註 記	(a) 輸出高。比律賓——屠殺数より算出、成牛一頭當り5kg。印度支那屠殺数より算出成牛一頭當り5kg、 一頭當り1.6kg。泰——鞣皮を含まず。東印度——屠殺数より算出、成牛一頭當り5kg(水牛を含む)。				

分類	生ゴム、皮 草及木材 VI (3)	獨 : Büffelhaut 佛 : Peau de buffle	英 : Buffalo-hide 蘭 : Karbouws-,waterbuffels- houden	單位	種	
國名	年次	生産高	主要生産地—その他備考			
1 比律賓	昭 10 (1935)	1,081.0				
	11 (1936)	1,229.0				
	12 (1937)	1,236.0				
	以上年平均	1,182.7				
2 印度支那	昭 9 (1934)	415.0				
	10 (1935)	404.0				
	11 (1936)	320.0				
	以上年平均	379.7				
3 泰 (b)	昭 10 (1935)	(a) 5,585.0				
	11 (1936)	(a) 7,390.0				
	12 (1937)	(a) 6,202.0				
	以上年平均	(a) 6,392.3				
4 馬來	昭 12 (1937)	(a) 280.0				
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	(a) 227.0				
	以上年平均	(a) 253.5				
5 北ボルネオ	昭 10 (1935)	...				
	11 (1936)	...				
	12 (1937)	...				
	以上年平均	...				
6 東印度	昭 10 (1935)	...	牛皮統計に含まる。(No. 45 牛皮の脚註参照)			
	11 (1936)	...				
	12 (1937)	...				
	以上年平均	...				
7 ビルマ	昭 10 (1935)	...				
	11 (1936)	...				
	12 (1937)	...				
	以上年平均	...				
8 印度	昭 9 (1934)	(a) 2,838.0				
	10 (1935)	(a) 2,693.0				
	11 (1936)	(a) 4,480.0				
	以上年平均	(a) 3,337.0				
9 セイロン	昭 10 (1935)	...				
	11 (1936)	...				
	12 (1937)	...				
	以上年平均	...				
10 濠洲	昭 10 (1935)	...				
	11 (1936)	...				
	12 (1937)	...				
	以上年平均	...				
11 ニューゼーランド	昭 10 (1935)	...				
	11 (1936)	...				
	12 (1937)	...				
	以上年平均	...				
12 ニューカレドニア	昭 10 (1935)	...				
	11 (1936)	...				
	12 (1937)	...				
	以上年平均	...				
計 A 全域	昭 10 (1935)	10,045.0	計	7,352.0	計	7,352.0
	11 (1936)	13,699.0	B 印度及セイロン	9,219.0	C 印度以下(8-12)	9,219.0
	12 (1937)	12,518.0	(8及9)を除く	8,038.0	を除く	8,038.0
	年平均	11,545.2	(8及9)を除く	8,208.2	を除く	8,208.2
註記	(a)輸出高、(b)泰産皮を含まず					

分類	生ゴム、皮 草及木材 VI (4)	獨 : Bauholz 佛 : Bois de construction	英 : Timber 蘭 : Timmerhout	單位	千立方米	
國名	年次	生産高	主要生産地—その他備考			
1 比律賓	昭 12 (1937)	2,020.7	赤ラワン—ルソン島東部及北部、ネグロス及アグサンの各州。 白ラワン—全島の一般低地。 タンギール—パヤソン、バシラン、ミンダナオ、各島より産出する。 一般に海拔千米以上の地に生育する。			
	13 (1938)	1,887.6				
	14 (1939)	2,021.0				
	以上年平均	1,976.4				
2 印度支那 (a)	昭 12 (1937)	702.0	安南山脈一帯の地域より産出する 主要材—ダンプオン、カムライ、リム、カム・チ、トラク等は上等材 サオ、テック、カムセー、カー・チヤク等は一等材、パンラン、ソアン タウ、ユイン、スララオ等は次位である。			
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	600.0				
	以上年平均	651.0				
3 泰 (a)	昭 12 (1937)	122.2	ナコーン・ラチャシマ、プラチンブリー、ナコン・サワン、サラブリー、ス ワソカローク地方より紫檀を多く産し、その他黒檀、縞紫檀、花桐等を産 出する。			
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	127.4				
	以上年平均	124.8				
4 馬來	昭 12 (1937)	628.5	ペラ、ジョホール、セランゴール、パハンの各地方で全額の 8 割を占め る。 主要材はチェンガル、ルサタ、ムランティ、クルイン等である。			
	13 (1938)	655.6				
	14 (1939)	1,047.6				
	以上年平均	777.2				
5 北ボルネオ	昭 12 (1937)	237.9	北ボルネオのタワオ附近、シンボルナ、サンダカン附近及サラワクより 産出する。			
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	300.0				
	以上年平均	269.0				
6 東印度 (a)	昭 12 (1937)	1,176.2	西部ボルネオ及南東ボルネオより鐵木、ブシヤウ、セレベスよりチーク、 イヌシデ、そしてジャバマツラ及スマトラよりガギール、カポール、 クルイン、コーキシタ、セラヤブテ、セラヤメラ等を産出する。 1940年=1,382(千立方米)			
	13 (1938)	1,231.6				
	14 (1939)	1,334.2				
	以上年平均	1,247.3				
7 ビルマ (a)	昭 11 (1936)	687.0				
	12 (1937)	...				
	13 (1938)	...				
	以上年平均	687.0				
8 印度	昭 8 (1933)	8,978.3	シンド、ラージプターナ、バルチスタンの一部及パンジヤブの南部一帯 よりバブル又はキカ等を産し、半島の西海岸、ヒマラヤ山麓の東部は樹 木の種類甚だ多い。東部ヒマラヤ山アッサム地方は各種の榿、木蘭、桂 樹、ヒマラヤ杉、カシヤ杉等多種である。ヒマラヤ山麓、半島地よりは チーク及ジャールを産出する。			
	9 (1934)	11,852.3				
	10 (1935)	10,709.0				
	以上年平均	10,346.5				
9 セイロン	昭 12 (1937)	...				
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	...				
10 濠洲	昭 12 (1937)	1,550.0	大部分硬質材で全産額の 82 %を占め、軟質材は 18 %である。			
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	1,550.0				
11 ニューゼーランド	昭 11 (1936)	761.7				
	12 (1937)	721.8				
	13 (1938)	747.0				
	以上年平均	743.5				
12 ニューカレドニア	昭 12 (1937)	...	南西部のピローグ湖地方を流れるピローグ河、ホワイト河、マジヨレ河 及ブルー河の各流域には最大の森林地帯がある。樹種は多様であるが本 島及隣接のバン島にはアローカリア・タツキイと稱する世界の何處にも 発見されない樹木が成育してゐる。			
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	...				
計 A 全域	昭 12 (1937)	18,555.3	計	7,846.3	計	5,574.5
	13 (1938)	18,529.9	B 印度及セイロン	7,820.9	C 印度以下(8-12)	5,523.9
	14 (1939)	19,123.2	(8及9)を除く	8,414.2	を除く	6,117.2
	年平均	18,372.7	(8及9)を除く	8,026.2	を除く	5,732.7
註記	(a)チーク材を除く					

チーク材

分類	生ゴム、皮 草及木材 VI (5)	獨 : Tiekholz 佛 : (Bois de) teck		英 : Teak 蘭 : Teak-djatihout		單位 千立方米
		國名	年次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1	比律賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	— — —	安南山脈一帯の地域より産出する。	
2	印度支那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	178.9	173.9	北部タイ全地域の海拔 200—700 米の地より産出する。	
3	泰	昭 9 (1934) 10 (1935) 11 (1936) 以上年平均	167.7 217.0 173.8	186.2		
4	馬來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	—		
5	北ボルネオ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	—		
6	東印度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	267.0 276.0 308.0	283.7	爪哇西部、中部及東部の各地方より産出する。 1940 年 = 259.0 (千立方米)	
7	ビルマ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	647.1	647.1	下ビルマの東及南部地帯、特に泰との接續地帯より産出する。	
8	印度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	ビルマ近接のアッサムの山麓地帯より産する。	
9	セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	—		
10	漢洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	—		
11	ニュージ ランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	—		
12	ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	—		
計	A 全域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年平均	1,261.8 1,270.8 1,302.8 1,290.9	計 B 印度及セイロン (8 及 9) を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く	1,261.8 1,270.8 1,302.8 1,290.9

註記

セメント

分類	工業及化學 原料 VII..... (1)	獨 : Zement 佛 : Ciment		英 : Cement 蘭 : Cement		單位 千 噸
		國名	年次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1	比律賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	132.0 148.0 167.0	149.0	セブ島セブ市郊外セブポルトランドセメント會社(官營)は年産能力 17 萬噸。マニラ郊外リザルセメント會社(民營)は 1939 年 1 月に日産 2 千噸(1 樽 = 170.55kg)に設備擴張、一部作業開始。	
2	印度支那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	149.0 237.0 266.0	217.3	海防に佛印ポルトランドセメント會社あり、年産能力 30 萬噸。尙海防附近の Thuong-Ly 村にアルミナセメントを製造する上記姉妹會社あり、年産能力 15 萬噸の由である。	
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	77.0 82.0 92.0	83.7	バンコック北方近郊チャオブラヤ河畔 Bangsue にタイセメント會社があり、年産能力 12—18(萬噸)である。	
4	馬來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	—	マレー聯邦州に 1 工場ある模様だが、その生産量は取るに足りない。マレーは年間約 28 萬噸を輸入してゐる。	
5	北ボルネオ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	—		
6	東印度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	170.0 200.0 220.0	196.7	蘭印ポルトランドセメント會社がスマトラのパダン州インダランにあり、年産能力 235 (千噸)。尙ジャバでは火山土を原料とするトラスセメントを製造してをり、年間の生産 2 (千噸)未滿である。	
7	ビルマ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	25.0	北部イラワヂ河畔の Thayetmyo にビルマセメント會社がある。1936 年頃の設立で現在年 25 (千噸)の生産がある。尙増産の餘地ある由。	
8	印度	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	892.0 977.0 1,142.0	1,003.7	英國の Associated Cement 會社系と印度財閥の Dalmia 系外に 3—4 のアウトサイダーがある。前者はボンベイを中心に各地に 10 社あり年産能力計 170 萬噸、後者は Bihar 州の本社と各地の 6 工場で年産能力計 60 萬噸。アウトサイダーは 12 萬噸の生産能力がある。	
9	セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	—	セメント工場はない模様である。	
10	漢洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	732.0 866.0 881.0	826.3	工場数は 1937 年に 108 工場を數へ、シドニーの Kandos Cement 會社等が其主要なるものである。	
11	ニュージ ランド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	154.0 176.0 220.0	183.3	石灰及セメント工場数は 1939 年現在約 66 工場。	
12	ニュー カレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	—	使用量は輸入して居る。	
計	A 全域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年平均	2,707.0 2,968.0 3,013.0	2,685.0	計 B 印度及セイロン (8 及 9) を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く
註記					1,565.0 1,826.0 1,871.0 1,681.3	657.0 740.0 770.0 671.7

分類	工業及化学原料 VII (2)	獨 : Alkohol		英 : Alcohol		單位 千 疔
		佛 : Alcool		蘭 : Alcohol		
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	776.0	ネグロス州に 8 工場、ババング州に 1 工場、イロイロ州に 2 工場、タラック州に 1 工場、セブ州に 1 工場、レガナ州に 1 工場、パンガシナン州に 1 工場、ミンドロ州に 1 工場、計 16 工場のアアルコール工場がある。			
	13 (1938)	957.0				
	14 (1939)	580.0				
	以上年平均	771.0				
2 印 度 支 那	昭 11 (1936)	848.0	現在大小約 50 工場あり、中佛人系印度支那醸造會社系工場が總生産高の 90 % を占め、残りを安南人經營に依るもので、原料は總て米を使用する。			
	12 (1937)	391.0				
	13 (1938)	433.0				
	以上年平均	390.7				
3 泰	昭 12 (1937)	—	アユチャに年間生産 126 千疔の官營工場建設計畫中である。			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
4 馬 來	昭 12 (1937)	—	製糖工場約 8 あるもアルコールに付いては見るべき生産がない。			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
5 北 部 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
6 東 印 度	昭 12 (1937)	7.3	輸出量を示す。實際酒精用として使用せられた糖蜜の量から推定すれば生産量は輸出量の四倍程度と考へられる。			
	13 (1938)	6.8				
	14 (1939)	6.0				
	以上年平均	6.7				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	4.0	従來ジャバから供給を受けていたが、現在自給して居る模様である。			
	13 (1938)	4.0				
	14 (1939)	4.0				
	以上年平均	4.0				
8 印 度	昭 12 (1937)	242.0	近代式製糖工場はビハール州及合併州に在り、主として糖蜜よりアルコールの生産を、合併州及ビハール州の政府に依り定められた Joint-Power Alcohol Committee が獎勵してゐる。			
	13 (1938)	246.0				
	14 (1939)	234.0				
	以上年平均	240.7				
9 セ イ ロ ン	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
10 濠 洲	昭 10 (1935)	182.0	主としてタインズランドのサリナ及シドニー等で生産される。原料は糖蜜及小麦である。			
	11 (1936)	214.0				
	12 (1937)	460.0				
	以上年平均	285.3				
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937)	...	多少の生産あるも詳細不明である。			
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	...				
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	1,880.3	計	1,638.3	計	1,178.3
	13 (1938)	2,106.8	B 印度及セイロン	1,860.8	C 印度以下(8—12)	1,400.8
	14 (1939)	1,717.0	(8 及 9) を除く	1,489.0	を除く	1,023.0
	年 平 均	1,698.4	(8 及 9) を除く	1,457.7	を除く	1,172.4

註 記

分類	工業及化学原料 VII (3)	獨 : Baumwollensaat		英 : Cottonseed		單位 千 疔
		佛 : Graine de coton		蘭 : Kataenzood		
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比 律 賓	昭 10 (1935)	1.1	従來棉花栽培は餘り行はれてゐないが比島の風土は棉作に適すると云はれて居る。			
	11 (1936)	1.2				
	12 (1937)	1.1				
	以上年平均	1.1				
2 印 度 支 那	昭 10 (1935)	2.7	産地は安南、カンボヂヤ、メコン河流域地方である。			
	11 (1936)	3.0				
	12 (1937)	2.7				
	以上年平均	2.8				
3 泰	昭 11 (1936)	3.6	産地は東北部地方にしてウボン、ナーコンラチヤシマー、ピサヌローク、チェンマイ、スワンカロークの地域である。			
	12 (1937)	4.0				
	13 (1938)	3.2				
	以上年平均	3.9				
4 馬 來	昭 12 (1937)	—	棉花の栽培が行はれて居ない。			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
5 北 部 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937)	—	氣候的に棉花の栽培不適であると云はれる。			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
6 東 印 度	昭 12 (1937)	3.1	棉花輸出量から推定した。スマトラではバレンバン及ジャンビー地方、ジャバでは中部のジキバラ、レンバン東部のパニユウワンギ、マツラ西部ではデマツク、及びニューギニア等が産地である。			
	13 (1938)	4.4				
	14 (1939)	4.8				
	以上年平均	4.1				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	63.4	主産地は北ビルマのマンダレーからミンヂヤンに到るイラワヂ河流域地帯サガインを中心に最も多い。			
	13 (1938)	45.0				
	14 (1939)	40.2				
	以上年平均	49.5				
8 印 度	昭 12 (1937)	2,419.0	ボンベイ、パンヂヤブ、中央州及ベラル、マドラス、ハイデラバート、シンド地方等が主産地である。			
	13 (1938)	2,182.8				
	14 (1939)	2,113.7				
	以上年平均	2,221.8				
9 セ イ ロ ン	昭 10 (1935)	0.1				
	11 (1936)	0.2				
	12 (1937)	0.2				
	以上年平均	0.2				
10 濠 洲	昭 12 (1937)	3.8	産地は殆んどタインズランドである。			
	13 (1938)	5.0				
	14 (1939)	6.0				
	以上年平均	4.9				
11 ニュージ ラ ン ド	昭 12 (1937)	—	採油用植物種子を輸入する。			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
12 ニュー カレドニア	昭 10 (1935)	...	本島北部地方に住時栽培したものが野生的に繁殖して居ると云はれる。			
	11 (1936)	...				
	12 (1937)	0.1				
	以上年平均	0.1				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	2,408.3	計	79.1	計	75.2
	13 (1938)	2,194.5	B 印度及セイロン	61.5	C 印度以下(8—12)	56.4
	14 (1939)	2,172.0	(8 及 9) を除く	58.1	を除く	52.0
	年 平 均	2,288.4	(8 及 9) を除く	66.4	を除く	61.4

註 記

實棉から棉實の収量は 65 % — 70 % である。尙棉實から約 15 % の棉實油が得られる。

分類	工業及化学原料 VII (4)	獨 : Rizinus 佛 : Ricin		英 : Caster 蘭 : Ricinus-, djarakpit		單位 千 噸
		年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1 比 律 賓	昭 10 (1935)	0.2	セブ州ボホール州等が主産地である。			
	11 (1936)	0.2				
	12 (1937)	0.2				
	以上年平均	0.2				
2 印 度 支 那	昭 11 (1936)	...	1936年及1937年は輸出量夫々1.6及2.4(千噸)である。産地は東京地方で年産約5千噸と推定せられる。(1萬噸説もある)			
	12 (1937)	...				
	13 (1938)	...				
	以上年平均 (a)	5.0				
3 泰	昭 12 (1937)	...	年産千噸と推定せられる。 尙輸出量は { 1937年—0 1938年—0.19 1939年—0.07 } (千噸)である。			
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均 (a)	1.0				
4 馬 來	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
5 北 部 ボルネオ	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
6 東 印 度 (b)	昭 12 (1937)	6.7	左は輸出量を示す。主としてジャバの中部以東即ボジョネゴロ州、スラカルタ州に産し外額は極少量である。原住民の栽培に依る。1940年は4.4(千噸)の輸出があつた。			
	13 (1938)	6.3				
	14 (1939)	6.8				
	以上年平均	6.6				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	...	年産500噸と推定せらる。			
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均 (a)	0.5				
8 印 度	昭 12 (1937)	104.0	マドラス及ボンベイ、ハイダラバード地方が主産地である。 輸出量は { 1937年—50.9 1938年—9.3 1939年—17.8 } (千噸)である。			
	13 (1938)	113.0				
	14 (1939)	96.0				
	以上年平均	104.3				
9 セイロン	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
10 濠 洲	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
11 ニュー ゼーランド	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937)	...	少量栽培せられ、其面積約千ヘクタールである。			
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	...				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	117.4	計	13.4	計	13.4
	13 (1938)	126.0	B 印度及セイロン	13.0	C 印度以下(8—12)	13.0
	14 (1939)	109.5	(8及9)を除く	13.5	を除く	13.5
	年 平 均	117.6	(8及9)を除く	13.3	を除く	13.3
	注 記	ヒマシより約30%—45%のヒマシ油が得らる。 (a) 推定 (b) 輸出量				

分類	工業及化学原料 VII (5)	獨 : Rizinusöl 佛 : Huile de ricin		英 : Caster oil 蘭 : Ricinus-, djarakolie		單位 噸
		年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
2 印 度 支 那 (a)	昭 12 (1937)	730.0	輸出量を示す、ヒマシは東京地方が主産地にして栽培面積約8千ヘクタールである。			
	13 (1938)	815.0				
	14 (1939)	1,069.0				
	以上年平均	871.3				
3 泰	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
4 馬 來	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
5 北 部 ボルネオ	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
6 東 印 度 (a)	昭 12 (1937)	...	輸出量を示す、ヒマシは原住民の栽培に依る。			
	13 (1938)	26.0				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	26.0				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
8 印 度 (a)	昭 12 (1937)	7,656.0	輸出量を示す、マドラス地方が主産地である。			
	13 (1938)	4,881.0				
	14 (1939)	5,524.0				
	以上年平均	6,020.3				
9 セイロン	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
10 濠 洲	昭 12 (1937)	—	現在輸入超過であるが少量の輸出もあり之を示せば { 1937年=57噸 1938年=60噸 1939年=61噸 } である。			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
11 ニュー ゼーランド	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
12 ニュー カレドニア	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	8,412.0	計	756.0	計	756.0
	13 (1938)	5,722.0	B 印度及セイロン	841.0	C 印度以下(8—12)	841.0
	14 (1939)	6,619.0	(8及9)を除く	1,095.0	を除く	1,095.0
	年 平 均	6,917.6	(8及9)を除く	897.3	を除く	897.3
	注 記	ヒマシより約30%—45%のヒマシ油が得らる。 (a) 輸出量				

分類	工業及化学原料 VII (6)	獨 : Kopra		英 : Copra(b)		單位 千 噸
		佛 : Coprah		蘭 : Copra		
國 名	年 次	生産高	主要生産地 — 其の他備考			
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	495.4	ルソン島中部以南の諸地方に産出する、就中、タヤバス、ラグナセブ等の諸地方に多量の生産がある。 1940年 = 740.0 (千噸)			
	13 (1938)	604.9				
	14 (1939)	664.6				
	以上年平均	588.3				
	1940年	740.0				
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	11.1	交趾支那 ² 万ヘクタール餘、安南 ³ 千ヘクタール餘である、安南の生産は地場消費に使用せられる。			
	13 (1938)	10.5				
	14 (1939)	10.3				
	以上年平均	10.6				
	1940年	10.6				
3 泰 (a)	昭 11 (1936)	4.2	輸出量を示す、産出地域は東海岸、西海岸地方で主産地はプラーチンブーリ、ナコンシリタマラート、ラヂャブリ、ブーケット等である。			
	12 (1937)	4.4				
	13 (1938)	0.3				
	以上年平均	3.0				
	1940年	3.0				
4 馬 來 (a)	昭 12 (1937)	140.9	ジョホール及ペラ州が主産地である。			
	13 (1938)	149.1				
	14 (1939)	183.9				
	以上年平均	141.3				
	1940年	141.3				
5 北 部 ボルネオ	昭 12 (1937)	11.9	タワオ、サンダカン、タダツ、ゼツセルトン及サラワクのクチン附近が主産地である。			
	13 (1938)	12.8				
	14 (1939)	12.9				
	以上年平均	12.5				
	1940年	12.5				
6 東 印 度	昭 12 (1937)	775.5	主産地は西ボルネオ、スマトラの東海岸州、アチュー、タバヌリ、ジャバのジャンバラ、ジョンパン、ケデリイ、ボイデンゾルグ、ペカロンガン、プリアンガン、プスキ、パンタム、セレベスのメナド及ゴロンタロ、ニューギニアのメラウケ等である。			
	13 (1938)	849.9				
	14 (1939)	838.3				
	以上年平均	821.2				
	1940年	821.2				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	—	—			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
	1940年	—				
8 印 度	昭 12 (1937)	—	印度は輸入國であるが少量の輸出即毎年 100 噸程の輸出がある。			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
	1940年	—				
9 セイロン	昭 12 (1937)	179.4	コロンボを中心とする西部州、南部州、西北州に産出が多い。			
	13 (1938)	197.8				
	14 (1939)	155.0				
	以上年平均	177.4				
	1940年	177.4				
10 濠 洲	昭 11 (1936)	134.5	濠洲は殆ど生産なく、茲では太平洋の佛領植民地、フィジー島、ギルバート及エリス島ニューギニア、バブア、ソロモン諸島、西サモア、トンガの各島の生産の總計を示した。			
	12 (1937)	130.5				
	13 (1938)	139.5				
	以上年平均	131.5				
	1940年	131.5				
11 ニュージーランド	昭 12 (1937)	—	—			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
	1940年	—				
12 ニューカレドニア	昭 11 (1936)	2.8	全島より産出する。			
	12 (1937)	3.4				
	13 (1938)	3.4				
	以上年平均	3.2				
	1940年	3.2				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	1,752.5	計	1,573.1	計	1,439.2
	13 (1938)	1,958.2	B 印度及セイロン	1,760.4	C 印度以下(8—12)	1,627.5
	14 (1939)	1,948.2	(8及9)を除く	1,793.2	を除く	1,660.3
	年 平 均	1,889.0	(8及9)を除く	1,711.6	を除く	1,576.9
	1940年	1,889.0				

註 記 (a) 輸出量

分類	工業及化学原料 VII (7)	獨 : Kokosöl		英 : Coconut oil		單位 千 噸
		佛 : Huile de coco		蘭 : Klapperolie (kokosnootolie)		
國 名	年 次	生産高	主要生産地 — 其の他備考			
1 比 律 賓 (a)	昭 12 (1937)	169.2	輸出量を示す、生産量は約 22 萬噸島内消費 5 萬 5 千噸と推定せられる、製油工場中大規模のものはマニラにも、セブにも、其の他に 3 あり、尚島内消費の製油工場は約 10 工場程ある。			
	13 (1938)	165.6				
	14 (1939)	167.6				
	以上年平均	165.5				
	1940年	165.5				
2 印 度 支 那 (a)	昭 12 (1937)	0.02	輸出量を示す。			
	13 (1938)	0.07				
	14 (1939)	0.19				
	以上年平均	0.09				
	1940年	0.09				
3 泰	昭 12 (1937)	—	—			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
	1940年	—				
4 馬 來 (a)	昭 12 (1937)	41.1	輸出量を示す、昭南島の和豊油廠は最大製油工場で其の他ベナン等の工場を併せマレーに現在大小約 30 の製油工場がある。			
	13 (1938)	50.2				
	14 (1939)	62.8				
	以上年平均	51.4				
	1940年	51.4				
5 北 部 ボルネオ (a)	昭 12 (1937)	0.1	輸出量を示す。			
	13 (1938)	0.1				
	14 (1939)	0.2				
	以上年平均	0.1				
	1940年	0.1				
6 東 印 度 (a)	昭 12 (1937)	27.9	輸出量を示す、主としてジャバの生産にして支那系の製油工場が大部分である。 1940年 = 13.8 (千噸) 但し輸出量			
	13 (1938)	20.0				
	14 (1939)	9.2				
	以上年平均	19.0				
	1940年	19.0				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	—	—			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
	1940年	—				
8 印 度	昭 12 (1937)	—	輸入國であるが毎年少量即約 200 噸程度の輸出を爲す。			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
	1940年	—				
9 セイロン (a)	昭 12 (1937)	67.9	輸出量を示す、産地はコロンボを中心とする地方である。			
	13 (1938)	76.6				
	14 (1939)	63.8				
	以上年平均	69.4				
	1940年	69.4				
10 濠 洲	昭 10 (1935)	6.4	石鹼及燻燻製造工場での原料としての消費量を示す、濠洲はコブラを年約 2 萬噸内外輸入し、ニューサウスウェールズ及ビクトリア地方の石鹼及燻燻工場で製油し、原料として消費する模様である。			
	11 (1936)	6.3				
	12 (1937)	6.9				
	以上年平均	6.5				
	1940年	6.5				
11 ニュージーランド	昭 12 (1937)	—	—			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
	1940年	—				
12 ニューカレドニア	昭 12 (1937)	—	—			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
	1940年	—				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	307.1	計	239.2	計	232.3
	13 (1938)	319.5	B 印度及セイロン	242.9	C 印度以下(8—12)	236.0
	14 (1939)	310.7	(8及9)を除く	246.9	を除く	240.0
	年 平 均	312.0	(8及9)を除く	242.6	を除く	236.1
	1940年	312.0				

註 記 コブラよりは約 55 % の椰子油が得られる。椰子油の比重は 0.925 — 0.930 である。
(a) 輸出量

分類	工業及化學原料 VII …… (8)		獨 : Palmöl	英 : Palm Oil	單位 千 噸	
			佛 : Huile de palme	蘭 : Palmolie		
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
3 泰	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
4 馬 來	昭 12 (1937)	43.5	ジョホール州、ペラ州、セランゴール州其他の各州に産する、大規模の經營が適するを以て華僑並に英人に依り經營せられる。 1940年=62.0(千噸) ^(a)			
	13 (1938)	55.2				
	14 (1939)	60.7				
	以上年平均	53.1				
5 北 部 ボルネオ	昭 12 (1937)	—	産出を見ず、試作程度の由である。			
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
6 東 印 度	昭 12 (1937)	196.9	スマトラ東海岸州、アチエ州及屬領州、ジャバが主産地で、英米關係の企業25社を數へ、邦人企業としては東山農事、野村東印度殖産、大倉スマトラ農場等である。 1940年=240.0(千噸)			
	13 (1938)	220.7				
	14 (1939)	229.8				
	以上年平均	215.8				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
8 印 度	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
9 セイロン	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
10 濠 洲	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
11 ニュージーランド	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
12 ニュージーランド	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	240.4	計	240.4	計	240.4
	13 (1938)	275.9	B 印度及セイロン	275.9	C 印度以下(8—12)	275.9
	14 (1939)	290.5	(8及9)を除く	290.5	を除く	290.5
	年 平 均	268.9	(8及9)を除く	268.9	を除く	268.9

註 記 アフリカが原産地で Nigeria が生産最も多くアジアではマレー及スマトラが主産地である、尚油椰子より約15%のパーム油が得られる (a) 概數

分類	工業及化學原料 VII …… (9)		獨 : Palmkernöl	英 : Palm Kernel Oil	單位 千 噸	
			佛 : Huile de noix de Palme	蘭 : Palmkernolie		
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比 律 賓	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
3 泰	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
4 馬 來	昭 12 (1937)	3.3	馬來聯邦及馬來非聯邦州に英支系のエステートに依り經營せられてゐる。			
	13 (1938)	4.8				
	14 (1939)	4.9				
	以上年平均	4.2				
5 北 部 ボルネオ	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
6 東 印 度	昭 12 (1937)	21.9	スマトラ東海岸州アチエ州及屬領州、ジャバが主産地にして英米關係經營のエステート多く邦人企業も東山農事、野村東印度殖産、大倉スマトラ農場等がある。			
	13 (1938)	25.6				
	14 (1939)	24.6				
	以上年平均	24.0				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
8 印 度	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
9 セイロン	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
10 濠 洲	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
11 ニュージーランド	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
12 ニュージーランド	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	25.2	計	25.2	計	25.2
	13 (1938)	29.9	B 印度及セイロン	29.9	C 印度以下(8—12)	29.9
	14 (1939)	29.5	(8及9)を除く	29.5	を除く	29.5
	年 平 均	28.2	(8及9)を除く	28.2	を除く	28.2

註 記 パームオイルの項参照。尚パーム核(仁)より約15%のパーム核油が得られる。

分類	工業及化學原料 VII (a)		獨 : Rindtalg 佛 : Suif de boeuf	英 : Tallow 蘭 : Rund(er)vet	單位 千 磅
	國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —	— — —		
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	主としてカンボチャ大平原の山麓地方より産出する。	
3 泰 (a)	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.002 0.002 0.013 0.006		輸出量を示す	
4 馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —			
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —			
6 東 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —			
7 ビ ル マ (a)	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	0.003 — 0.001 0.002		輸出量を示す	
8 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —		牛脂及硬脂(ステアリン)として最近 3百萬ルピー以上の輸入に對し輸出は其の割の 30~40 萬ルピーである。尙畜製品工場は現在ボンベイ地方に 3、ビハール地方に 1 工場ある、1938 年に約 500 噸の輸出があった。	
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —			
10 濠 洲 (a)	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	22.6 31.7 26.6 27.0		輸出量を示す、濠洲の酪農業の中心はビクトリア、ニューサウスウエルズ及タキンスランドの三州である。	
11 ニュー ジ ー ラ ンド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	(a) 22.6 (a) 24.6 31.0 26.1		1936) 年は輸出量を示す、酪農業及酪農品製造工場はオークランド、タラナキ、ウエリントンの諸地方に特に多い。	
12 ニュー カレドニア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —			
計 A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	54.3 51.2 57.6 53.1		計 54.3 B 印度及セイロン (8 及 9)を除く 57.6 C 印度以下(8-12)を除く 53.1	0 0 0 0
註 記	(a) 輸出量				

分類	工業及化學原料 VII (a)		獨 : Tanninstoff 佛 : Matière de Tanin	英 : Tannin Material 蘭 : Looistoffen	單位 千 磅
	國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	9.4 9.8 1.6 2.3		比島森林局年報に依るタンバークの生産量である、産地はバラワン島其の他各地であつて、マングローブが多いが、栽培せらるゝものはタンガル及バカワンのみである、尙群島各地に自生のマングローブより年産約 14 (千噸)のタンニン材料を得る可能性ありと云はれる。	
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均 (a) 8.0		産地は安南、交趾支那であつて、タンニン材料の生産量は年マングローブ約 5 (千噸)、クナウ約 3 (千噸)と云はれる。尙當地産のものはタンニン含有は 15% 程度である。	
3 泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	(b) 5.2 (b) 7.8 (b) 6.2 (b) 6.4		輸出量を示す。産地はタイ灣殊に半島西岸ブーケット州であつて、年産マングローブバーク 1 萬噸、シシエトエキストラクト 3.5 (千噸)、と推定せらる。尙當地産のものはタンニン含有 25% 程度である。	
4 馬 來	昭 13 (1938) 14 (1939) 15 (1940) 以上年平均 (a) 17.0		産地はジョホール州其の他であつて、マングローブ及ガンビヤを産する、尙マングローブ年産 17 (千噸)と云はれる。	
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	(b) 9.5 (b) 10.1 (b) 7.5 (b) 9.0		輸出量であるが、生産量と大差はない、産地はタワオ、サンダカン及サラワクのスラン(英系のカツチ製造工場がある)であつて、タワオ附近ではマングローブ年 1.5 (千噸)、サンダカン附近ではカツチ 4 (千噸)、サラワクではカツチ 1 (千噸)の生産がある。	
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	(b) 18.4 (b) 16.5 (b) 16.1 (b) 17.0		輸出量を示す、産地はボルネオの東海岸地方ではガンビヤ年 14 (千噸)、スマトラの東海岸州ではマングローブ 5.8 (千噸)、ジャバではワットルバークをバンドン及マラン地方に 3 (千噸)、其の他セレベス附近でも産出する。	
7 ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	(b) 3.7 (b) 3.4 (b) 3.5 (b) 3.5		輸出量を示す。	
8 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	(b) 77.0 (b) 76.0 (b) 67.0 (b) 73.3		輸出量を示す。種類はミラボランが主である。	
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —			
10 濠 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均 25.0		1936 年—1937 年を除き最近毎年 2(千噸)内外の輸出超過であつて、産地は南及西オーストラリア及タスマニアの諸州である。種類はワットルバークであつて、消費は 1937 年—38 年に 22 (千噸)のタンニン材料と 9 (千噸)のエキスを使用した。	
11 ニュー ジ ー ラ ンド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —			
12 ニュー カレドニア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — —			
計 A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	166.2 168.5 162.3 161.5		計 89.2 B 印度及セイロン (8 及 9)を除く 85.3 C 印度以下(8-12)を除く 88.2	64.2 67.5 60.3 63.2
註 記	各地のタンニン材料のタンニン含有率は印度支那産のマングローブ樹皮は15%、タイ産マングローブ樹皮は25%、マレー産のマングローブ樹皮は25%、東印度のマングローブ樹皮は30%、ガンビヤエキスは50%ワットル樹皮は30%~35%、北ボルネオのマングローブ樹皮は30%程度である。(a)は推定(b)は輸出量				

キ ナ 皮

分類		工業及化學原料 VII..... (四)		獨 : Chinarinde 英 : Cinchona bark 佛 : Ecorce de quinquina 蘭 : Kinabast		單位 噸	
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考				
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— 21.0 — 21.0	ホンバー高地に在るキナ栽培の試験農園に於て試作される。				
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	10,425.0 10,955.0 12,391.0 11,257.0	爪哇島にてはブリアンガン地方最も多く全島の61%を占める。外領ではスマトラ西海岸地方が外領全生産高の75%を産す。又バレンバン、ベンクレン、タバマリの各地方より産出せらる。バンドン、キナ工場はキナ皮年産約1萬噸の處理能力があると云はる。尙疎規生産額は次の通りである。 1937年=181.8(噸) 1938年=157.9(噸) 1939年=279.7(噸) 1940年=16,371(噸)(キナ皮)				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
8 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	602.0 657.0 — 629.5	ベンガル州より産出する。				
9 セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
10 濠 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
11 ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
12 ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —					
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	11,103.0 11,683.0 13,069.0 11,907.5	計 10,446.0 B 印度及セイロン 10,976.0 (8及9)を除く 12,412.0 11,278.0	計 10,446.0 C 印度以下(8-12) 10,976.0 を除く 12,412.0 11,278.0			
註 記	キニーネ含有量は5-8%である、南方地域に於けるキニーネ生産工場はバンドン一箇所である。						

分類		工業及化學原料 VII..... (四)		獨 : Derris 英 : Derris 佛 : Derris 蘭 : Derris		單位 噸	
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考				
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— (a) 15.4 (a) 145.0 (a) 80.2	野生的に河や沼に自生し又園藝其の他の作物の間作として栽培される。				
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —					
3 泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —					
4 馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	5,668.0 6,390.0 4,778.0 5,610.3	ジョホール、パハン、ペラ及昭南島を主産地とし其他各地に支那人に依り栽培せられる、1940年の輸出量は1,400噸である。				
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	70.0 29.0 68.0 54.0	サラワクのクチン附近に栽培せられる。				
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	(a) 181.0 (a) 336.0 (a) 568.0 (a) 343.3	輸出量を示す。産地は主としてジャバ及スマトラである。 1940年=744.0(噸)—輸出量				
7 ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —					
8 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —					
9 セ イ ロ ン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —					
10 濠 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —					
11 ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —					
12 ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —					
計 A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	5,838.4 6,599.4 5,192.4 6,087.8	計 5,838.4 B 印度及セイロン 6,599.4 (8及9)を除く 5,192.4 6,087.8	計 5,838.4 C 印度以下(8-12) 6,599.4 を除く 5,192.4 6,087.8			
註 記	テリス根中の殺虫劑の素たるロテノール含有率は平均5-6%にして品質悪きものは4%良きものは8%程度である。ベンゾールにテリス根を浸してロテノールの白色結晶を採るのである。尙本邦家産に栽培せられる。(a)輸出量						

米(白米)

分類	食糧嗜好品	英名	単位
VIII.....(1)		Reis (gereinigter Reis) Rice (white) Riz (blanc) Rijst (witte rijst)	千 噸
國名	年次	生産高	主要生産地—その他備考
1 比 律 賓	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	1,134.4 1,478.2 1,406.5 1,339.7	マニラ一帯ルソン大平原で約90%を産す。即ちマニラ、バギオ間地方、バギオ、ブルゴス間西海岸沿帯、カビテ南部地方、ラグナ湖南部地方、其他パナイ島(イロイロ附近北部)等である。
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	3,947.6 3,942.8 4,458.4 4,116.3	交趾支那乃ちメコン河下流一帯で約85%、紅河三角洲地帯とその南部乃ち東京州81%、カンボチャ11%、ラオス9%の産額で、取引中心地は、シロン市である
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	2,846.1 2,827.3 3,176.7 2,950.0	中部メナム河大平原60%、東部23%、南部半島部(ナコンシリタマラート南部)17%である。
4 馬 来	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	313.4 293.8 335.3 314.2	ケダ州44%、ネグリリス州5%、ペラ州13%、ネグリスマビラン州4%、ケラントン州18%、ネグレン州3%、ウエルスレー州5%、マラツカ州5%、バトレンガヌ州2%、その他6%(大略の生産割合)
5 北 部 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	103.1 116.9 (a) 95.0 105.0	北ボルネオ西海岸約61%、ブルネイ、サラワク沿岸地方39%生産は需要の半分程度である。
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	4,943.8 4,457.8 4,482.4 4,394.5	ジャバ及マツラで約90%、其他の産地はバリ島、ロンボク島、スマトラの東海岸州、アチエー、パレンバン、ニューギニア沿岸各地方の開墾地、東南部ボルネオ、ウルスンガイ地方、セレベス島南部等である。
7 ビルマ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	4,358.3 5,105.6 4,441.2 4,635.0	デルタ地方下ビルマ70%、マンドレー北部乾燥地帯10%、モールメン附近(テナツセリム地方)9%、アラカン地方8%、北部山岳地方3%である。
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	25,460.3 22,728.9 24,082.5 24,090.6	東方諸州—ベンガル、ビハール、オリッサ、アッサム。其他の州—マドラス、聯合州、中央州等がその産地である。
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	187.5 187.5	
10 澳 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	27.1 27.0 33.1 29.1	ニューサウスウェールズ州が主産地である。
11 ニューゼーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	
12 ニューカレドニア	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	0.1 0.1 0.1	
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	42,889.6 41,635.5 42,688.7 42,162.0	計 17,234.8 B 印度及セイロン (8及9)を除く 18,719.1 計 18,395.5 C 印度以下(8-12)を除く 17,839.9 計 17,207.7 18,685.9 18,395.5 17,854.7

註 記 生産割合は左の通りに換算した、印度 62.5% 比律賓 61.7% 東印度 50.0% 其他 62.5%
(a) サラワクのみ

小 麥

分類	食糧嗜好品	英名	単位
VIII.....(2)		Weizen Froment, blé Wheat Tarué, weít	千 噸
國名	年次	生産高	主要生産地—その他備考
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	
4 馬 来	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	
5 北 部 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	
7 ビルマ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	10.2 10.2 7.1 9.2	アダア地方及北部ビルマ地方がその産地である。
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	9,908.5 10,936.7 10,093.4 10,312.9	インドス河上流地方の、パンジャブ地方で産出比率は全收穫量の75%で最も多く次でガンジス河上流中流域の聯合州、コダグアリ河以北の中央州、ベラル、中央土侯國、ボンベイ、ビハール、オリッサの順序の産出である。
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	
10 澳 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	5,096.4 4,228.5 5,769.6 5,031.5	東部小麦地帯—ブリスベーンの北より南東へ幅50-200哩にわたる内陸地帯(ニューサウスウェールズ州32%、ヴィクトリア州24%、サウスオーストラリア州20%)、西部小麦地帯—メルヂン河よりアルパニイの50哩以内に横がる幅30-130哩にわたる地帯、(西オーストラリア州21%)
11 ニューゼーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	164.2 151.2 217.7 177.7	南島の東岸地方に産す—カンターベリー州81%、オタゴ州11%
12 ニューカレドニア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	15,179.3 15,323.5 16,087.8 15,531.3	計 5,270.8 B 印度及セイロン (8及9)を除く 5,994.4 計 5,218.4 C 印度以下(8-12)を除く 7.1 7.1 9.2

註 記

米(白米)

分類		食 料 及嗜好品 VIII.....(1)		獨 : Reis (gereinigter Reis) 英 : Rice (white) 佛 : Riz (blanc) 蘭 : Rijst (witte rijst)		單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比 律 賓	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	1,134.4 1,478.9 1,406.5 1,339.7	マニラ一帯ルソン大平原で約90%を産す。即ちマニラ、バギオ間地方、バギオ、ブルゴス間西海岸沿帯、カビテ南部地方、ラグナ湖南部地方、其他パナイ島(イロイロ附近北部)等である。			
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	3,947.6 3,942.8 4,458.4 4,116.3	交趾支那乃ちメコン河下流一帯で約85%、紅河三角洲地帯とその南部乃ち東京州81%、カンボチャ11%、ラオス9%の産額で、取引中心地は、シヨロン市である			
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	2,846.1 2,827.3 3,176.7 2,950.0	中部メナム河大平原60%、東部23%、南部半島部(ナコンシリタマラート南部)17%である。			
4 馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	813.4 293.8 385.3 314.2	ケダ州44% ベルリス州5% ペラ州13% ネグリスマビラン州4% ケランタン州18% パハン州3% ウエルスレー州5% トレンガヌ州2% マラツカ州5% 其の他6% (大略の生産割合)			
5 北 部 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	103.1 116.9 (a) 95.0 105.0	北ボルネオ西海岸約61%、ブルネイ、サラワク沿岸地方39%生産は需要の半分程度である。			
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	4,243.3 4,457.8 4,482.4 4,394.5	ジャバ及マツラで約90%、其他の産地はバリ島、ロンボク島、スマトラの東海岸州、アチエー、パレンバン、ニューギニア沿岸各地方の開墾地、東南部ボルネオ、ウルスンガイ地方、セレベス島南部等である。 1940年 = 4,795.4 (千噸)			
7 ビルマ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	4,358.3 5,105.6 4,441.2 4,635.0	デルタ地方下ビルマ70%、マンダレー北部乾燥地帯10%、モールメン附近(テナツセリム地方)9%、アラカン地方8%、北部山岳地方3%である。			
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	25,460.3 22,728.9 24,082.5 24,090.6	東方諸州—ベンガル、ビハール、オリッサ、アツサム。 其他の州—マドラス、聯合州、中央州等がその産地である。			
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均 187.5 187.5				
10 澳 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	27.1 27.0 33.1 29.1	ニューサウスウェールズ州が主産地である。			
11 ニュージーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
12 ニュージーランド	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	... 0.1 0.1 0.1				
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	42,892.6 41,635.5 42,698.7 42,162.0	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	17,234.8 18,719.1 18,428.7 17,883.9	計 C 印度以下(8—12) を除く	17,207.7 18,685.9 18,395.5 17,854.7
註 記	類摺歩合は左の通に換算した、印度62.5%比律賓61.7%東印度60.0%其他62.5% (a) サラワクのみ					

小 麥

分類		食 料 及嗜好品 VIII.....(2)		獨 : Weizen 英 : Wheat 佛 : Froment, blé 蘭 : Tarwé, wéit		單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
2 印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
5 北 部 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
7 ビルマ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	10.2 10.2 7.1 9.2	アヴァ地方及北部ビルマ地方がその産地である。			
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	9,908.5 10,936.7 10,093.4 10,312.9	インドス河上流地方の、パンジャブ地方で産出比率は全收穫量の75%で最も多く次でガンヂス河上流中流地域の聯合州、コダヴアリ河以北の中央州、ベラルール、中央土侯國、ボンベイ、ビハール、オリッサの順序の産出である。			
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
10 澳 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	5,096.4 4,228.6 5,769.6 5,031.5	東部小麥地帯—ブリスベーンの北より南東へ幅50—200哩にわたる内陸地帯(ニューサウスウェールズ州、32%、ヴィクトリア州24%サウスオーストラリア州20%)、西部小麥地帯—メルデン河よりアルパニイの50哩以内に横がる幅80—130哩にわたる地帯、(西オーストラリア州21%)			
11 ニュージーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	164.2 151.2 217.7 177.7	南島の東岸地方に産す—カンターベリー州81%、オタゴ州11%			
12 ニュージーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	15,179.3 15,323.5 16,087.8 15,531.3	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	5,270.8 4,386.8 5,994.4 5,218.4	計 C 印度以下(8—12) を除く	10.2 7.1 7.1 9.2
註 記						

分類	食 料 及嗜好品 VIII.....(3)	獨 : Weizenmehl 佛 : Farine de froment		英 : Wheat Flour 蘭 : Tarwemeel		單位 千 噸
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	(a) 0.03 (a) 0.02 (a) 0.16 (a) 0.07			
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —			
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	(a) 6.6 (a) 5.8 (a) 6.5 (a) 6.3			
5	北 部 ポ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均			
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均			
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	(a) 0.1 (a) 0.1 (a) 0.1 (a) 0.1	製粉工場は 4 工場ある。		
8	印 度	昭 11 (1936) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	531.4 618.2 606.0 583.5	製粉工場は、ボンベイ 25 工場で最も盛んで、次でパンジャブ州の 16 工場及ベンガル及合併州の各 11 工場其の他 16 工場で合計 79 工場である。		
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均			
10	澳 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	1,114.7 1,134.8 1,245.3 1,164.9	小麦粉産額は、ニューサウスウェルズ州が最も多く全産額の 38% を産し、製粉工場は 54、次でビクトリア州 34% 工場は 38、西オーストラリア 10% 工場は 21、及サウスオーストラリア 10% 工場は 39 (小工場を含む) 其の他 20 工場がある。		
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	131.3 124.4 125.4 127.0	ニュージーランドには小麦製粉工場が 47 がある。		
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均			
計	A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	1,804.2 1,988.8 1,983.5 1,881.9	計 B 印度及セイロン (8 及 9) を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く	6.7 5.9 6.8 6.5
註 記	(a)輸出額					

分類	食 料 及嗜好品 VIII.....(4)	獨 : Kartoffel 佛 : Pomme de terre		英 : Potato 蘭 : Aardappel		單位 千 噸
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1	比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.2 0.8 0.3 0.3			
2	印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.2 0.5 ... 0.4			
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —			
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —			
5	北 部 ポ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —			
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	46.7 38.6 45.6 43.7	西部ジャバ(63%)、中部ジャバ(25%)、東部ジャバ(13%)等に栽培せられる。(比率は全産出量に対する、その土地の割合を示す)。		
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —			
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —			
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —			
10	澳 洲	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	328.4 468.4 850.5 382.4	ヴィクトリア州(44%)、タスマニア州(26%)、ニューサウスウェルズ州(19%)等に産する。(比率は、その全産出量に対する、その土地の産出割合を示す)。		
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	149.1 89.1 148.4 127.2	カンタブリー州(54%)、ウェリントン州(19%)等に産する。(比率は、全産出量に対する、その土地の産出割合を示す)。		
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	... 0.6 0.8 0.7			
計	A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	665.2 547.9 480.0 554.7	計 B 印度及セイロン (8 及 9) を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く	47.1 47.5 39.6 44.4
註 記						

分類		食料 嗜好品	英 : Maize 蘭 : Mais	獨 : Mais 佛 : Mais	單位 千 噸	
VIII.....(5)						
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比 律 賓	昭 11 (1936)	369.5	ビサヤ諸島を主とし、就中セブ島は其の生産最も多く、其の他マニラ附近の各州及ミンダナオ島のミサミス、コタバト、ラナオ等である。			
	12 (1937)	449.2				
	13 (1938)	518.8				
	以上年平均	444.2				
2 印 度 支 那	昭 11 (1936)	459.6	東京及北部安南、交趾支那、カンボチア等にて一般に人口稠密なる地方に産する。			
	12 (1937)	623.0				
	13 (1938)	650.0				
	以上年平均	577.5				
3 泰	昭 11 (1936)	4.5	コーラート高原、南部及中部地方に産す。			
	12 (1937)	5.0				
	13 (1938)	5.6				
	以上年平均	5.0				
4 馬 來	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
5 北 部 ポ ル ネ オ	昭 11 (1936)	1.2	原住民によつて栽培され、国内の需要に應ずるに過ぎない。			
	12 (1937)	0.8				
	13 (1938)	2.9				
	以上年平均	1.4				
6 東 印 度	昭 12 (1937)	2,129.6	ジャバ(東部爪哇、中部爪哇)及セレベス(南部セレベス、北部セレベス)に産する。 1940年=1,981.7(千噸)			
	13 (1938)	2,016.1				
	14(1939)	2,080.9				
	以上年平均	2,075.3				
7 ビ ル マ	昭 11 (1936)	81.6				
	12 (1937)	25.9				
	13 (1938)	22.0				
	以上年平均	26.5				
8 印 度	昭 10 (1935)	2,152.0	バンジャブ州 89%で最も多く、次で聯合州 31%北部國境附近の州が19%の割合である。			
	11 (1936)	1,865.5				
	12 (1937)	2,041.2				
	以上年平均	2,019.6				
9 セ イ ロ ン	昭 12 (1937)	—				
	13 (1938)	—				
	14 (1939)	—				
	以上年平均	—				
10 濠 洲	昭 11 (1936)	183.8	ニューサウスウェルズ及クイーンズランド海岸沿ひに北はロックハンドに至るまでの地域と、アーサント高原及甘藷地帯の全體に亙つて栽培される。全産出量に對する比率は、クイーンズランド州 50%で最も多く、ニューサウスウェルズ州 41%でこれに次ぎ、其の他9%である。			
	12 (1937)	172.9				
	13 (1938)	170.2				
	以上年平均	178.6				
11 ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 11 (1936)	7.7	全産出量に對する産出割合はオークランド 40%で最多で、ウエリントン州 22%、ノースオークランド 18%で、これに次で居る。			
	12 (1937)	7.5				
	13 (1938)	6.8				
	以上年平均	7.3				
12 ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 10 (1935)	1.0				
	11 (1936)	1.4				
	12 (1937)	1.5				
	以上年平均	1.3				
計 A 全 域	昭 11 (1936)	5,054.3	計	8,188.8	計	2,995.9
	12 (1937)	5,456.6	B 印度及セイロン	8,415.4	C 印度以下(8—12)	8,238.5
	13 (1938)	5,438.5	(8及9)を除く	8,897.8	を除く	8,209.8
	年 平 均	5,336.7		3,317.1		3,129.9
注 記						

分類		食料 嗜好品	英 : Tapioca 佛 : Tapioca	獨 : Tapioca 蘭 : Tapioca	單位 千 噸	
VIII.....(6)						
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比 律 賓	昭 8 (1933)	17.0	原植物カッサバは群島到る所の農園で栽培される。			
	10 (1935)	81.9				
	11 (1936)	82.0				
	以上年平均	27.0				
2 印 度 支 那	昭 12 (1937)	80.0	殆ど凡て地場で消費される。			
	13 (1938)	80.0				
	14 (1939)	80.0				
	以上年平均	30.0				
3 泰	昭 12 (1937)	...	南部タイ(半島タイ)地方に於て華僑が少量の栽培を行ふに過ぎない。			
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	...				
4 馬 來	昭 11 (1936)	44.0	ジョホール州(主に支那人に依り栽培せらる。)ケダ州がその主産地である。			
	12 (1937)	51.0				
	14 (1939)	45.7				
	以上年平均	47.1				
5 北 部 ポ ル ネ オ	昭 12 (1937)	...	原住民及支那人に依つて栽培され、国内の需要をみたすに過ぎない。			
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	...				
6 東 印 度	昭 12 (1937)	8,209.2	タピオカ工場は1938年には184あり、カッサバ産地は爪哇—スラカルタ、デジャダカルタ、ボヂヨネゴロ、マデウン、ボノロゴ、ブリタルの諸州及マズラ島に産する。 1940年=8,560.8(千噸)			
	13 (1938)	8,425.7				
	14 (1939)	8,503.9				
	以上年平均	3,379.6				
7 ビ ル マ	昭 12 (1937)	...				
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	...				
8 印 度	昭 12 (1937)	...				
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	...				
9 セ イ ロ ン	昭 12 (1937)	...				
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	...				
10 濠 洲	昭 12 (1937)	...				
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	...				
11 ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937)	...				
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	...				
12 ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937)	...	若干の産額はあるが数量不詳。			
	13 (1938)	...				
	14 (1939)	...				
	以上年平均	...				
計 A 全 域	昭 12 (1937)	8,822.2	計	8,822.2	計	8,822.2
	13 (1938)	8,538.7	B 印度及セイロン	8,538.7	C 印度以下(8—12)	8,538.7
	14 (1939)	8,611.6	(8及9)を除く	8,611.6	を除く	8,611.6
	年 平 均	3,483.7		3,483.7		3,483.7
注 記		(a) 舌味カッサバ中の澱粉含有量を41.5%として算出した。				

大豆

分類	食料嗜好品 VIII.....(7)	獨 : Sojabohne 佛 : Soja		英 : Soya-bean 蘭 : Saja boon		單位 千 噸	
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	... 15.0 ... 15.0				
3	泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	(b) 1.8 (b) 1.8 (b) 1.8 1.8	ラチャブリー、ナコーンシリタマラート、ナコーンサワン諸州が最も多量に産出する。近年チェンマイを中心とする北部タイ一帯に栽培せられ、増大の傾向がある。			
4	馬 来	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	(c) 0.4 (c) 0.4				
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	(a) 274.6 (a) 296.6 (a) 332.5 (a) 301.2	ジャバ東部及北部を主産地とし、バリ島及ロンボク島にも産する。 1940年 = 306.2 (千噸) (a)			
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
10	淡 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
計	A 全 域	昭 12 (1937)	291.8	計	291.8	計	291.8
		13 (1938)	313.8	B 印度及セイロン	313.8	C 印度以下(8-12)	313.8
		14 (1939)	349.7	(8及9)を除く	349.7	を除く	349.7
		年 平 均	318.4	(8及9)を除く	318.4	を除く	318.4

註 記 (a) ジャバ及マダラ並にバリー及ロンボクのみ。(b) 豆類の産額にしてこの中何程が大豆なるや不明である。(c) 輸出額。

落花生

分類	食料嗜好品 VIII.....(8)	獨 : Erdnuss 佛 : Arachide		英 : Ground-nut 蘭 : Aardnoot		單位 千 噸	
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1	比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	3.5 3.7 3.7 3.6	ラノ、レイトー、パンニヤシナン、カガヤン、ラユニオン、ヌバエシア等に産する。			
2	印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	10.5 11.0 13.6 11.7	安南地方に主に産する。			
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	コーラート高原に若干産出する。			
4	馬 来	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	内國用として小規模に栽培されて居る丈であり、餘り重要視されて居ない。			
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	原住民及支那人によつて極少量栽培されるに過ぎない。			
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	195.4 214.9 188.9 199.7	爪哇東部及中部、外領バリー島ロンボク島が産地である。 1940年 = 209.3 (千噸)			
7	ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	99.5 141.3 124.4 121.7	マダエ管區、マンドレー管區、サガイン管區で産出する。			
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	2,418.9 2,208.2 2,074.1 2,233.7	産地はマドラス、ボンベイ、中央州、聯合州である。			
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	小規模の栽培が行なはれて居る丈である。			
10	淡 洲	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	3.1 5.4 3.6 4.0	地方的にはノーザンテリトリー及ニューサウスウェールズの北部で栽培される。			
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —	畑作物として栽培されて居ない。			
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
計	A 全 域	昭 12 (1937)	2,773.9	計	355.0	計	351.4
		13 (1938)	2,568.4	B 印度及セイロン	360.2	C 印度以下(8-12)	356.6
		14 (1939)	2,408.3	(8及9)を除く	334.2	を除く	330.6
		年 平 均	2,574.4	(8及9)を除く	340.7	を除く	336.7

註 記 穀付落花生は其の6割8分が割實となるものとして換算した。

分類	食 料 及嗜好品 VIII.....(9)	獨 : Sesam 佛 : Sésame	英 : Sesame 蘭 : Sesamzaad	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	2.1 3.0 3.5 2.9		
3 泰 々	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.7 0.7 1.6 1.0		
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
5 北 部 ポルネオ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	(a)3.4 (a)3.9 (a)3.8 (a)3.7	1940年=2.9(千噸)(a)	
7 ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	40.8 43.8 48.8 44.2	上ビルマ地方—マダウエ川のマダウエ地方及マンダレー州のミンヂヤン及サガイン州サガイン、下チンドウイン地方に産出する、此の中でサガイン及下チンドウイン地方が最も多い。	
8 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	472.5 402.4 421.7 432.2	聯合州 26%、マドラス州 25%、ボンペー州 14%等の割合で産する。	
9 セイロン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
10 澳 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
11 ニュージーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
12 ニュージーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	522.9 460.2 470.4 484.0	計 B 印 度 及 セイロン (6及9)を除く	計 C 印 度 以 下 (8—12) を除く
			50.4 57.8 57.7 51.8	50.4 57.8 57.7 51.8
註 記	(a) 輸出額			

分類	食 料 及嗜好品 VIII.....(10)	獨 : Salz 佛 : Sel	英 : Salt 蘭 : Zout	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	53.5 48.9 ... 51.2		
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	192.2 180.0 180.0 184.1	天日鹽—安南(歸仁、ホンコアカナが鹽田に最適)此處だけで約全産量の50%の産量がある、次で東京 15%、交趾支那約 38%で、以上で生産能力約 25 萬噸と推定される、岩塩—僅少で約 200 噸ぐらい。	
3 泰 々	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	139.9 156.8 154.9 148.0	天日鹽—イタ湖の内岸一帯、就中メナムターチンとメクロン河口を結ぶ海岸 岩塩—コーラート高原。 塩水泉—ポークルア及ポーアプレート。生産能力は 80 萬噸と推定される。	
4 馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —		
5 北 部 ポルネオ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	75.8 90.9 150.3 108.7	マズラ島が主産地。ボジョネグロ州海岸、サマラン、アチエー(スマトラ)、マカツサルは氣候条件適す。 1940年=430.8(千噸)	
7 ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	82.8 54.7 39.8 42.3	産塩の大部分は海塩である。内陸の産出地は次の通りである、サガイン地区の小塩水湖、シユエボ區(土塩水より三ヶ所)、北シヤン州のボーギョウ(井戸より年産額約 163 噸)、ミンヂヤン地区のサガイン。	
8 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	1,544.9 1,707.1 1,564.8 1,605.4	北印度 38%、マドラス州 29%、ボンペー州 26%、シンド州 6%等である。(パーセントは、全産量に對する、その州の産出割合を示す)。	
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	40.8 88.8 86.5 38.5		
10 澳 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	115.0 125.0 128.0 122.7	南オーストラリアに於てはヨータ半島のエデイスバーク附近、フォーラー湖(天然岩塩)、バンバンガ湖、スメンサー湖、セントヴィンセント湖、レータハート湖に大岩塩の鑛床がある。ヴィクトリア州に於ては西部及西北部の鹹湖及ジエロング附近に塩田がある。西オーストラリアに於ては海岸の砂岩の高地に海水塩の乾燥層が現はれて居る。	
11 ニュージーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
12 ニュージーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	年産約 5 萬噸と云はれるが正確な所は不明である。	
計 A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	2,187.4 2,386.6 2,242.8 2,300.9	計 B 印 度 及 セイロン (6及9)を除く	計 C 印 度 以 下 (8—12) を除く
			602.2 840.7 842.0 657.0	687.2 515.7 614.0 534.3
註 記				

分類	食嗜好品 VIII.....(II)	獨 ? Zucker 佛 : Sucre	英 : Sugar 蘭 : Suiker	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	928.8 895.9 955.5 926.6	甘蔗は主にネグロス島に大部分栽培され、次でルソン中央平原及ルソンラグナー湖南部及パナイ島、セブ島に栽培される。製糖工場の多くは、ネグロス島にある、次でルソン島パナイ島、セブ島等である。1940年=1,104.4(千噸)	
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	41.5 42.7 ... 42.1	甘蔗は交趾支那が90%で最も多く、次で安南である。他地方には栽培されてゐない。工場は舊式なものが多く、新式のものは4工場である。	
3 泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	7.0 7.0 9.0 7.7	甘蔗は—中部以南はチャンタブリー、プラチンブリー、ナコンチャイシー、ウドーン、クルソテープ諸州。北部タイ、ランパーン地方、以上の中で製糖用砂糖甘蔗産地はチャンタブリー、ランパーン地方、其他は生食用甘蔗である。製糖工場はランパーンにある。	
4 馬 来	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	若干栽培せらるゝ甘蔗は悉く生食に供せられ、唯原住民が地方消費用に砂糖椰子から少量のデヤガリを生産するに過ぎない。	
5 北 部 ポ ル ネ オ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均		
6 東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1,379.9 1,375.5 1,562.5 1,439.3	甘蔗—ケデリ、ベカロンガン、スラバヤ、マデイウン、ブスキ、ジヨクジヤカルタ、スラカルタ、チエリボンに栽培される。製糖は—スラバヤ、スマラン、テガル、プロボリンゴ、チエリボンの諸港に工場がある。1940年=1,587.3(千噸)	
7 ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均 29.0 29.0	ビルマには製糖工場としてゼヤワデイ工場(英及印系資本)だけである。	
8 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	3,950.0 3,990.0 3,500.0 3,246.7	マドラス州(50%)、聯合州(40%)、ビハール州(10%)に於て製糖業が行はれる。(パーセントは、全産量に対する、その州の産出割合を示す)	
9 セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
10 澳 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	(a)751.9 (a)779.6 (a)787.6 (a)773.0	甘蔗—クインスランド州ケーインズ北東地方で全産額の約90%を産出する。その他ではニューサウスウェルズ州のクラレンス河北部地方である。製糖—クインスランド州のマツケイに製糖工場がある。	
11 ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均		
12 ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	前大戦迄甘蔗は相當にあつたが現在餘り見るべきものがない。製糖工場も以前はあつたが現在は無い。	
計 A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	7,087.6 6,466.5 6,689.7 6,464.4	計 B 印 度 及 セイロン (8及9)を除く	計 C 印 度 以 下(8—12) を除く
計			9,187.6 8,166.5 8,189.7 3,217.7	2,885.7 2,886.9 2,852.1 2,444.7
註 記	(a)甜菜糖を含む、			

分類	食嗜好品 VIII.....(II)	獨 : Fleisch 佛 : Viande	英 : Meat 蘭 : Vleesch	單位 千 噸
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	65.7 66.8 69.1 67.2	牛及豚は體積小なる上、飼養管理法幼稚なる爲、質及量劣り、年々多額の生肉の輸入がある。水牛の肉は不味で、一般には賞味せられないが、原住民は喜んで食して居る。	
2 印 度 支 那	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	61.2 60.8 59.8 60.4	屠殺頭数は東京、交趾支那、安南、東埔寨、ラオスの順に多い。	
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	(d)44.6 (d)44.8 (d)44.6 (d)44.6	タイ人は佛教の影響から肉類をあまり嗜まず、屠殺を嫌つて之に従事するのは主として華僑である。従つて消費するものも主として華僑である。	
4 馬 来 (b)	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	(e)37.2 (c)39.8 46.6 41.2	昭南島(89%)、ペラ(17%)、ベナン(13%)、セラゴン(11%)の割合で産する、但しタイ牛が肉の大部分を供給する。昭南港に屠殺場が二箇所あるが屠殺頭数は不明である。	
5 北 部 ポ ル ネ オ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均		
6 東 印 度 (b)	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	187.3 158.8 172.6 172.2	宗教上豚屠殺は少ないが他は相當需要が多い。羊及山羊は廣く飼育され、羊蕃殖の目的は羊肉の生産である。	
7 ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
8 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	印度人の大部分を占める印度教徒は牛肉を食べない、羊蕃殖の目的は羊肉の生産の爲であり、山羊は肉及乳生産に向けられる。豚は管理が粗放なので一般に栄養不良である。	
9 セ イ ロ ン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均		
10 澳 洲	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	877.5 953.1 1,010.0 946.9	生産地はヴィクトリア(89%)、ニューサウスウェルズ(35%)、クイーンズランド(10%)の順であつて、此の内國內消費は約80%で残り20%が冷凍、冷蔵及罐詰として輸出せられて居る。	
11 ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	476.8 523.5 (a)482.0 493.9	生産地はカンタブリー(22%)、ウエリントン(18%)、オタゴ(13%)の順であつて、此の内國內消費は約80%で大部分(61%)は冷凍、冷蔵及罐詰として輸出せられて居る。	
12 ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均		
計 A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	1,825.6 1,934.1 1,868.9 1,826.4	計 B 印 度 及 セイロン (8及9)を除く	計 C 印 度 以 下(8—12) を除く
計			1,825.6 1,084.1 1,868.9 1,826.4	396.2 400.6 876.9 385.6
註 記	(a)猪肉を除く、(b)屠殺数より算出した、馬一頭枝肉=0.144噸、牛一頭枝肉=0.185噸、(c)非聯邦諸州を除く、(d)バンコック市に於ける牛及豚頭数より算出した、豚一頭枝肉=0.04噸			

牛 乳

分類	食嗜好品 VIII.....(3)	獨 : Milch 佛 : Lait		英 : Milk 蘭 : Melk		單位 千 噸
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	乳牛の飼育は主としてマニラ附近に於て行はれて居り種類はアシヤ、ホルスタイン及ホソゴール印度種とアシヤ種との雜種等で其の数は200—300頭に過ぎぬと云はれる、必要量は輸入してゐる。	
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	原住民は勞役用として牛、水牛等を使用するが牛乳及乳製品の消費はなく酪農業は行はれない、尙牛乳及煉乳の輸入は輸入總額の16~19%を占め、殺菌牛乳は年300萬内外の輸入である。	
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	大部分黄牛であつて、乳牛の飼養は殆ど見るべきものがなく、従つて牛乳の利用もない。	
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	大部分を輸入する、尙搾乳業者に依り乳牛の輸入も相當にある。	
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	—	—	酪農業は行はれず、濠洲=ニューゼーランドより牛乳及乳製品を輸入してゐる。	
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	(a)1.5 (a)1.5	酪農業はジャバのバンドン近郊に關人經營のゼネラル・デ・ウェット農場ホルスタイン數百頭、レンバンに伊太利人經營のレムバン農場ホルスタイン500頭、1日8萬頭の牛乳を採ると云はる、尙相當の牛乳及乳製品を輸入す。左の數量は上記ジャバに於ける二大酪農場の生産高である。	
7	ビ ル マ	昭 12 (1935) 13 (1936) 14 (1937) 以上年平均	(a)149.5 ...	(a)149.5	ビルマの畜産は役畜飼育を中心とする農家の副業であつて、牛乳及同製品は輸入してゐる、即ち乳類は1937年19萬封度1938年35萬封度餘輸入があつた。	
8	印 度	昭 12 (1935) 13 (1936) 14 (1937) 以上年平均	(a)12,372.0 ...	(a)12,372.0	山羊乳を含む數量である、尙牛乳は最近年500萬頭煉乳1萬頭内外の輸入を見つゝあり、國內の産出は住民の自家消費多く販賣用は増加の傾向もあるも少量である、政府は酪農協會をして新業の發展を企てゝ居る。	
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	年2,000萬内外の牛乳及乳製品の輸入してゐる。	
10	濠 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	5,886.7 5,063.1 5,427.6 5,275.8		ヴィクトリア(35%)、ニューサウスウェールズ(28%)、クイーンズランド(24%)、其の他(15%)の生産になつて居る。尙乳牛數は820萬頭内外である。	
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	4,486.8 4,666.7 4,429.4 4,527.5		オー克蘭ド(88%)、ノースオー克蘭ド(21%)、ウエリントン(14%)、タラナキ(13%)、其の他(19%)の産出となつて居り、乳牛數は185萬頭餘である。	
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	住民の自家消費を充す程度で、其他は濠洲及ニューゼーランドより輸入してゐる。	
計	A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	22,846.0 22,252.8 22,380.0 22,326.3		計 9,974.0 B 印度及セイロン 9,880.8 C 印度以下(8—12) 151.0 (8及9)を除く 9,954.3 を除外 151.0	計 151.0 計 151.0 計 151.0 計 151.0
註 記	(a) 推定 尙濠洲、ニューゼーランドを除く各地域は總て輸入を爲す。					

煉 乳

分類	食嗜好品 VIII.....(4)	獨 : Kondensierte Milch 佛 : Lait condense		英 : Condensed Milk 蘭 : Gecondenseerde melk		單位 千 噸
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	(a)4.9 (a)5.0 (a)4.9 (a)4.9		
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	(a)5.8 (a)4.2 (a)4.8 (a)4.8		
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
10	濠 洲	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	81.4 ...	85.2 33.3	ヴィクトリア74%で最も多く、ニューサウスウェールズ16%、其の他10%である。	
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	(a)11.2 (a) 9.3 (a)11.1 (a)10.5	オー克蘭ド州、タラナキ州、ウエリントン州等で造られる。	
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
計	A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	57.1 53.7 55.5 53.5		計 57.1 B 印度及セイロン 53.7 C 印度以下(8—12) 55.5 (8及9)を除く 53.5	計 10.7 計 9.2 計 9.2 計 9.7
註 記	(a) 輸出額、この中には生牛乳もあるが簡易なる罐詰、装置を施したものであるから煉乳中に合算した。					

分類	食嗜好品 VIII.....(四)	獨 : Butter 佛 : Beurre		英 : Butter 蘭 : Boter		單位 千 磅
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
10	澳 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	178.9 195.1 208.0 194.0
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	180.5 168.0 150.3 166.3
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均
計	A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	359.4 363.1 358.3 360.3	計 B 印 度 及 セ イ ロ ン (8 及 9) を 除 く	計 C 印 度 以 下 (8-12) を 除 く	...
註 記						

分類	食嗜好品 VIII.....(四)	獨 : Pfeffer 佛 : Poivre		英 : Pepper 蘭 : Peper		單位 千 磅
		國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —	...		
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	4.1 5.9 4.8 4.9
3	泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.001 0.002 0.007 0.003
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	10.9 7.7 15.4 11.3
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	2.2 3.1 2.9 2.7
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	31.1 54.5 71.4 52.3
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	0.0004 0.0009 0.0020 0.0011
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1.2 0.7 1.2 1.0
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	0.074 0.003 0.004 0.027
10	澳 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — —
計	A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	49.6 71.9 95.7 72.2	計 B 印 度 及 セ イ ロ ン (8 及 9) を 除 く	計 C 印 度 以 下 (8-12) を 除 く	...
註 記						

分類	新 嗜好 品 VIII.....(17)	獨 : Kaffee 佛 : Café		英 : Coffee 蘭 : Koffie		單位 千 噸	
		年 次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1	比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.9 1.0 0.9 0.9	イロコス州、マウンテン州、パンガシナン州に少量の産出がある。			
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	2.6 2.2 2.7 2.5	東京南部—ニンビン州ハナン及フリ、シネ附近。ソントイ地方—ホアビン、ソントイ、ハドン、フト州。北部—タイゲン地方及フロント地方等に産するのであるが、主としてアラビカ種(東京モカと云はれる)である。			
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	ランパーン地方及東南部地方(チャンタブリ・コーヒー)が産地である。氣候條件は適してゐるが、現在産量は殆んど見るべきものがない。			
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	其の栽培は国内の需要をみたすに過ぎない、主として支那人に依つて行はれて居る。			
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	132.0 107.3 107.1 115.5	ジャワ地方(ケデリー、マラン、ベスキ、マツラ、ベカロンガン、スマラン、マデウン)が最も多く、次で、スマトラ(タバヌリ、ベングレーン、パレムバン、ランボン及西海岸アチエ州地方)及セレベス(中央部及メナド附近)に産する。			
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	— — — —				
8	印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	15.9 15.2 16.0 15.7	マイソール(52%)で最も多く産し、次でマドラス(24%)クルルグ(22%)等である。			
9	セ イ ロ ン	昭 9 (1934) 10 (1935) 11 (1936) 以上年平均 0.1 0.1	1934年及1935年の各年産額は50 噸に満たない。			
10	漢 洲	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均 0.003 0.003				
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ンド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均				
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	1.4 1.9 1.9 1.7	現在コーヒー産地約三千ヘクタール栽培箇所五百に達してゐる、品種はロア種で、品質は世界一と云はれてゐる。			
計	A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	152.8 128.4 128.7 136.4	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く	137.5 112.3 112.6 120.6	135.6 110.4 110.7 118.9
註 記							

分類	新 嗜好 品 VIII.....(18)	獨 : Tabak 佛 : Tabac		英 : Tabacco 蘭 : Tabak		單位 千 噸	
		年 次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1	比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	32.2 33.3 35.9 33.8	ルソン島北部カガヤン、イサベラ州ラウニオン、イロコスノルテに栽培される。			
2	印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	14.2 12.3 15.0 13.8	東京、安南、交趾支那、カンボジア、ラオスの各地方に栽培せられ、多くは原住民の消費用である。			
3	泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	7.0 8.0 8.3 7.8	主産地は米作地帯外の西部、北部及東部泰の外廓地帯であり、最も旺なのはメナムチヤオ、プラーヤ及其の支流の上流地方に於ける河岸及洲の肥沃なる沖積土で、パーヤツブ、ピサヌローク、ラーチブリー州に特に栽培される。			
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	... 3.0 ... 3.0	南部地方(ムアー、マラツカ)及北部地方(ペラ)に主として栽培される、デリ種を主に栽培して居るも、近年ヴァージニア種の栽培も行はれてゐる。			
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.1 0.2 0.2 0.2	マルグー海、ダーベル海及キナバタンガン河の流域に栽培される。			
6	東 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	53.9 54.0 51.9 53.3	ジャバ島ベスキ、土侯領、ルマジヤン、ケチリの各地方、外領ではスマトラ東海岸部のデリランカト及セルダンの各地方に栽培せられデリ種は其の品質に於て世界的に有名である。			
7	ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	46.7 44.7 43.1 44.8				
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	503.9 513.1 495.8 504.3	マドラス州のコイソバトール、デインチガル地方ゴダヴァリ河のデルタ地帯、ベンガル州のラングプール地方ビハール州、オリッッサ州及ボンダイ州のグヂャラート地方は主なる栽培地である。			
9	セ イ ロ ン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均				
10	漢 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	2.3 2.7 1.7 2.2				
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ンド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.6 0.7 0.6 0.6				
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均				
計	A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	664.1 602.8 672.8 683.8	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く	160.2 158.9 159.7 159.5	157.3 155.5 157.4 156.7
註 記							

分類	食嗜好品 VIII.....(A)	獨 : Frischer Fisch 英 : Fresh fish 佛 : Poissons frais 蘭 : Versche visch		單位 千 噸
		國 名	年 次	
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	15.0 18.3 19.7 17.7	ボルネオ沿岸を隔ててシタンキーを取巻ける群島とパナイ島に於けるエスタンジャ方面が漁業の中心地である。
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均 (a)410.0	東京灣、北部安南沿岸、南部安南沿岸、タイ灣、東埔寨太湖及河川、メコン及バサツク河口附近。
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均 (a)150.0	メナム、チャオ、プラーヤ河口、タイ灣東岸、タイ灣西岸メークローン、パーンレーム。
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	91.0 88.9 86.4 88.8	馬來半島の東西沿岸及スマトラ、ボルネオ、ジャバ及佛領印度支那半島により圍繞せらるる海面。
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	3.0 3.0 3.7 3.2	サンダカン附近に於て、僅に支那人に依り、小規模に行はる、タワオを中心とする地方には、邦人水産會社があり、主として鹽漁業に従事してゐる。
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均 (a)180.0 (a)180.0	爪哇の北部沿岸、スマトラ東海岸、セレベスのメナド及マカツサルを中心とする海面及其の近海一帯の海である。
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均 (a)130.0	印度國境からラングーン近邊又サルウィン河出口からビクトリヤ群島にかけての海域。
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均 (a)570.0	マラバー沿岸、カラチ附近沿岸地方である。
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	
10	濠 洲	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	27.4 28.3 29.2 28.3	ニューサウスウェールズ(41%)、ヴィクトリア(20%)、クイーンズランド(14%)、サウスオーストラリア(13%)の沿岸地方である。
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	18.4 18.1 18.1 18.2	近海は暖流及寒流の影響に依り、魚類豊富なるに加へて、海岸線長く、且港灣に富む故に沿岸各地に於て、漁業が盛に行はれる。
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	南西部沖合より、濠洲方面に向ひ特に鯨が多い。
計	A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	1,594.8 1,596.6 1,597.1 1,596.2	計 1,024.8 B 印度及セイロン 1,026.6 (8及9)を除く 1,027.1 計 979.0 C 印度以下(8—12) 980.2 を除く 979.8 979.7
		年 平 均	1,596.2	1,026.2
註 記	(a) 推定(最近年間)			

分類	食嗜好品 VIII.....(B)	獨 : Fischkonserve 英 : Canned or tinned fish 佛 : Conserves de poissons 蘭 : Visch in blikken		單位 千 噸
		國 名	年 次	
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均 (a)1.1	ミンダナオ島ザンボアングに日比合弁の鮫罐詰工場がある。
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	
5	北 部 ボ ル ネ オ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	0.7 0.9 1.5 1.0	殆ど邦人企業則チボルネオ水産會社の生産である。 1940年=1.4(千噸)。
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	
10	濠 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	(b)0.2 (b)0.2 (b)0.3 (b)0.2	
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	0.9 0.9	
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	
計	A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	2.9 2.9 3.2 3.2	計 2.9 B 印度及セイロン 2.9 (8及9)を除く 3.2 計 1.8 C 印度以下(8—12) 2.8 を除く 2.1
		年 平 均	3.2	3.2
註 記	(a) 生産年次不詳。 (b) 輸出額(再輸出を除く)。			

分類	食嗜好品 VIII.....(2)	獨 : Fleischkonserven 俾 : Conserves de viandes		英 : Canned or tinned meats & fowls 蘭 : Wesschoin blikken		單位 千 噸
		年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...			
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...			
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...			
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...			
5	北 部 ボルネオ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...			
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...			
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...			
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...			
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...			
10	澳 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	(a)4.2 (a)5.6 (a)6.7 (a)5.5	生産地はクイーンズランド、ヴィクトリア及ニューサウスウェールズの各州である。		
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	5.7 5.0 4.2 5.0			
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	西海岸のメオ、ウワコを中心として發達してゐる。		
計	A 全 域	昭 11 (1936)	9.9	計	9.9	計
		昭 12 (1937)	10.6	B 印度及セイロン	10.6	C 印度以下(8-12)
		昭 13 (1938)	10.9	(8及9を除く)	10.9	を除く
		年 平 均	10.5		10.5	

註 記 (a) 輸出額(再輸出を除く)

分類	食嗜好品 VIII.....(2)	獨 : Obathonserven 俾 : Conserves de fruits		英 : Canned or tinned fruits 蘭 : Vruchten in blikken		單位 千 噸
		年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1	比 律 賓	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	(a) 8.9	オーストラリアに1工場あるが、生産高不明であり、消費額は米國である、その種類は鳳梨、サーデン、タマリンド、番石榴ゼリー等である。	
2	印 度 支 那	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	(b) 0.6 (d) 0.5 (a) 0.4 (a) 0.5	前年に2工場あるが小規模で振れない状態である。その種類は鳳梨、番石榴ゼリー、バナナゼリーで、年四百両位の生産がある、消費地は地方及び本國である。		
3	泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	曾つて工場があつた記録はあるが現在は無い。		
4	馬 來	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	(a) 86.0 (a) 86.0	シンガポールに7工場、ジャバに7工場、クランに1工場、計15工場ある。種類は鳳梨で英米國、カナダ、印度、佛國へ輸出される。	
5	北 部 ボルネオ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...	マラヤに1工場があるが詳細不明である。		
6	東 印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	(a) 0.8 (a) 0.3 (a) 0.3	ジャバを最大として5工場ある。年生産額は千両未満である。 1940年=0.4(千両)(輸出額)		
7	ビ ル マ	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...			
8	印 度	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...			
9	セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...			
10	澳 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	...	71.5 71.5	工場数12(1938年現在)内ビクトリア46工場、ニューサウスウェールズ30工場、南オーストラリア15、クイーンズランド13、其の他17工場である。	
11	ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	...	9.1 1.5 1.7 1.8	工場数19、年産額133千両、使用果實約6千両である、尙1938年度562千両の果實製品があつた。	
12	ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	...			
計	A 全 域	昭 12 (1937)	168.8	計	168.8	計
		昭 13 (1938)	168.9	B 印度及セイロン	168.9	C 印度以下(8-12)
		昭 14 (1939)	168.8	(8及9を除く)	168.8	を除く
		年 平 均	169.0		169.0	

註 記 (a) 輸出額 (b) 推定生産高

分類	家畜 IX (1)		獨 : Rindvieh 佛 : Boeuf(Vache)		英 : Cattle 蘭 : Rund		單位 千 頭
	國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比	1 比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	1,534.8 1,612.1 1,721.6 1,622.8	主としてミンダナオ島ブキトノン州に飼養される。			
2 印	2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	2,200.0 2,250.0 2,380.0 2,276.7	カンボジア平原及山麓地方に 600 千頭、東京地方に 650 千頭、安南地方に 400 千頭、交趾支那に 300 千頭、ラオスに 300 千頭飼育される、特にカンボジアの牛が最優良である。			
3 泰	3 泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	5,411.7 5,618.0 5,711.7 5,580.5	ナコンラーチシマー、ウドーン、ラーチブリー及パーヤップ州が多い。			
4 馬	4 馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	325.8 312.9 317.5 318.7	主にケダー、ケランタン及トレンガヌ地方に飼育される。			
5 北	5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	27.3 27.2 27.4 27.3	中部及西海岸地方に多く飼養され、サンダカン、タワオ地方がこれに次いで多い。			
6 東	6 東 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	4,402.0 4,413.6 4,463.4 4,426.3	爪哇及マダラ最も多く約 70 % を占め、小スンダ列島 12 %、スマトラ 9.5 %、セレベス 8 %、ボルネオは僅に 0.7 % に過ぎない。 1939年=4,576.6 1940年=4,599.2(千頭)			
7 ビ	7 ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	5,096.7 5,162.5 5,193.8 5,151.0	サガイン地方(1,084 千頭)、マダラ(950 千頭)、マンダレイ(884 千頭)、イラワジ(705 千頭)、ベダー(689 千頭)、テナセリム(461 千頭)、アラカン(418 千頭)の諸地方に飼育される。			
8 印	8 印 度	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	161,370.4 160,220.0 160,510.8 160,700.4	中南部、パンジャブ及ラージプターナ地方に飼育される。			
9 セ	9 セ イ ロ ン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	1,121.6 1,086.8 1,127.1 1,111.8				
10 濠	10 濠 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	13,491.1 13,078.4 12,861.8 13,143.8	東及南部海岸地方及び瀋滬地方は主として乳牛を飼養し、クインズランド、ノーザンテリトリー、西オーストラリアのキムバレ地方は主として肉牛を飼養し最上質として推奨される。			
11 ニ	11 ニ ュ ー ジ ー ラ ンド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	4,389.1 4,506.1 4,565.0 4,485.7	ウエリントン、ノースオークランド、オークランド及タラナキ地方に飼養される。 1940年 = 4,533(千頭)			
12 ニ	12 ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	113.3 98.9 102.7 105.0	北及西海岸一帯に飼育される。			
計 A	計 A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	198,819.0 198,564.1 198,923.9 198,951.0	計 36,977.4 B 印度及セイロン (8及9)を除く 37,138.8	計 18,998.3 C 印度以下(8-12) を除く 19,815.4 19,403.3		
注	注 記	(a) 驢馬を含む。					

分類	家畜 IX (2)		獨 : Pferd 佛 : Chevaux		英 : Horse 蘭 : Paard		單位 千 頭
	國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考			
1 比	1 比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	(a) 420.9 (a) 473.0 (a) 505.0 (a) 466.3	パタガス州、マニラ州、パンガシナン州、アブラ州、セブ州、オリエンタル・ネグロス州の各地方が特に多く飼育される。			
2 印	2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	100.0 100.0 110.0 103.3	カンボジアの平原及山麓地方に主として飼養され、カンボジアに 38 千頭、東京に 25 千頭、交趾支那に 15 千頭飼育される(1937年)。			
3 泰	3 泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	360.1 374.2 385.6 373.3	東部タイ、ナコンラーチシマー、ウドーン地方に約 20 萬頭、中部タイ特にアユタヤー、ピサヌローク、プラチンブリーに約 10 萬頭飼養される。當國産馬は 4 尺内外の小馬で駄馬として用ひられる。			
4 馬	4 馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	0.8 0.7 0.8 0.8	飼育頭数は極めて少く主として駄馬及乗馬等娛樂用である。			
5 北	5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	2.5 2.3 2.1 2.3	テムバスワタ及ババー地方に於ては大規模に飼育される。			
6 東	6 東 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	656.0 671.0 693.5 673.5	中部ジャバ地方に特に多く飼育される。 1939年=703.9 1940年=711.5(千頭)			
7 ビ	7 ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	54.4 51.8 49.1 51.8	サガイン(約 10 千頭)、マンダレイ(約 8 千頭)、マダラ(約 8 千頭)、テナセリム(約 4 千頭)、ベダー(約 5 千頭)、イラワジ(約 3 千頭)、アラカン(約 0.4 千頭)の各地方に飼育される。			
8 印	8 印 度	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	2,978.9 2,380.5 2,389.9 2,381.1	乗用馬の産地はバルチスタン、シンド、ボンベイの諸州で、就中ボンベイ州のカティアワール地方は古來著名の馬産地である。			
9 セ	9 セ イ ロ ン	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1.3 1.3 1.3 1.3				
10 濠	10 濠 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	1,762.7 1,746.5 1,741.8 1,750.3	ニューサウスウェールズ州に主として飼育され、ヴィクトリア州、クイーンズランド州これに次ぎ飼養される。			
11 ニ	11 ニ ュ ー ジ ー ラ ンド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	277.8 278.2 274.8 276.9	オークランド最も多く 47 千頭、カンタバリ 45 千頭、ウエリントン 37 千頭。 1940年 = 271.5 千頭、			
12 ニ	12 ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	10.9 11.1 11.1 10.9				
計 A	計 A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	6,028.1 6,098.6 6,162.3 6,091.8	計 3,646.3 B 印度及セイロン (8及9)を除く 3,709.4	計 1,594.7 C 印度以下(8-12) を除く 1,746.0 1,671.3		
注	注 記	(a) 驢馬を含む。					

豚 (現在頭数)

分類 IX (3)	畜種	獨 : Schwein 佛 : Porc	英 : Pig 蘭 : Varken	單位 千 頭
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	3,126.3 3,429.9 3,558.3 3,371.5	群島内到处に放し飼ひにされてゐる。	
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	3,700.0 4,200.0 5,000.0 4,300.0	東京(約1,500千頭)最も多く安南、カンボヂヤ、交趾支那、ラオス地方これに次いで多い。	
3 泰 (a)	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均 1,000.0	到る所の農家に飼育される、特に東部タイの豚は良質である、ナコンシリタマラート、バンコック、ブーケット、パタニーに集められ、主としてシンガポールに輸出される。(1933—35年平均年約6万頭の輸出を見た)。	
4 馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	715.7 707.1 830.2 751.0	ベラ、セラシゴール、ジョホール、シンガポールに大飼育場がある、主として支那人の需要である。	
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	56.8 63.5 57.5 59.3	西海岸地方最も多く、中部、タワオ、サンダカン地方が次いで多い、年々相當数がシンガポール、サラワク、蘭領ボルネオへ輸出される。	
6 東 印 度	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	1,131.4 1,131.4	宗教上の關係より普及されてゐない、集約的によく飼育されてゐるのはバリ島である。 1940年=1,267.3(千頭)	
7 ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	539.5 519.8 529.7 530.0	ヤガイン地方最も多く32%を占め、次いでイラワジ地方15%これに次ぎ、マダエ、テナセリム、ベダー、マンダレイ、アラカンの諸地方に飼養される。	
8 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	相當數飼育されて居る模様であるが宗教的に基因し、確實なる数字は不明である。	
9 セ イ ロ ン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	37.3 36.9 36.7 37.0		
10 澳 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1,202.8 1,400.1 1,154.1 1,152.3	ヴィクトリア州、タスマニア州及ニューサウスウェルズ州に特に盛んに飼育される。	
11 ニ ュ ー ジ ー ラ ンド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	802.4 756.6 683.5 747.5	オータランド最も多く35%を飼養し、ノースオータランドこれに次いで多い。 1940年=714(千頭)。	
12 ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	9.7 10.5 11.5 10.6	北及西部海岸の草原山麓地帯一帯に飼養される。	
計 A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	12,322.7 13,105.3 14,012.0 13,090.6	計 B 印度及セイロン (8及9)ヲ除ク	計 C 印度以下(8—12) ヲ除ク
計			12,285.4 13,068.4 13,975.3 13,053.6	10,269.7 11,051.7 12,107.1 11,143.2

註 記 (a) 年度不詳、推定頭数。

羊 (現在頭数)

分類 IX (4)	畜種	獨 : Schaf 佛 : Mouton	英 : Sheep 蘭 : Schaap	單位 千 頭
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考	
1 比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	151.5 165.5 169.3 162.1	イロコス州及マウンテン州に多く飼養される。	
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	17.5 17.5 17.5 17.5	安南地方最も多く7.8千頭(1937年)を數へ、交趾支那に5千頭、東京に4千頭、ラオスに0.5千頭、カンボヂヤに0.34千頭が飼養される。	
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均		
4 馬 來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	36.7 33.2 29.3 33.1	パハン及ケダー州の東海岸地方は種羊及山羊飼育に好適とされてゐる。	
5 北 部 ボ ル ネ オ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均 0.1 0.1		
6 東 印 度	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	1,337.1 1,337.1	ジャバに最も多く飼育され、スマトラ、チモール、セレベス、バリ、ロムボタ、ボルネオこれに次いでゐる。 1940年=1,891.2(千頭)	
7 ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	77.4 77.1 81.7 78.7	マンダレイ、マダエの兩地方で約88%飼育され、サガイン、アラカン、テナセリム、ベダー、及イラワジの各地方でも飼育される。	
8 印 度	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	42,021.7 42,002.2 41,963.6 42,215.8	マドラス州、中央州、ベラール地方に飼育される。	
9 セ イ ロ ン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	55.5 60.5 62.5 59.5		
10 澳 洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	110,242.7 113,372.5 111,057.8 111,557.7	オーストラリアアルプス山脈の大分水嶺の北面及西北斜面、大嶺井盆地、東部山脈西部斜面、タスマニア西部、東北部地方、南オーストラリア南東海岸地方、西オーストラリア、サバナ地方、北西海岸斜面及南西地方に飼育される。	
11 ニ ュ ー ジ ー ラ ンド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	31,305.8 32,378.8 31,897.1 31,860.6	ウェリントン地方最も多く6,525千頭、カンタバリ地方5,225千頭之に次ぎ、兩地方で約30%を占めてゐる。 1940年=31,062(千頭)	
12 ニ ュ ー カ レ ド ニ ア	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	5.1 6.1 5.1 5.4	北及西部海岸の草原山麓地帯一帯に飼養される。	
計 A 全 域	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年 平 均	185,208.2 189,417.5 186,621.1 187,327.6	計 B 印度及セイロン (8及9)ヲ除ク	計 C 印度以下(8—12) ヲ除ク
計			143,184.1 147,391.4 144,595.0 145,052.3	1,630.5 1,635.0 1,635.0 1,628.6

註 記

豚 (現在頭数)

分類	家畜	獨	英	佛	單位
	IX (3)	Schwein	Pig	Porc	千頭
				Varken	
國名	年次	生産高	主要生産地—其他備考		
1 比律賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	3,126.3 3,499.9 3,558.9 3,371.5	群島内到處所に放し飼ひにされてゐる。		
2 印度支那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	3,700.0 4,200.0 5,000.0 4,300.0	東京(約1,500千頭)最も多く安南、カンボヂヤ、交趾支那、ラオス地方これに次いで多い。		
3 泰 (a)	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均 1,000.0	到る所の農家に飼育される、特に東部タイの豚は良質である、ナコンシリタマラート、パンコック、ブーケット、パタニーに集められ、主としてシンガポールに輸出される。(1933—35年平均年約6万頭の輸出を見た)。		
4 馬來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	715.7 707.1 890.2 751.0	ペラ、セランゴール、ジョホール、シンガポールに大飼育場がある、主として支那人の需要である。		
5 北ボルネオ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	56.8 63.5 57.5 59.3	西海岸地方最も多く、中部、タワオ、サンダカン地方が次いで多い、年々相當数がシンガポール、サラワク、蘭領ボルネオへ輸出される。		
6 東印度	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	1,181.4 1,131.4	宗教上の關係より普及されてゐない、集約的によく飼育されてゐるのはバリ島である。 1940年 = 1,267.3 (千頭)		
7 ビルマ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	539.5 519.8 529.7 530.0	サガイン地方最も多く 32% を占め、次いでイラワジ地方 15% これに次ぎ、マダエ、テナセリム、ベダー、マンダレイ、アラカンの諸地方に飼養される。		
8 印度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	相當數飼育されて居る模様であるが宗教的に基因し、確實なる数字は不明である。		
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	37.3 36.9 36.7 37.0			
10 濠洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	1,202.8 1,100.1 1,154.1 1,152.3	ヴィクトリア州、タスマニア州及ニューサウスウェルズ州に特に盛んに飼育される。		
11 ニュージーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	802.4 756.6 683.5 747.5	オークランド最も多く 35% を飼養し、ノースオークランドこれに次いで多い。 1940年 = 714 (千頭)。		
12 ニューカレドニア	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	9.7 10.5 11.5 10.6	北及西部海岸の草原並山麓地帯一帯に飼養される。		
計 A 全球	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年平均	12,822.7 13,105.3 14,012.0 13,090.6	計 B 印度及セイロン (8 及 9)ヲ除ク	計 C 印度以下(8—12) ヲ除ク	10,269.7 11,051.7 12,107.1 11,143.2
註記	(a) 年度不詳、推定頭数。				

羊 (現在頭数)

分類	家畜	獨	英	佛	單位
	IX (4)	Schaf	Sheep	Mouton	千頭
				Schaap	
國名	年次	生産高	主要生産地—其他備考		
1 比律賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	151.5 165.5 169.3 162.1	イロコス州及マウンテン州に多く飼養される。		
2 印度支那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	17.5 17.5 17.5 17.5	安南地方最も多く、7.8 千頭(1937年)を數へ、交趾支那に 5 千頭、東京に 4 千頭、ラオスに 0.5 千頭、カンボヂヤに 0.24 千頭が飼養される。		
3 泰	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均			
4 馬來	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	36.7 33.2 29.3 33.1	パハン及ケダ州の東海岸地方は種羊及山羊飼育に好適とされてゐる。		
5 北ボルネオ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均 0.1			
6 東印度	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	1,337.1 1,337.1	ジャバに最も多く飼育され、スマトラ、チモール、セレベス、バリ、ロムボク、ボルネオこれに次いでゐる。 1940年 = 1,801.2 (千頭)		
7 ビルマ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	77.4 77.1 81.7 78.7	マンダレイ、マダエの兩地方で約 38% 飼育され、サガイン、アラカン、テナセリム、ベダー、及イラワジの各地方でも飼育される。		
8 印度	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	42,621.7 42,062.2 41,063.6 42,215.8	マドラス州、中央州、ベタル地方に飼育される。		
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	55.5 60.5 62.5 59.5			
10 濠洲	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	110,242.7 113,372.5 111,057.8 111,557.7	オーストラリアアルダス山脈の大分水嶺の北面及西北斜面、大鐵井盆地、東部山脈西部斜面、タスマニア西部、東北部地方、南オーストラリア南東海岸地方、西オーストラリア、サバナ地方、北西海岸斜面及南西地方に飼育される。		
11 ニュージーランド	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 以上年平均	31,305.8 32,378.8 31,897.1 31,860.6	ウエリントン地方最も多く 6,525 千頭、カンタベリー地方 5,225 千頭之に次ぎ、兩地方で約 30% を占めてゐる。 1940年 = 31,062 (千頭)		
12 ニューカレドニア	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	5.1 6.1 5.1 5.4	北及西部海岸の草原及山麓地帯一帯に飼養される。		
計 A 全球	昭 12 (1937) 13 (1938) 14 (1939) 年平均	185,208.2 189,417.5 186,621.1 187,327.6	計 B 印度及セイロン (8 及 9)ヲ除ク	計 C 印度以下(8—12) ヲ除ク	143,184.1 147,391.4 144,595.0 145,052.3
註記					

分類	家畜	獨 : Buffet	英 : Buffalo	單位 千 頭	
	IX (5)	佛 : Buffle	蘭 : Karbouw, buffel		
國 名	年 次	生産高	主要生産地—其の他備考		
1 比 律 賓	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	2,301.9 2,464.9 2,607.8 2,458.0	到る所に飼育され、農民の最重要家畜である。		
2 印 度 支 那	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	2,300.0 2,300.0 2,250.0 2,283.3	カンボジアが特に多く1,200千頭、安南に500千頭、ラオスに250千頭、 東京に200千頭、交趾支那に150千頭(1937年)飼養される。		
3 泰	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	5,222.9 5,533.5 5,551.2 5,435.9	コーラート高原及北部タイ地方に飼育される。		
4 馬 来	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	210.6 220.1 229.2 223.0	ケデー(26.8%)、トレンガヌ(17.0%)、ケランタン(17.0%)等が多い。		
5 北 部 ポ ル ネ オ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	55.3 55.2 57.1 55.9	西海岸に多く飼育される。		
6 東 印 度	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	3,212.0 3,197.0 3,199.9 3,203.0	自然環境及農耕状態、特に降水量灌漑状況の關係に依り、外領に多く飼 育される。 1939年=3,246.9 1940年=3,176.1(千頭)		
7 ビ ル マ	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	1,015.7 1,017.8 1,021.0 1,018.2	サガイン、アラガン、テナセリム、ベグー、イラワヂの諸地方に飼育され る。		
8 印 度	昭 10 (1935) 11 (1936) 12 (1937) 以上年平均	45,160.9 44,921.2 44,915.9 44,999.3	ベンガル、ビハール、オリッサ、マドラスの各地方に飼養され、耕作に使 用される。		
9 セイロン	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	522.6 516.7 543.3 527.5			
10 濠 洲	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —			
11 ニュージーランド	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —			
12 ニュージーランド カレドニア	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 以上年平均	— — — —			
計 A 全 域	昭 11 (1936) 12 (1937) 13 (1938) 年 平 均	59,770.6 60,221.1 60,375.4 60,204.1	計 B 印度及セイロン (8及9)を除く	計 C 印度以下(8—12) を除く	14,326.8 14,788.5 14,916.2 14,677.3
註 記					

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 1564

8 May 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT.

Title and Nature: Comprehensive List of the Resources of the Southern Area, published by the Planning Board

Date: May 42 Original Copy Language: Japanese

Has it been translated? Yes No
Has it been photostated? Yes No

LOCATION OF ORIGINAL (also WITNESS if applicable) as of:

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: ?

PERSONS IMPLICATED: HOSHINO, Naoki

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Preparation for aggressive war.

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references):

A collection of figures on iron and other metals, mineral fuels, etc. in the "Southern Areas," which include the Philippines, French Indo-China, Thailand, Malay Penn., N. Borneo, N.E.I., Burma, India, Ceylon, Australia, New Zealand and New Caledonia.

These figures are based on investigations prior to the war. This book was published by the Cabinet Planning Board in May of 1942.

A translation of the table of contents is attached to the document.

Analyst: 2nd Lt. Wilds

Doc. No. 1564

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. *156*

Date 3 May 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT.

Title and Nature: *Comprehensive List of the Resources of the Southern Area, published by the planning board*

Date: *MAY, 1942* Original Copy () Language: *Japanese*

Has it been translated? Yes () No

Has it been photostated? Yes () No

LOCATION OF ORIGINAL (also WITNESS if applicable) as of _____:

Document Section

SOURCE OF ORIGINAL: *?*

PERSONS IMPLICATED:

HOSHINO Naoki

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

Reparation for aggressive war

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references):

A collection of figures on iron and other metals, minerals, fuels, etc. in the "Southern Area", which include the Phillipines, French Indo-China, Thailand, Malay Penn., N. Borneo, N.E.I., Burma, India, Ceylon, Australia, New Zealand, ^{and} New Caledonia.

These figures are based on investigation

Analyst *2nd Lt Wilds*

Doc. No. *156*

WJW

1.
tions prior to the war. This book was published
~~by~~ by the Cabinet Planning Board in May of 1942.
A translation of the Table of Contents is
attached.

1564

Proj. No.
S. A. No. 15078
Sack No.
Item No. 1

Translator MITANI, KENICHI.

Title: Comprehensive list of materials in the
South countries.

The Planning Board.

Date: May, 1942.

Explanations. (extraction.)

1. We surveyed the outputs prior to the Pacific War of important materials in the South regions, and by collecting and arranging them, we finished this data.
2. The South regions involve the following 12 regions.
 - (1) Philippines.
 - (2) French Indo China.
 - (3) Thailand (Siam.)
 - (4) Malay Peninsula.
 - (5) North Borneo.
 - (6) East India (Netherlands India.)
 - (7) Burma.
 - (8) India.

(9) Ceylon,

(10) Australia,

(11) New Zealand,

(12) New Caledonia.

3. We selected and surveyed 88 materials.

Contents. (88 articles.)

I Irons.

- | | | | |
|-----------------|-----|--------------------------|-----|
| ① Iron ore. | P.1 | ② Pig-iron. | P.2 |
| ③ Steel Ingots. | P.3 | ④ Rolled Steel Products. | P.4 |

II Non-iron minerals

- | | | | |
|-------------------------------|------|-----------------|------|
| ① Manganese ore. | P.5 | ② Chrome ore. | P.6 |
| ③ Nickel ore. | P.7 | ④ Bandite. | P.8 |
| ⑤ Tungsten ore. | P.9 | ⑥ Molybden ore. | P.10 |
| ⑦ Cobalt. | P.11 | ⑧ Antimony ore. | P.12 |
| ⑨ Tin ore. | P.13 | ⑩ Tin. | P.14 |
| ⑪ Copper ore. | P.15 | ⑫ Copper. | P.16 |
| ⑬ Lead ore. | P.17 | ⑭ Lead. | P.18 |
| ⑮ Zinc ore. | P.19 | ⑯ Zinc. | P.20 |
| ⑰ Platinum and allied metals. | P.21 | ⑱ Mercury. | P.22 |

III Non-metallic minerals.

- | | | | |
|---------------|------|-------------|------|
| ① Fluorspar. | P.23 | ② Sulphur. | P.24 |
| ③ Black lead. | P.25 | ④ Asbestos. | P.26 |

① Mica, P.27 ⑥ Diamond, P.28

⑦ Phosphate rock and Apatite, P.29

IV. Fuel and hydroelectric power.

① Coal, P.30 ② Crude petroleum, P.31

③ Benzine, P.32 ④ Aviation gasoline, P.33

⑤ Lamp-oil, P.34 ⑥ Fuel-oil, P.35

⑦ Machine-oil, P.36 ⑧ Hydroelectric power, P.37

V. Fibres.

① Wool, P.38 ② Cotton, P.39

③ Jute, P.40 ④ Manila hemp, P.41

⑤ Kapok, P.42 ⑥ Cotton thread, P.43

VI. Raw gum, hides and timber.

① Rubber (crude), P.44 ② Oxhide, P.45

③ Water-buffalo's hide, P.46 ④ Timber, P.47

⑤ Teak, P.48

VII. Materials for industry and chemistry.

① Cement, P.49 ② Alcohol, P.50

③ Cotton seed, P.51 ④ Castor oil plant, P.52

⑤ Castor oil, P.53 ⑥ Copra, P.54

⑦ Coconut oil, P.55 ⑧ Palm oil, P.56

⑨ Palm kernel oil, P.57 ⑩ Tallow, P.58

⑪ Tannin material, P.59 ⑫ Cinchona bark, P.60

⑬ Derris, P.61

VIII Food and luxury.

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| ① Rice (white.) P. 62 | ② Wheat P. 63 |
| ③ Flour. P. 64 | ④ Potato. P. 65 |
| ⑤ Indian corn. P. 66 | ⑥ Tapioca. P. 67 |
| ⑦ Soya bean. P. 68 | ⑧ Pea-nut. P. 69 |
| ⑨ Sesame. P. 70 | ⑩ Table salt. P. 71 |
| ⑪ Sugar P. 72 | ⑫ Meats. P. 73 |
| ⑬ Milk. P. 74 | ⑭ Condensed milk. P. 75 |
| ⑮ Butter. P. 76 | ⑯ Pepper. P. 77 |
| ⑰ Coffee. P. 78 | ⑱ Tobacco. P. 79 |
| ⑲ Fresh fish. P. 80 | ⑳ Tinned fish. P. 81 |
| ㉑ Tinned meats P. 82 | ㉒ Tinned fruits. P. 83 |

IX Domestic animals.

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| ① Cattle. P. 84. | ② Horse. P. 85. |
| ③ Pig. P. 86. | ④ Sheep. P. 87. |
| ⑤ Water buffalo. P. 88. | |

This list forms an important data to investigate how the Planning Board estimated the materials in the South countries immediately after the outbreak of the Pacific War.